ぼっけ生きもの倶楽部
令和4（2022）年度事業報告書

令和5年6月

令和3年度事業報告書
目次

I. 基本方針　p5

II. はじめに　p6

III.調査・撮影・測定　p7

1 植物調査

1.1　調査方法

1.2　調査結果

(1)　植物相調査

(2)　コドラード調査

(3)　環境省レッドデータリストに含まれる種

(4)　特定外来種

1.3　植物カレンダー

2 鳥類調査

2.1　調査方法

2.2　調査結果

(1)　野鳥リスト更新

(2)　鳥類繁殖

(3)　野鳥飛来初認日表

2.3　鳥類について

2 昆虫調査

3.1　調査方法

3.2　調査結果

(1)　チョウトンボ

(2)　蜂の家(ツチバチ類の誘致用巣箱)

(3)　自然誌研究会主催の児童昆虫観察室について

(4)　甲虫目、半翅目

4 両生・爬虫類調査

4.1　調査方法

4.2　調査結果

(1)　両生類調査結果

(2)　爬虫類調査結果

5 哺乳類調査

5.1　調査方法

5.2　調査結果

6 魚・貝類調査

6.1　調査方法

6.2　調査結果

6.3　考察

7 定点撮影記録

7.1　撮影方法

7.2　撮影結果

8 湧水量・地下水位測定

8.1　測定方法

8.2　測定結果

(1)　湧水量測定結果

(2)　地下水位測定結果

8.3　考察

IV. 環境保全活動　p15

1 令和5年度草刈り要望図面提出

2 市管理区域の草刈り・植生撤去・日干し・剪定

2.1 はじめに

2.2 草刈り図面

2.3 草刈り

2.4 草刈り管理資料

2.5 市と委託業者とぼっけ生きもの倶楽部での現地確認会　無し

2.6 植生撤去

2.7 日干し

2.8 草刈り範囲、留意事項、スケジュール管理について

2.9 外来種ライギョ等の駆除

2.10　剪定

2.11　萌芽更新

3 県管理区域の草刈り

3.1　草刈り実施内容

3.2　課題

3.3　浮島の状況

3.4　草刈り計画

4 渇水対策
5 外来生物駆除活動
5.1 植物編
5.2 ミシシッピーアカミミガメ・ライギョ駆除
6 藪蚊対策
7 説明看板更新、貼付資料更新
8 棚池番号看板、掲示板、樹木名板保守点検
9 西 PP・北部広場の草刈り・剪定など

V. 情報の共有化 p23

VI. 事業 p23

1 新規事業
1.1 イトモ保全のためのイトモ池の設置
1.2 「カエル」お助事業

2 希少種保全・再生事業（継続案件）
2.1 タタラカンガレイ保全
2.2 アサザ・ガガブタ保全
2.3 ツツイトモ保全
2.4 ジョウロウスゲ・サジオモダカ保全
2.5 カタシャジクモ保全

3 市川市市民活動団体事業補助金による事業
4 埋土種による在来植物の復元

VI. 啓発活動 p26
1. ビジターセンターでの情報発信
2. 市川市役所のHPに事業報告書掲載

VII. 支援活動 p27

VIII. 行事 p27
1. 市川市主催の行事への参加

IX. 活動記録（入園日誌） p27

資料編 p27

I. 基本方針

大柏川第一調節池緑地は、市民と行政の協働のもとに、治水施設に加え、下記に示す水辺の自然を活かした「自然環境創造型の調節池」として整備されました。

1 洪水被害を軽減します。
- ✧ 真間川流域の総合治水対策の一環として、適正な貯水容量の確保を第一の目的とします。
- ✧ 日頃から、洪水時の水の怖さや、その対策を知り、水防の意識を高められる場を目指します。

2 水と緑の財産を次世代に残します。
- ✧ かつての大柏川流域における自然空間を保全・復元し、水と緑の財産を次世代へ残すことを目的とします。
- ✧ 谷底低地の多様な水辺を復元し、人にとっても動植物にとってもよい空間とします。

3 自然にふれる場所とし豊かな自然観を育みます。
- ✧ 安全で親しみやすい水辺で、子供から大人までが生き物にふれ、豊かな自然観を育むことを目的とします。
- ✧ 様々な生き物が生活していける空間を創造し、地域の自然や水循環の大切さ、人と自然の共生について学べる環境学習の場とします。

4 気持のよい安らぎの空間を提供します。
- ✧ 自然を楽しむことのできる、静かで気持のよい安らぎの空間を提供することを目的とします。
- ✧ かつての自然環境や風景を時間をかけて復元し、四季を楽しみながら散策や観賞できるよう図ります。

5 地域意識のつながりや文化の継承に寄与します。
- ✧ 自然と文化を一つのものとして考え、里づくり、ふるさとを意識した人の集う場所を創造することを目的とします。
- ✧ 地域の伝統文化等の継承を目指します。

この大柏川第一調節池緑地は、一般の公園と異なり、この場所での主役は決して人ではなく生物となっているのが大きな特徴であり、その利用方法は、下記のように指定されております。

1. 真間川流域の総合治水対策を理解する場として利用します。
   - ✧ 総合治水や水防意識の啓発に関する説明・案内板を設け展示等します。
   - ✧ 地域に根ざした動植物を保護する場として利用します。
   - ✧ 地域の生態系に配慮し、貴重な湿地の自然が残るよう整備します。
2. 子供も大人も動植物にふれあい、自然体験できる場として利用します。
   - ✧ 調節池の中に、動植物とのふれあいを目的とした浅い池を設けています。
   - ✧ 掘削しない場所に、人が憩える北部広場を設けています。
3. 子供達の環境学習の場として利用します。
   - ✧ 小中学校の環境学習や総合学習の場として活用できるよう、自然を観察できる場などを設けています。
4. 外周道路は遊歩道として利用します。
   - ✧ 自然環境や景観に配慮し、散歩道として親しまれる道路を設けています。
5. ビジターセンターは、多目的集会室やレクチヤールームとして利用します。

（北方遊水池の会　2004年度報告書より）

市川市市政戦略会議（平成 23 年 11 月 15 日）において、大柏川第一調節池緑地の特徴についての啓発不足、来園者について、水と緑の部長から下記の発言がなされている。

① 所管課としてはなぜ利用が一定の範囲に限られていると考えているか。

回答

まず、**市民団体や地元、県、市で検討し、調節池内の自然環境創造型施設として整備してきた経緯がある。PRの不足**や地域性、交通手段の問題もあったと思うが、自然環境創造の概念を固守したため多様なイベントに利用されなかったということが、市民の認知度や興味の不足につながった部分があった。

② いわゆる自然を愛でる人を多く呼びたいのか、それとも元々の趣旨から離れたいわゆる一般の市民ももっと多く来てもらっていいのか。

回答

やはり**自然環境の保全・復元が目的ということから、基本的には自然環境への理解・興味がある人を呼び込みたいと考えている。その上で、一般の人が来ることで目的を理解してもらって利用者が増えることは歓迎するし、そのように仕向けていきたい。**

II. はじめに

協定書に従って、令和5年度大柏川第一調節池緑地の維持管理についての要望事項と令和5年度計画表を提出した。

詳細は、下記の資料を参照下さい。

資料 II 1 令和4年度計画表

資料 II 2 令和4年度大柏川第一調節池の自然環境保全についての提案書

今年度の特記事項を下記の通りである。

① 調査・撮影・測定活動

ぼっけ生きもの倶楽部の調査・撮影・測定は、計画通り実施できた。

専門員の鳥類、バッタ類・トンボ類などの調査結果を、市の啓発活動としての公開をお願いしたが、開示されなかった。

専門員の観察会か、又は自然誌研究会主催の児童昆虫観察室では、樹液を出して昆虫を採取する目的のためか、外周路の樹木7本の樹皮を削り取っていた。このような事態に対しての市の対処などを問うたが回答はなかった。

② 環境保全

生物多様性を考慮した自然環境保全について、開園時から模索しながら、年間草刈り方法、図面管理などを蓄積してきた。しかし、ここ 5 年間にわたり業務の引継ぎが十分されていない結果、今年度末においても、草刈り経過を記録した諸図面の作成ができていなかった。

早急に立て直しをする必要がある。

③ 啓発

ぼっけ生きもの倶楽部が毎年度発行している事業報告書を、市の HP へ載せたいとの依頼があり承諾した。記載内容については、市で照査された後に HP へアップされてきた。また、ビジターセンターへの配架と、市川市中央図書館及び、中央図書館へ贈呈してきた。

しかし、今年度は、全報告書がビジターセンターでの配架がされなかったこと、書面で「令和2年度及び、3年度分の公開一時停止」の通達があった。引継ぎが全くされていないため、市がや

るべき事をやっていないことが判明した。後日、今までの手順を踏んで対応するよう申し出る準備をしている。

④　入園者の安全対応、

・　６月１９日、西ポケットパークの踊り場で入園が倒れた。丁度ぼっけ生きもの倶楽部会員が居合わせていたので救急車を呼んだ。その後、ビジターセンターへ連絡をとったが、職員は出てこなかった。3名体制であったと聞いたが、当日開催の行事に出払ったようである。幸いシルバーさんの連絡先を知っていたので、救急車を西門から入るように、道案内をして貰った。

その後も、残念ながら、日曜日は、職員不在の日が多く見られ、改善の様子が見られなかった。今後このような事がないように、不慮の事故に対する対応、体制の見直しなど望まれる。

・　項目①で述べた行事では、外周路脇の樹木に飛来したスズメバチ類を長期間、入園者を観察するように誘導していた。行事後に立入禁止区域を設定していたが、通常行っているように、危険生物発見時は、入園者の安全対策として、速やかに立入禁止区域を設けるべきであろう。

・　虫捕りイベントが立入禁止区域内で行われた。立入禁止区域は、生息環境整備ゾーンであり、急斜面箇所などの危険な箇所がある。許可した理由について市は「利用申請書の提出を受け、確認者を発行」との的外れの回答があった。これでは誰でもいつでも申請すれば立入禁止内に入れることとなる。この緑地の基本的な概念を理解せずに管理していることは残念である。実施日が9月であれば、シギ類の飛来時期になる。整備エリアで行う理由が無い。

III. 調査・撮影・測定

1. 植物調査

前年度と同様に外周路より棚池側において植物調査行い、植物相・群落組成表を作成した。

1.1 調査方法

外周路より棚池側における全域を踏査により、植物相調査を行った。またコドラート法により群落組成調査を行った。コドラード設置位置は図 1.1 コドラード設置箇所図の通りである。

1.2 調査結果

(1) 植物相調査

今年度は新たにアザミが確認され、これまでの確認種は全44 科 180 種となった、昨年確認したオオアカバナは今年度も確認された。

2-②の水辺にアサザ、ガガブタの生育が確認できたが、これは植付けを行う際、ガマ、ヨシ等の根を除去した後、植え付けることが効果的であると思われた。

外来種であるウチワゼニクサは、駆除を継続しているが繁殖が確認されている。

確認種は表 1-1 植物相一覧 2022 を参照して下さい。



オオアカバナ



根付いたアサザ

(2) コドラード調査法

調査結果については、表 1-2 群落組成表 2022 を参照下さい。

(3) 環境省レッドデータリストに含まれる種

調査結果を表 1-3 環境省レッドデータリストに含まれる種に記す。

シランは準絶滅危惧(NT)であるが、白花の個体も多く、近隣住宅庭園から逸脱した園芸種と考えられる、適宜除去を継続しているが、棚池周辺で繁殖が著しく容易に確認される状況である。

ガマ、ヨシ等の抽水植物を除去し池底が明るくなった箇所にはカタシャジクモの繁茂が見られる。

タタラカンガレイについてもガマ、ヨシ等の抽水植物を除去することにより生育する傾向にあり、適宜行う植生撤去による土壌の攪乱、底泥の除去は、シードバンクの復元をはじめ湿地の草本類の多様性に効果がある。

今年度植生撤去を行った 2-②池の東側についても底泥が除去され、砂状の池底もあり、今後イトモ、カタシャジクモが繁殖する可能性がある。

(4) 表 1-3 環境省レッドデータリストに含まれる種

分類群	カテゴリー	科	和　名
藻　類	絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	シャジクモ科	カタシャジクモ
維管束植物	絶滅危惧Ⅱ類(VU)	アカバナ科	オオアカバナ
		ヒルムシロ科.	ツツイトモ
		カヤツリグサ科	ジョウロウスゲ
	準絶滅危惧(NT)	ミツガシワ科	アサザ
		ミツガシワ科	ガガブタ
		ゴノハグサ科	カワヂシャ
		ラン科	シラン

(4) 特定外来種

アレチウリ、オオブタクサは H25 年 10 月の台風 26 号により進入し、その後継続して除去を行ってきているが、いまだに少数の生育が確認されている。

台風による進入の他、草刈り業者の器機材や土壌に付着して持ち込まれる外来種種子によるものも散見される、まった 4-①では他の地域の在来種の種子の持ち込みによる植生の変化が生じているものと思われる。

隣接する大柏川にはオオブタクサ、アレチウリの他、ウチワゼニクサの繁茂が著しく、当調節池への侵入が懸念される。

1.3 植物カレンダー

表 1-4 大柏川第一調節池緑地の主な植物 カレンダーを参照下さい。

2. 鳥類調査

2.1 調査方法

目視調査

調査期間　2021.04～2023.03

2.2 調査結果

(1) 野鳥リストを更新した。

表 2-1 大柏川第一調節池緑地　鳥類リストを参照下さい。

(2) 鳥類繁殖を確認した。

図 2.1 2022 年　鳥類 繁殖確認図を参照下さい。
図 2.2 カイツブリの繁殖推移　2012-2022 を参照下さい。

(3) 野鳥カレンダーの野鳥飛来の初認日を更新した。
表 2-2 2022 年 大柏川第一調節池緑地の主な鳥たち 初認日記録を参照下さい。

2.3 鳥類について

下池のガマ群落におけるアオサギの営巣状況は別資料参照ください。

2022年3月20日の活動に対して、観察者から市を通して、市の担当者から倶楽部が半島など歩いているから驚いて営巣中のアオサギが飛んでしまったので止めてもらいたいというコメントを頂いた。

我々がいつも通りの活動をしているだけで、脅威を与えていたのであれば、なぜ、造巣し、産卵するのか？投げかけをお願いしましたが、回答を得られなかった。

回答が得られたらコメントしようと思っていた内容が下記です。

当時は、県管理区にオオタカ幼鳥1羽が終日滞在しており、点々と場所を変え狩りを試みていた。これが、アオサギが飛散した原因だと思われる。

市管理区

北部及び外周に8つの巣箱を掛けているが、2カ所でスズメ、1カ所でシジュウカラが利用した。冬季に清掃、補修を行い再設置した。

2023年3月、VC軒のツバメ用釣り糸張りの点検清掃を行った。釣り糸が損傷している箇所からマイクロプラスチックの観点から麻ひもへ転用した。

6月、南スロープ脇において、オオヨシキリが営巣した。2017年の営巣中に無計画な升沿い草刈りを施工され、育雛まで行っていたが失敗した時以来の営巣であった。施工図を見せてもらうと、升周りを刈るようになっていたので、次回への移行をお願いし、了解を得て、修正された施工図も拝見した。しかし、業者は修正された図面を受け取っていなかったのか？升周りを刈られた。繁殖は失敗に終わった。管理は環境部 生活環境整備課 自然共生グループである。来年、飛来してくれるだろうか・・・。

この業務により、キジバトの古巣が除去された。キジバトはよく古巣を再利用する鳥である。

少し話がそれてしまったが、この4－①は、稲を植えない水田のように維持する事を目的とし、ここにシギ類、チドリ類が飛来する目標があり、原風景の復元というコンセプトへ寄与するという大切な場所である事を理解して頂きたい。開園16年目である・・・。

カイツブリ

越流満水前までとはいかないが、カイツブリのヒナが観られるようになったが、ヒナが成長する姿が観られない。ライギョによる捕食であろう。

5月にキビタキの若鳥が飛来した。初記録である。このキビタキでリストが150種となった記念すべき種である。

5月エナガが近隣で繁殖し、親子が西PPに飛来し滞在した。

6月、近隣でクイナを観察、非常に重要な発見である。注視したい。

飛来した珍しい種

ヨシガモ、ツツドリ、タゲリ、ヤマシギ、サシバ、ヤマガラ、コシアカツバメ。

3. 昆虫調査

3.1 調査方法

任意採集

採集による調査は行わず、踏査により確認した特記事項を記す。

3.2 調査結果

(1) チョウトンボ

今年度も前年度同様にチョウトンボは多く確認された、ウシガエルの減少によりトンボや水生昆虫の食害が減少したものと思われる。

これまでに確認された種は下記の表のとおり。

表 3-1 チョウ目(鱗翅目)

1	アオスジアゲハ	10	ツバメシジミ
2	イチモンジセセリ	11	ツマグロヒョウモン
3	キアゲハ	12	ナミアゲハ
4	キタテハ	13	ヒメアカタテハ
5	キマダラセセリ	14	ベニシジミ
6	クロアゲハ	15	モンキチョウ
7	ゴマダラチョウ	16	モンシロチョウ
8	コジャノメ	17	ヤマトシジミ
9	コムラサキ	18	ナガサキアゲハ

(参考)2013 年までの確認種。

表 3-2 トンボ目確認種

開園(2007)～2021年度 トンボ類確認種(確認者 木村一彦 他)					
①	イトトンボ科	アオモンイトトンボ	⑯		アキアカネ
②		アジアイトトンボ	⑰		マイコアカネ
③		キイトトンボ	⑱		コノシメトンボ
④	アオイトトンボ科	ホソミオツネントンボ	⑲		ノシメトンボ
⑤		アオイトトンボ	⑳		ウスバキトンボ
⑥		オオアオイトトンボ	㉑		チョウトンボ
⑦	サナエトンボ科	ウチワヤンマ	㉒	ベニトンボ亜種	コシアキトンボ
⑧	ヤンマ科	ギンヤンマ			
⑨	エゾトンボ科	オオヤマトンボ			
⑩	トンボ科	シオカラトンボ			
⑪		オオシオカラトンボ			
⑫		ヨツボシトンボ			
⑬		ショウジョウトンボ			
⑭		コフキトンボ			
⑮		ナツアカネ			

(2) 蜂の家(ツツバチ類の誘致用巣箱)

水防小屋裏に設置したツツバチ誘致用の巣箱は設置後４年が経過し、営巣が確認された。ハチの種は正確には不明であるが、オオフタオビドロバチと思われる。



蜂の家(ツツバチ誘致用の巣箱)営巣状況
白く泥で栓がされているところは越冬中の筒

(3) 自然誌研究会主催の児童昆虫観察室について

・昆虫観察



７月３日に調節池の東側外周路にあるクヌギの幹に傷が付けられている事を見つけた。傷は道具で削られたように付いており、故意に付けられたと思われる。樹液を出して昆虫を採取する目的かもしれないが、放置するとこれを見た子供が(最近では大人もですが)この池ではやってもいい事だと誤解して真似をする可能性もある。



その後現場では、ナイロンストッキングで包んだバナナや、パイナップルを傷つけた箇所に蒔いた。さらに、虫寄せカゴも設置され、中にはオオスズメバチも観察された。



下記の質問を市にしたが、回答はなかった。

1. 樹木に傷を付けた関係者に対して貴課がとられました対応内容をお知らせ下さい。
2. 看板への主催者は、昆虫観察教室でしょうか、それとも観察会でしょうか。
3. 昆虫観察教室も観察会も専門員が深く関与しております。このような行為に対して専門員としての見解をお聞かせ下さ い。



その後、この周りは、立入禁止区域に指定された。今までは、ススベバチ類を観察されると、入園者の安全のために一定の範囲は立入禁止としていた。



・立入禁止内での昆虫観察会



１０月９日、９月１１日に続き再び虫捕りイベントが、立入禁止区域内で行われたので、下記の質問をしたが回答がなかった。

1. この時期に整備エリアで虫捕りイベントを行う意義、意味等を含め、実施認可を出された理由。
2. 整備エリアを選択された理由

(4) 甲虫目、半翅目

詳細については、資料編の表 3-3 甲虫眼、表 3-4 半翅目を参照下さい。

4. 両生・爬虫類調査

4.1 調査方法

外周道路より棚池側を踏査、目視確認および採集により調査を行った。

4.2 調査結果

(1) 両生類調査結果

調査結果は、表 4-1 両生類確認結果を参照下さい。

今年度もニホンアカガエルは確認されなかった。

ニホンアカガエルの産卵も前年に引き続き確認出来なかった。

表 4-1 両生類確認結果(捕獲確認)

1	アズマガエル
2	アズマヒキガエル
3	ウシガエル

考察

ニホンアカガエル、アズマヒキガエルについて

隣接するミニ自然園のニホンアカガエルは毎年産卵が確認されている。

3-①池においてはカメトラップでウガエルが捕獲されることが多く、アメリカザリガニの小型のものから大型の個体まで多数捕獲されることからライギョの生息はないものと思われる。

(2) 爬虫類調査結果

調査結果は、表 4-2 爬虫類確認結果を参照下さい。

表 4-2 爬虫類確認結果

1	アオダイショウ	4	ミシシッピーアカミミガメ
2	シマヘビ	5	カナヘビ
3	クサガメ	6	スッポン

1-③で捕獲された体長約 5cm のミシシッピーアカミミガメの幼体、この他にも複数の個体がいるものと思われる。



5. 哺乳類調査

5.1 調査方法

外周道路より棚池側を踏査、目視により確認した。

5.2 調査結果

調査結果は、表 5-1 哺乳類確認結果を参照下さい。

表 5-1 哺乳類確認結果　哺乳類　アブラコウモリ　記載漏れ

1	ホンドタヌキ
2	ネコ

今年度もノラネコを確認することが数回あった、鳥類の営巣への影響が懸念される。

6. 魚・貝類等調査

6.1 調査方法

魚類調査、漁礁調査と排水口内調査を実施した場所と調査月及び、水温測定場所は、図 6.1 魚類調査　調査期間・漁礁場所・水温測定場所図に示す。

魚類調査は、5，7，8，10，11月に、もんどりを沈め、その中に入った魚類の調査、漁礁調査は、4，6，8月に、常設しているサンプルへの着卵状態を目視と、タモですくい魚類の調査、排水口内の魚類調査は、9月に排水口内をタモですくい魚類の調査をした。

水温測定は、5、8、11月に実施した。

調査期間は、4月から11月に実施した。

6.2 調査結果

今までの捕獲結果は、表 6-1 魚類等捕獲結果、表 6-2 甲殻類、表 6-3 軟体動物に記す。

表 6-1 魚類等捕獲結果

	捕獲できた魚等の種類
1	モツゴ
2	カダヤシ
3	ヨシノボリ類
4	ギンブナ
5	ライギョ

表 6-2　甲殻類

	捕獲できた魚介類
1	アメリカザリガニ
2	スジエビ
3	モズクガニ



2-②で捕獲された約 40cmのフナ



2-②で捕獲されたライギョ約 40cm

表 6-3 軟体動物

	捕獲できた魚介類
1	モノアラガイ
2	タイワンシジミ
3	ヒメタニシ
4	ドブガイ

以前に比べてモノアラガイが増加している。
大型二枚貝のドブガイは昨年度に引き続き、1-①池や2-①池で容易に確認することが出来た。植生撤去し干し上がった 2-②池でも観察された。
1-①池の排水口や、令和4年、2-①池に設置した「イトモ池」内で繁殖していることが間接された。



1-①池排水口で繁殖しているドブガイ

3-②池、4-②池、5-②池と6池の「カダヤシ」と「モツゴ」の捕獲数量の経年変化及び、3-②池、4-②池、5-②池と6池毎の「カダヤシ」・「モツゴ」と、「ヨシノボリ」・「アメリカザリガニ」の捕獲数量の経年変化を、図 6.2 魚類調査結果に記す。
各棚池の排出溝内の魚類調査を 9/25 に実施した。その結果、全般的に、カダヤシ、ヨシノボリ、スジエビが多く生息していることが確認された。1-①池の排水口には、昨年同様タイワンシジミが、2-③池の排水口には、モノアライガイが多く観察された。
詳細は、表 6-4 排水溝内の魚類調査結果と、図 6.3 各棚池排水溝内の魚類調査箇所を参照して下さい

6.3 考察

(1) ドブガイ
棚池では多くのヨシノボリが観察されているので、ドブガイが繁殖していると考えられる。今回は、1-①池、2-①池、2-②池で観察されたが、他の棚池でも繁殖していると思われる。

(2) 棚池の魚類
2021年の魚類調査のグラフを見ると、魚類が激減しているように見える。

(3) 排水口の魚類
毎年 1-①池の排水口には、タイワンシジミが多く生息している。2-①池の水位が下がっている都度、1-①池の水留栓を実施している結果であろう。
今年は、ドブガイ2個も観察された。

詳細は、表 6-4 排水溝内の魚類調査結果と、図 6.3 各棚池排水溝内の魚類調査箇所を参照して下さい。

7. 定点撮影記録

調節池緑地の月ごとの変化を見るために、毎月第3週の日曜日に、外周路に定めた6点のポイントで撮影をした。撮影ポイントは、図 7.1 定点撮影箇所に示す。
第 1 回目草刈りの考え方は、藪化防止、オオヨシキリの営巣環境保全と冬季に越冬する動物のために刈り残した枯草の草刈りをしてきた。しかし、市は昨年同様、専門員、有識者の「外周路沿いの「法面」「法尻」については、小鳥の移動の場、餌場として必要と考え、草刈は行わない。」との意見を参考にされた結果、図のように草刈りは実施されなかった。
撮影期間は、2022年4月から2023年3月までの毎月の記録と、2007年から2022年までの年度別の記録である。

7.1 撮影方法

デジタルカメラを用いて撮影した。

7.2 撮影結果

図 7.2 大柏川第一調節池緑地の四季の遷り変りに示す。
図 7.3 大柏川第一調節池緑地の年度別の遷り変りに示す。

8. 湧水量・地下水位測定

8.1 測定方法

湧水量は、ビーカーで測定した。測定箇所は、図 8.1 湧水量及び地下水位測定箇所を参照下さい。

地下水位は、真間川改修事務所から供与されたロープ式水位計を用いて測定した。測定箇所は、遮水壁外側の第1帯水層4箇所と第2帯水層5箇所及び、遮水壁内側の第2帯水層3箇所の合計12箇所である。

測定は、原則第2日曜日に実施した。

湧水量の測定期間は、2012年4月1日から、2023年3月31日まで。

地下水位の測定期間は、1998年1月から2023年3月31日までである。

8.2 測定結果

(1) 湧水量測定結果

地下水位(A3-2)、(A14-2)と棚池(1-②池)及び（ゲンゴロウ池)の水位との差を利用し、自噴させその湧水量を測定した。

詳細は、図 8.2 地下水位測定井戸湧水量を参照下さい。

(2) 地下水位観測結果

測定結果は、図 8.3 地下水位測定結果に示す。

東日本大震災によって、遮水壁外側の第2帯水層の水位は、約 0.5m 上昇した。一方、遮水壁内側の第2帯水層の水位は、約 2.4m から 0.3m 下がったが、その後年々徐々に上昇し 1.0m 位となっている。

8.3 考察

A3-2 の湧水量は、約10トン/日、 A14-2 湧水量は、約6トン程である。 A3-2 の地下水位に大きな変化は見られないが、湧水量は、年々減少傾向にある。一方、A14-2 の湧水量はほぼ一定に推移している。

東日本大震災の後、特に、遮水壁内側第2帯水層の地下水位の大幅な下落が何を意味しているかは未だ不明である。その後発生した地震では、水位に大きな変化はみられない。今後も引き続き推移を注視していく。

池内にある全ての地下水位測定井戸の水位は、水面より3，4m下にあると推定されるので、不用意に測定井戸の塩ビパイプを抜くと、地下水へ池の水が侵入し、地下水汚染を引き起こすと思われるので注意が必要である。

IV. 環境保全活動

1. 令和5年度草刈り要望図面提出

協定書では提出義務は無いが、市の現状及び、締結に至った経緯を考慮し、2023 年度草刈り予算申請図（市の要望により予算申請用として作成した図面）を、2022年9月20日に生活環境整備課へ提出した。

詳細は、資料保 01.1 2023 年度草刈り予算申請図を参照下さい。

2. 市管理区域の草刈り・植生撤去・日干し・剪定

2.1 はじめに

生活環境整備課は「大柏川第一調節池緑地管理方針」の見直しや緑地に係る諸問題等については、現状の生きもの調査を行い、ぼっけ生きもの倶楽部を含め、地域市民、市民環境団体、専門家、関係行政機関を交えた協議会形式で検討していくとのことであった。しかし、昨年度と同様に、会議は開かずに、専門員、有識者の意見を参考され、詳しい説明や、その区域の保全方法も言及せずに、一方的に草刈り範囲などに制限を加えた。

また、今年度も、管理者から保全計画が立案・公開されなかったし、草刈り区分図の作成も無かった。

図面に関してのやり取りは、話合いの場の設けて行うようお願いしたが、メールで十分であるとのことで開催されなかった。第3回目以降の施工図、実施図は、年度末になっても完成していない。このようなことは、開園以来初めてである。

2-②池の植生撤去は、池の水を抜いての作業であるので、池の殆どの範囲が干し上がった。このような環境での草刈りは、「肩掛け」仕様を適用するように修正依頼したが、一部がぬかるみであるので、全域を「水中」仕様を適用するとの回答であった。費用削減の視点から疑問が残った事例である。

今年度は図面に関しての引継ぎが全くできていないため、施工図、実施図の意味を理解できていない上に、現地での検証結果を反映した図面が書けない、読めない状況であった。

2.2 草刈り図面

令和4年度は、平成27年度に構築された草刈り管理業務を継承された上で、平成30年度から令和3年度までの年間草刈り業務内容を踏まえて各マニュアルを見直し、草刈り業務を遂行されるよう要望した。

施工図、実施図については、草刈り後に送付されてきた各図面に対しての修正等を依頼したが、第3回目、第4回目、第5回目の図面は、年度末になっても修正された図面の提出が無かった。このようなことは、開園以来初めてできごとである。施工図、実施図はなんのために作成しているか、どのような手順で図面を仕上げるか等についての引継ぎが全くなされていないようである。加えて、施工図と実施図以外に、草刈り管理業務委託結果の資料の提出もなかった。

① 第1回目草刈り

市の有識者から「外来種の生育の抑制」「生きものの種類を増やす」との理由から、法面1の草刈り幅を4mから2mとされた。 ビジターセンターからの視認性については、草刈り幅を2mにしても、同様であるとされた。但し、「外来種の生育の抑制」「生きものの種類を増やす」については、今後、専門員・市の有識者と相談し調査していきたいと考えるとされた。

② 第2回目草刈り

市の有識者・専門員の意見を基に、草刈り範囲を大幅に縮小された。どのような理由で変更されたかは不明である。

③ 第3回目、第4回目と第5回目草刈り

最終図面ができあがっていないのでコメントはできない。

資料保 02.1 入札資料一式

資料保 02.2 ぼっけ生きもの倶楽部提出 2022 年度予算申請用図面

資料保 02.3 外周路北部法面1 草刈り幅2m・4m

2.3 草刈り

令和4年度の特筆すべきことは、課長時代の2年間と再任用としての3年間の5年間に亘りこの緑地の草刈りを一手に担ってきた元課長が異動となったことである。

その期間、平成19年（2007年）の開園から、平成28年（2016年）間の9年間に蓄積されてきた大柏川第一調節池緑地の生物多様性を考慮した自然環境を保全する手法をことごとくないがしろにした保全管理をした。特に、協定書第1条（目的）に明記している「遊水池の会のワークショップと検討された内容」と「市川自然環境保全・再生指針」内容を十分に理解できないままでの保全管理であったため、朝令暮改のような指示、対応に終始した結果、業務の引継ぎもまともにできず、担当者をはじめ、現場においても、大きな混乱を招き続けてきた。

今までは、草刈り業務を元課長に丸投げした結果、今年度は、この緑地の保全手法について十分に理解できないために、図面は書けない、読めない中での図面管理をされた。そのためか、市は、ぼっけ生きもの倶楽部とのやり取りは、メールのみとした。今年度初めて12月21日に開催された対面での話合いでは、市は、分かることしか回答しないとか、忙しいから返答できないに終始した。

参考までに、令和4年度の実施図と出来高数量総括表などができあがったのは、令和5年7月である。但し、ここでの実施図とは市が委託業者への支払い用の図面である。本来は施工図であり、実施図は草刈りした記録の図面である。

詳細は、資料保 02.4 令和4年度実施図を参照下さい。

当然のこととして、施工期間は守れない。間違って刈った範囲を施工図に反映するなど、施工図と実施図の区別ができていなかった。委託業者への草刈りに当たっての留意事項についての検証すら十分にできていなかった。

草刈り契約は、単価契約にも係わらす図面がまともに書けないためか、計画図（入札時に添付した図面）に固守し、図面内容の変更は基本的にしないが、少々の追加は認めたやり方であったようある。

草刈りに関しては、委託業者にほぼ一任した結果、図面記載内容を無視した施工等、委託業者の意図のままの草刈りであった。

今年度の最悪事例として、4-①池の耕起は、水中草刈り後、刈り取った草を搬出せずに、池内土壌の中へ漉き込むという工法を、予算が無いという事で今期も、同じように施工された。この件は、昨年度、委託業者と再任用者が話し合って決めた工法をそのまま適用した結果、コウキヤガラ群落が、外来種中心の植生へ変移した。特記事項には、「トラクター搬入前に、原則、実施範囲での除根及び、水中草刈りを行うこと」、「刈り取った根については一カ所に集草し天日干しを行った後、処理すること」と明記されているが、市は委託業者に仕様書通り実施するような指示もできない状態であった。

上記以外の例として、委託業者は、市の図面で明記されている植生撤去によって生じる土砂置き場より、専門員の口頭での意見を優先して採用していた。

奇異なこととして、委託業者は、単価数量については、今年度は市に言及しないと公言していた。まるで、今年度は、総量契約の対応のような印象を強く受けた。


乾燥状態の草刈り


水中草刈り中

市は、草刈り費用が削減されていると、常に言及しているが、例えば、今回3-②池の水位を下げた結果、草刈り部一面が乾燥状態にもかかわらず、水中での草刈り単価を適用した。

施工図面を作成する上で、数年前から研究会代表の方を市は有識者として迎えられ、話合いの

場を設けずに、施工図を作成してきたが、今年度は、その有識者を市民として扱われた。

2.4 草刈り管理資料

計画図は、４月１９日、大柏川第一調節池緑地維持管理業務委託　ほか3件分の業務委託の公示がされたとの連絡を受けて、市のホームページの入札資料よりダウンロードして入手した。

この計画図面内容と、予算申請図面内容とは、全く別物であった。どのようにして、計画図面を作成したか不明である。

今年度も区分図を作成されなかった。草刈りに関与する担い手は、委託業者、みずがき隊、ぼっけ生きもの倶楽部、VC 職員、河川課であったが、VC 職員の草刈り範囲が不明であった。

草刈り費用削減と言われながら、一昨年度削減した VC 職員の草刈り範囲「棚池 1-①池周りと2-①池周り間通路の草刈りした範囲」をもとに戻すこともしなかった。

第３，４，５回目草刈りにおいて、草刈り業務スケジュール表を作成されたが、残念ながらスケジュール通りにことが運ぶことはなかった。例えば、第5回目草刈りは、１０月２０日より１１月６日まで、実施図作成は、１１月２３日となっていた。しかし、実施図は年度末になっても完成していない。植生撤去した 2-②池の通路脇及び　通路の整地、3-②池及び 2-②池の水止め資材の設置は、翌年３月に実施した。

草刈り管理するための資料は、予算申請図面、区分図、計画図、スケジュール表であることを理解し、業務の遂行を要望する。

詳細は、資料保　02.5「令和4年度出来高数量表　実施図と施工図の比」を参照下さい。

2.5 市と委託業者とぼっけ生きもの倶楽部での現地確認会　無し

草刈り施工１週間前までに完成した施工図を基に、市とぼっけ生きもの倶楽部は、現地で、委託業者へその施工図面を基に、草刈り範囲、注意事項等を確認し合うこととなっていた。しかし、今年度も、実施されなかった。

2.6 植生撤去

植生撤去は、棚池内の水を抜き、池底が安定した後に池内の草刈りをし、除根をする手順であるべきだった。そうすることによって、草刈り費用の削減（水中草刈りではなく、肩掛草刈り仕様となる）と、植生撤去の確実な作業、検証ができたはずである。

しかし、水を抜いて干し上がった範囲の草刈り仕様は、水中草刈り仕様を適用した。市の説明では、承水路の周りが一部ぬかるみになっているために、水中草刈り仕様を、ぬかるみ範囲のみではなく、全区域に適用したとの回答であった。

堀取った土砂の処理については、市の図面では、法面に置くこととなっていたので、図面の修正依頼をしたが回答はなかった。直接委託業者と話したところ、図面とは関係なしに、法面には置かずに通路の片側に置く。足りない分は、他の棚池間通路部へ置く。また、専門員から指摘のあった箇所には置かないなど、図面とは関係なしに作業を進めていた。

2-②池南側部にある島と通路間の幅が狭いので、子供たちが渡って遊んでいる。危ないので、渡れないように、通路と島間の水路幅を拡大してもらった。

詳細は、資料保　02.6 通路島間水路拡大依頼図面　を参照下さい。

2.7 日干し

2-②池と 3-②池の水位差が少ないので、2-②池排水口の水止め資材を抜いても、水はぬけきらない。そのためには、今回は、3-②池排水口に設置している水止め板を抜いて、2-②池の水位を下げた。そのため、2-②池の水位を下げるまで 3-②池の水止め資材を抜くように依頼したが回答

はなかった。加えて、上記の処理をしても水位があるようでしたので、ホースによる排水などを提案したが反応はなかった。

この植生撤去に併せて魚類調査・ライギョ、コイの駆除をお願いした。市の魚類調査とは、11月に 2-②池の承水路部と排水升内で実施され、捕獲できたのは升内が主で、スジエビなどを捕獲したようであったが池へ放流せずに升内へ戻したようである。ライギョについては、12月21日の話し合いの場では、胴長を履いてタモでつかまえるとの回答であったが、2月24日には捕獲できなかったとの報告があった。ぼっけ生きもの倶楽部は冬季に10数尾ライギョを捕獲し駆除した。

詳細は、資料保 02.7 市による魚類調査結果を参照下さい。

2.8 草刈り範囲、留意事項、スケジュール管理について

・ 草刈り範囲

1-③池土手の草刈り部について図面に記載されている箇所は、昨年度と同じように間違ってかられていた。本件は昨年度も指摘したが、残念ながら全く改善がされていない。

1-③池土手区分無視

・ 留意事項

検証時に、留意事項に記載されているか作業が行われているかの検証が全くされていない。

草刈り作業に当たっての注意事項であるにも係わらず、どのような検証をしたのであろうか。市からは、検証は、3人で数回実施したとの報告であった。



2-③池陸域　重機バロネス稼働

・ スケジュール管理

スケジュール表を作成したが、実際の作業はそれとは関係なしに作業を進めた。

2.9 外来種ライギョ等の駆除

2－②池の植生撤去に合わせて日干しをすることになったので、昨年と同様、魚類調査・外来種（ライギョ、コイ）の駆除を依頼した。

昨年度は水位が高かったので、捕獲ができなかったため、水位を下げて捕獲するように進言したが、十分に水位下げずに、胴長を付けて、タモで捕獲するとの回答であった。専門員と共に捕獲した結果は、ライギョの捕獲数がゼロとの報告があった。

2.10 剪定

剪定樹木調査、業者剪定日、剪定期間などのスケジュールと、「植栽図」及び、「大柏川第1調節池緑地における草刈りガイドライン」の完成を依頼したが、その後の進展は無かった。特に「植栽図」は主幹が時間を下さい、作成しますと言っていたが、完成していない。

外周路のイボタノキ、ネズミモチなどの樹木は、VC職員が行った。予定になかった外周路の高木剪定が年度末に南側中央の樹木、北東部のネムノキなど6本程度がエイワ建商によって施工された。いつも、委託料の契約差金で行われる業務である。

2,11 萌芽更新

開園後初めて萌芽更新を実施した。対象樹木は、西 PP の我々が植樹したアカメガシワ、クヌギ、コナラ、タブノキ、エノキ、ミズキ合計5本と北部広場のマテバシイ1本です。

詳細は、資料保 02.8 萌芽更新を参照下さい。

3. 県管理区域の草刈り

3.1 草刈り実施内容

開園以来はじめて入札が不成立となり再入札となった。その結果、第1回目 8/22～8/31、第2回目 9/1～9/10、第3回目 10/1～10/10 となった。県管理区域の草刈り時期は、生態系への影響を軽減するために、第2回目、第3回目の草刈り時期は、市の草刈り時期とほぼ同じ時期に実施した。

作業期間、範囲、集草・集枝等を確認するため、現地で業者との事前打合せが無かったために、開園以来、不伐エリア（水域部、陸域部）としていた陸域部が誤って刈られてしまった。

昨年度と同様、委託業者による下池東南側の一部の池内のヨシ、ガマの草刈りをした。加えて、10月から11月間はぼっけ生きもの倶楽部も池内の草刈りを行ったので、大きな開放水面を確保ができた。

詳細は、資料保 03.1 不伐エリア 陸域部 草刈り施工を参照下さい。

3.2 課題

再入札が成立した日から第1回目草刈り日までの時間が少なかったため、変更箇所などを草刈り図面にコメント書きした簡易図面を送付した。草刈り終業後、「受注業者からは除草の区域分けが細かく、施工性が悪いとの意見が寄せられた」と改修課から連絡があった。この原因は、草刈り期間変更通知から第1回目草刈りまでの時間が短かったため、当初の図面上にコメントを書いたため分かりにくくなったことによる。

数年ぶりに下池の水位を11月末より翌年1月末まで上昇し、下池全体及び、6池通路が水で覆われた。過去には、4，5月頃に排水ポンプの保守点検のために、下池の水位を冬季に水位を上げていた時期がった。



3.3 浮島の状況

中島上部に座礁している西側浮島と、一部が陸域に座礁しています東側浮島群の撤去等の処理は、改修課に一任した。

詳細は、下記の資料を参照下さい。

資料保 03.2 県管理区域草刈り要望図
資料保 03.3 県管理区域草刈り変更依頼図
資料保 03.4 県管理区域草刈り施工図（県の図面）
資料保 03.5 県管理区域 草刈り検証結果
資料保 03.6 千葉県河川海岸アダプトプログラム 実施状況報告書

3.4 草刈り計画

(1) 草刈りについて

2023年度以降の下池内の草刈りは、数年に亘る草刈り計画を立案され、それに従って業者による草刈りをお願いした。なお、排水口近くにまで、ガマが繁茂してきている。平成24年度（2012年度）に排水口周りの草刈りを実施されたので、前広にご検討されよう要望した。

(2) 草刈り期間、範囲の修正

生態系への影響を軽減するため、草刈り施工期間は、市の草刈りと同じ期間内で実施するようにお願いした。

時期：市川市の草刈り時、2023 年 6/20-6/30、7/20-8/10、9/1-9/10、10/20-10/30。草の繁茂状況等を調査した結果、草刈り範囲に要修正が生じた場合は、草刈り施工2週間前までに修

正版を提出しますので、施工図への反映するようお願いした。

(3) 集草・集枝物の搬出依頼

ぼっけ生きもの倶楽部が刈り取った草、集枝の搬出は、生態系への影響を軽減するため、草刈りと同じ期間にお願いした。１１月以降にぼっけ生きもの倶楽部が刈り取った草等も年度末に搬出できますようご検討をお願いした。

(4) 草刈りの事前打合せ

草刈り計画図(案)を確実に実施するために、草刈り時期、範囲、搬出等について相互に確認し合う事前打合せを6月上旬に、現地で、業者・協力業者を交えて実施するようお願いした。

(5) 生物多様性の回復と保全

当緑地は生態系が有する機能を活かした防災・減災対策等であることを市民へ啓蒙している。同時に、地域固有の自然資本が有する機能を活用し、地域の創生に努め、生物多様性の回復を促すよう努めている。

今年は開園１６年となるので、生物多様性保全の観点から千葉県環境生活部自然保護課による大柏川第一調節池緑地の生物調査、生物多様性の評価、特定外来生物駆除等についての協働されるよう提案をした。

(6) その他の要望事項

- 内周路脇の升間に埋設された透水管が土砂等よる目詰りをし、絞り水の処理機能が無くなっている。現在法尻南から南西部に適用しているふとん籠内部に透水管を入れたもの等への更新の検討をお願いした。
- 半島 1 段目法面の凹み部、南東から南部法面の亀裂等、擬木杭沿いのロープの切断等の対処をお願いした。
- 下池の陸地化が進んでいるので、土砂等の堆積状況の調査をお願いした。

詳細は、資料保 03.7 千葉県河川海岸アドプトプログラム 活動計画書を参照下さい。

4. 渇水対策

「市川市自然環境保全再生指針」の“河川調整池”では、「通常時の水源は雨水のみであり、天候により枯渇する恐れがある」と指摘されている。

この緑地の水源は、主に雨水と周りからの絞り水から成り立っている。若干の地下水を誘導して補充はしているが、湧水量は十分でないために、夏季は、棚池の水位は極端に低下し、2．3の棚池は干し上がる年度が多くあった。

生物多様性の向上、来園者への親水性などのために“夏場の渇水時に作動する揚水ポンプ等の設置”を要望してきた。 北方遊水池の会では、設置場所としては、湧水量が多いと推定される地下水測定井戸 A3-2 又は、A6－2から取水することを推奨している。測定井戸に関する諸データは、県から入手している。

なお、地下水測定井戸からの取水については、真間川改修事務所から利用認可を受けている。

今年度は、棚池が渇水状態にならなかったので、移動式仮設ポンプの設置や、下池、棚池の水を汲み上げて棚池①へ水を供給する事態にはならなかった。

5. 外来生物駆除活動

5.1 植物編

この緑地内の特定外来種は、平成 25 年 10 月の台風 26 号により進入したものと推測されるアレ

チウリのみである。

千葉県生物多様性センターによると、「特定外来生物が生息してしまった場合には、土地の所有者や管理者が早期に防除することが重要です。」と記載されている。

見直しをした結果、市管理区域内で発見されてもの、市が防除することとなった。





今年度は、法面1東側で観察されたアレチウリの防除を,8/7 市に依頼した結果、8/25 に実施された。

今年も園芸種である「ウオーターマッシュルーム（和名 ウチワゼニグサ団扇銭草）」を棚池 2-②池北西側で確認され防除した。

今年 6/19 に、侵略的外来種生物「マツバウンラン 2株 3-①池と4-①池間通路」が初めて観察された。

県管理区域で観察されているオオカワヂシャの駆除については、県にお願いしている。ぼっけ生きもの倶楽部へ依頼する場合については、千葉県生物多様性センターと相談する。大柏川の県管理区域においても駆除を進めて頂きたい

詳細は、下記資料を参照下さい。

資料保 05.1 主な外来種の詳細

5.2 ミシシッピーアカミミガメ・ライギョ等の駆除

駆除作業は、４月２４日から１０月３０日までの期間、カメトラップ６基、日光浴罠２基を設置した。今年度もライギョを対象としたルアー釣りでの防除作業を実施した。



下池ガマで日光浴



ルアー釣り作業後



タモによる捕獲後

２０２２年までに捕獲した数は、アカミミガメ１０８匹、ライギョ２１１匹である。

防除作業の効果が表れ、本年度は、棚池 1-③池でアカミミガメを2匹捕獲したが、下池では甲羅干しをしいているアカミミガメが観察されている。一方、ライギョについては、ルアーによる捕獲数が８２匹で、4-②池と下池での捕獲数が多かった。

詳細は、下記の資料を参照下さい。

資料保 05.2 カメトラップ・日光浴罠・ルアー釣り捕獲経緯

資料保 05.3 ライギョの捕獲数と場所を参照下さい。

6. 藪蚊対策

「藪蚊対策としの草刈り並び に、西門側水路西側の汚泥の撤去」をお願いした。

市は、草刈りは終わったと回答であった。

下記の２点について質問したが回答がなかった。

① 南門側は終わっていますが、西PP脇は終わっていないと思うので、委託業者へのご指示をお願いした。

② 本年の3月に我々は水路底の泥を片側へ寄せる作業を行った結果、7月には水路底の乾燥化を確認した。水路底の泥の撤去を行わないのであれば、水路底に水や泥が滞留しないよう構造の改良をお願いした。

なお、南東水路の側溝に蓋をされていますが、どの様な経緯で実施されたのでしょうか、ご回答をお願いします。

詳細は、資料保 06.1 南西水路 草刈り実施箇所(市図面)を参照下さい。

7. 説明看板更新、貼付資料更新

経年劣化した看板の更新と、看板に添付した資料を適宜更新した。添付資料では、「魚とりの名手たち」、「ツバメは今日も大忙し」など従来とは異なった啓発資料を作成した。





8. 棚池番号看板、掲示板、樹木名板保守点検

棚池番号看板、掲示板、樹木名板の更新を今年度も依頼した。これらの看板類の経年劣化状態については、2018度に市が点検し備品名、劣化状況、修復の可否についてまとめている。

今年は、棚池番号1，2と3の看板が更新された。

禁止事項などが記載されている市の掲示板は劣化が激しいので市が更新するよう依頼した。

詳細は、下記の資料を参照下さい。

資料保 08.1 棚池看板修繕箇所(市の資料)
資料保 08.2 樹木名板修繕箇所(市の資料)
資料保 08.3 看板調査結果(2019/10/13)
資料保 08.4 棚池更新看板箇所(20カ所)



9. 西ポケットパーク部・北部の草刈りと剪定など

西ポケット、大柏川沿い、小屋周り、野草園などの北部広場の草刈りと剪定・枝下ろしなどを行った。

作業内容は、下記の資料を参照下さい。

資料保 09.1 管理作業報告書 西ポケットパーク
資料保 09.2 管理作業報告書 北部広場
資料保 09.3 剪定・落ち葉かき、伐採、枝下ろし、集枝作業報告書

V. 情報の共有化

情報の共有化として、市が今年度初めて12月21日に対面による話合いの場を設けられた。市より「京葉ガス株式会社による大柏川ガス管横断工事の計画について」の説明があった。

引き続き進捗状況について市からは下記のような回答があった。

- ぼっけ生きもの倶楽部の事業報告書の記載内容とビジターセンターへの配架について、市からの考えが出された。
- 市は、他に忙しい業務があるので、大柏川第一調節池緑地関連の案件について回答する時間がとれない。よって、回答できない内容は回答しないし、今後話し合うつもりはない。
- 草刈りについての応答があった。

今までと異なり、真摯な回答をする様子は全くなかった。
詳細は、資料 V.1 進捗会議報告書（令和4年12月21日）を参照下さい。

VI. 事業

1. 新規事業

ちば環境再生基金の「県民の環境活動支援事業助成金」を基に、希少種「ツツイトモ」の保全事業を実施した。開園時には、棚池に多く見られていた「ツツイトモ」は、アメリカザリガニの食害と、植生遷移が進み、最後まで観察されていた 4-①池のツツイトモは観察されてない。令和4年度は、特記事項に反するやり方であると指摘しても、耕起前の草刈をせずに、枯れ草を漉き込んでだ令和3年度のやり方を踏襲していた。現在トロ箱でのみ保全している。

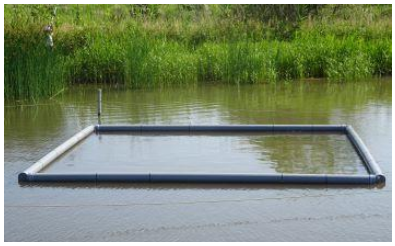
「ツツイトモ」を再生するために、ザリガニの食害を防除するネットで囲われた「イトモ池」を 2-①池に設置した。

詳細は、資料 VI.1 県民の環境活動支援事業助成金実績報告書を参照下さい。

1.1 イトモ保全のためのイトモ池の設置



文献によると「ツツイトモ」は。ザリガニの食害により消滅することが分かっているので、ザリガニ避けのネットで包んだ生け簀池（イトモ池）を設置した。その中にトロ箱に保全していた「ツツイトモ」の一部を移植し増殖を試行した。



移植後は、沈めたがトロ箱のツツイトモは、順調に生育していたようであった。しかし、7 月 24 日には、ツツイトモが消滅していた。そこでモンドリを設置しが、ザリガニは入らなかったが、28 日再度もんどりを設置した結果、ザリガニ大 1 匹捕獲できた。

その後、ツツイトモの生育は確認できなかった。

次年度、ザリガニ駆除等を図り、再度増殖の試行を継続する。

詳細は、資料 VI.2 希少種「ツツイトモ保全」を参照下さい。

1.2 「カエル」お助事業

内周路脇にある升において、産卵したヒキガエルが這い上がれないという事に前年に気付き、今季に北方小学校と協働で、各升にヤナギの枝を束ねたもの、シュロの毛を編んだものを４年生の手によって升内に設置した。脱出お助けアイテムとして、小さな看板も設置し啓発を行った。教育機関、今回は北方小学校との協働事業は、当会として初めてことであった。

詳細は、資料 VI.3 升へお助けアイテム設置場所図を参照下さい。

2 希少種保全・再生事業（継続案件）

希少植物アサザ、ガガブタ、タタラカンガレイ、ジョウロウスゲ、サジオモダカの経緯をまとめた。地植えを試行した結果、タタラカンガレイ（1-②池と 3-②池）は、ヨシなどが優先し消滅、2-②池のアサザとガガブタは、植生撤去後冬の間水無しの状態が続き消滅した。

詳細は、下記の資料を参照下さい。

資料 VI.4 主な希少植物 育成経緯(202204～202303)

資料 VI.5 希少植物分布図

2.1 タタラカンガレイ保全



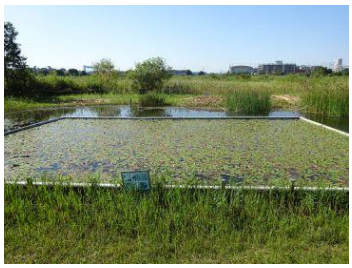
棚池でも生育できるかを検証するために、5/1 に、1-②池と 3-②池のトロ箱内で育てていたタタラカンガレイを地植えした。しかし、ヨシなどが優先になり、加えて刈り取られタタラカンガレイは消滅した。タタラカンガレイを保全するには、ヨシ、ガマ、カヤツリグサなどの除草が必要である。



1-①池には、昨年赤玉土を補給したが、まだ水位が高いために、一部根腐れをしていたので 6/5 に補植をした。

来年度は、床が水没しないよう赤玉土を補給する。

2.2 アサザ・ガガブタ保全



2-①池のパイプ池は、トラップを用いてアメリカザリガニの駆除を続けた結果、池一面にガガブタが繁茂した。

2-①池内の数か所に移植したガガブタも順調に生育した。

2-①池のネット池は、ザリガニの食害防止のために囲っているネットをブロックで固定している。そのブロックが、ザリガニの住みかの温床となっているためか、ネット池内ではザリガニがよく捕獲された。ネット等の老朽化とザリガニ住処除去のために、来年度は撤去し、代わりに「イトモ池」と同じ構造の「アサザ池」を設置する予定である。

6池の南側は、引き続きアサザ環境保全のための除根作業と、逐次アシ・ガマを刈る程度の補足的管理をした。



6池　アサザ



開花したアサザ

2.3 ツツイトモ保全



開花したツツイトモ

ツツイトモは、順調に生育した。

トロ箱のツツイトモの一部を、5/15 に、2-①池に新たに設置した「イトモ池に移植した。詳細は、項目 V の新規事業「1.1 イトモ保全のためのイトモ池の設置」を参照下さい。

2.4 ジョウロウスゲ・サジオモダカ保全

4/10 に、サジオモダカとジョウロウスゲ各々1株を、自噴池へ移植した。

10/30 には、ジョウロウスゲ1株を、ひょうたん池へ移植した。

昨年自噴池に播種したサジオモダカは発芽しなかった。

下池で繁殖しているジョウロウスゲ、サジオモダカに加え、種子から発芽したと思われるサジオモダカや、ジョウロウスゲも観察された。

なお、下池はポンプの保守点検のため、12月から翌年2月まで水位が上がり、それらは全て水没した。

2.5 カタシャジクモ保全

どの池でも順調に観察された。 新たの設置した「イトモ池」内でも観察された。 しかし、生育環境を調べるために、1-①池に沈めたトロ箱内には、今年も生育しなかった。引き続き観察をする。

3. 市川市市民活動団体事業補助金による事業

✧ 侵略的外来植物・外来植物の駆除

毎週日曜日の作業の一つとして駆除作業を実施して来た。駆除してきた主な侵略的外来植物は、ヘラオオバコ、オニノゲシなどである。

✧ 市民への啓発活動のための冊子作成

ぼっけ生きもの倶楽部の「2021年度事業報告書」は、市川市中央図書館、千葉県立中央図書館に各々1部寄贈用として、ぼっけ生きもの倶楽部用1部として合計4部作成した。今年度以降、ビジターセンターに配架はしないこととなった。

4. 埋土種による在来植物の復元

隣接するミニ自然園の水田の泥による埋土種子による在来植物の育成を観察を継続して行っている。発芽は 2019 年度にコナギ、タウコギ、イネ、オモダカ、アオウキクサ、イボクサの発芽が見られた。2020～2021 年度は 20 年度に新たな種の発芽は見ることはできなかった、泥の攪拌を行うなどして 2022 年度で 3 年が経過したが、周辺の種子の侵入などによりキシュウスズメノヒエ、ササ等が繁茂している状況となった。5年程度行うことが望ましいとの千葉中央博物館からのアドバイスであったので継続する。

VII. 啓発活動

1. ビジターセンターでの情報発信

ぼっけ生きもの倶楽部の事業報告書は、ビジターセンターには配架されずに、事務所内のキャビネット内に保管されているのが判明した。9月中旬に、絵本コーナーになぜか、4冊のみ配架されていた。

配架しなかったり、一部のみ配架した理由を質問したが、市からの回答はなかった。そこで今までの報告書を回収したが、平成27年度、平成28年度と平成29年度の報告書が欠落していたことが判明した。欠落分は、市が新たに製本して弁償した。

市からは、12/21 の話合いの場において、書面で「令和2年度及び、3年度分の公開一時停止」の通達があった。引継ぎが全くされていないため、市がやるべき事をやっていないことが判明した。後日、今までの手順を踏んで対応するよう申し出る準備をしている。また、主幹からは報告書は不要と言及されたので、課としての意見であるかを確認する。

また、市川市中央図書館に配架されている報告書は、市からの指示に従って、令和2年度及び、3年度の報告の配架はしていない。再度配架するかは、市からの指示待ちの状態である。

詳細は、下記資料を参照下さい。

資料 VII.1 ビジターセンターの事業報告書並びに パネル等の展示経緯

資料 VII.2 令和2年度及び、3年度分の公開一時停止通達

2. 市川市役所のHPに事業報告書掲載

2008年度（平成20年度）から 2019年度の事業報告書が市川市役所のホームページに掲載された。しかし、その後の事業報告書は、現在一時停止状態であるので、市は至急、精査されてホームページへの掲載、VC への配架、図書館への配架指示を要望する。

URL は、http://www.city.ichikawa.lg.jp/gre04/1111000042.html です。

VIII.　支援活動

コロナ禍のために、今まで実施されて来た「水に親しむ親子のつどい」の中止や、学生や教職員等のボランティア活動への参加もなかった。

IX. 行事

1. 市川市主催の下記の事業への参加
   - ✧　メディアパーク市川　1階エントランス広場にて開催された「いちかわエコギャラリー」(2023/2/25-3/12)に参加した。
   - ✧　「いちかわ環境フェア 2021」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。



X. 活動記録（入園日誌）

入園日誌(2022-04-01～2023/3)

ぼっけ生きもの倶楽部会員名簿

石井映子	大根田朱里	加藤きよ子	北村美智子	斎藤慶太	酒井雅朗
高沢克彦	高橋幸江	高橋ひろ子	西沢正浩	原田純男	松尾弘道
松本武志	山岸和夫	渡辺孝利			

以上

資料編

資料 II 1 令和4年度計画表
資料 II 2 令和4年度大柏川第一調節池の自然環境保全についての提案書
資料 V.1 進捗会議報告書（令和4年12月21日）
資料 VI.1 県民の環境活動支援事業助成金実績報告書
資料 VI.2 希少種「ツツイトモ」の保全
資料 VI.3 升へお助けアイテム設置場所図
資料 VI.4 主な希少植物 育成経緯(202204～202303)
資料 VI.5 希少植物分布図
資料 VII.1 ビジターセンターの事業報告書並びに パネル等の展示経緯
資料 VII.2 令和2年度及び、3年度分の公開一時停止通達

資料保 01.1 2023 年度草刈り予算申請図
資料保 02.1 入札資料一式
資料保 02.2 ぼっけ生きもの倶楽部提出 2022 年度予算申請用図面
資料保 02.3 外周路北部法面1 草刈り幅2m・4m
資料保 02.4 令和4年度実施図
資料保 02.5「令和4年度出来高数量表 実施図と施工図の比」

資料保 02.6 通路島間水路拡大依頼図面
資料保 02.7 市による魚類調査結果
資料保 02.8 萌芽更新
資料保 03.1 県管理区域草刈り要望図と変更依頼図
資料保 03.2 県管理区域草刈り施工図（県の図面）
資料保 03.3 県管理区域　草刈り検証結果
資料保 03.4 千葉県河川海岸アダプトプログラム　実施状況報告書
資料保 03.5 千葉県河川海岸アドプトプログラム　活動計画書
資料保 05.1 主な外来種の詳細
資料保 05.2 カメトラップ・日光浴罠・ルアー釣り捕獲経緯
資料保 05.3 ライギョの捕獲数と場所
資料保 06.1 南西水路　草刈り実施箇所（市図面）
資料保 08.1 棚池看板修繕箇所（市の資料）
資料保 08.2 樹木名板修繕箇所（市の資料）
資料保 08.3 看板調査結果（2019/10/13）
資料保 08.4 棚池更新看板箇所（20カ所）
資料保 09.1 管理作業報告書　西ポケットパーク
資料保 09.2 管理作業報告書　北部広場
資料保 09.3 剪定・落ち葉かき、伐採、枝下ろし、集枝作業報告書

図 1.1 コドラード設置箇所図
図 1.2 2021 年度に観察された植物分布図
図 2.1 2022 年　鳥類 繁殖確認図
図 6.1 魚類調査　調査期間・漁礁場所・水温測定場所図
図 6.2 魚類調査結果
図 6.3 各棚池排水溝内の魚類調査箇所
図 7.1 定点撮影箇所
図 7.2 大柏川第一調節池緑地の四季の遷り変り
図 7.3 大柏川第一調節池緑地の年度別の遷り変り
図 8.1 湧水量及び地下水位測定箇所
図 8.2 地下水位測定井戸湧水量
図 8.3 地下水位測定結果

表 1-1 植物相一覧 2022
表 1-2 群落組成表 2022
表 1-4 大柏川第一調節池緑地の主な植物 カレンダー
表 2-1 大柏川第一調節池緑地　鳥類リスト
表 2-2 2022 年 大柏川第一調節池緑地の主な鳥たち　初認日記録
表 3-3 甲虫目、表 3-4 半翅目
表 6-4 排水溝内の魚類調査結果

令和4年3月31日
ぼっけ生きもの倶楽部

生活環境整備課長　北市様

令和4年度大柏川第一調節池緑地の自然環境保全についての提案書

大柏川第一調節池緑地の維持管理については、開園前より所轄部門と話し合われてきました。

維持管理は、下記の資料に基づいて実施するよう協定書に記載されています。

- ✧ 大柏川第一調節池の整備の構想段階(平成 12 年度)から、市民、学識経験者、県(オブザーバ)を交えて市が主催したワークショップと、その後の検討会（北方遊水池の会）で検討された事項
- ✧ 市川市自然環境保全･再生指針
- ✧ 生物多様性地域戦略並びに、生物多様性地域連携促進

加えて、大柏川第一調節池緑地管理方針、市政戦略会議答申と生物多様性いちかわ戦略への対応等も加味することになっております。

I.　基本方針周知の徹底

大柏川第一調節池緑地は水辺の自然を活かした「自然環境創造型の調節池」として整備されました。そのために一般の公園と異なり、この場所での主役は決して人ではなく生物となっているのが大きな特徴であります。

入園者及び、この緑地に関与する全ての関係者に対して、この「基本方針」についての理解を深めるよう啓発活動をお願いします。

基本方針

大柏川第一調節池緑地は、市民と行政の協働のもとに、治水施設に加え、下記に示す水辺の自然を活かした「自然環境創造型の調節池」として整備されました。

1. 洪水被害を軽減します。
   - ✧ 真間川流域の総合治水対策の一環として、適正な貯水容量の確保を第一の目的とします。
   - ✧ 日頃から、洪水時の水の怖さや、その対策を知り、水防の意識を高められる場を目指します。
2. 水と緑の財産を次世代に残します。
   - ✧ かつての大柏川流域における自然空間を保全･復元し、水と緑の財産を次世代へ残すことを目的とします。
   - ✧ 谷底低地の多様な水辺を復元し、人にとっても動植物にとってもよい空間とします。
3. 自然にふれる場所とし豊かな自然観を育みます。
   - ✧ 安全で親しみやすい水辺で、子供から大人までが生き物にふれ、豊かな自然観を育むことを目的とします。
   - ✧ 様々な生き物が生活していける空間を創造し、地域の自然や水循環の大切さ、人と自然の共生について学べる環境学習の場とします。

4. 気持のよい安らぎの空間を提供します。
   ✧ 自然を楽しむことのできる、静かで気持のよい安らぎの空間を提供することを目的とします。
   ✧ かつての自然環境や風景を時間をかけて復元し、四季を楽しみながら散策や観賞できるよう図ります。
5. 地域意識のつながりや文化の継承に寄与します。
   ✧ 自然と文化を一つのものとして考え、里づくり、ふるさとを意識した人の集う場所を創造することを目的とします。
   ✧ 地域の伝統文化等の継承を目指します。

この大柏川第一調節池緑地は、一般の公園と異なり、この場所での主役は決して人ではなく生物となっているのが大きな特徴であり、その利用方法は、下記のように指定されております。

1. 真間川流域の総合治水対策を理解する場として利用します。
   ✧ 総合治水や水防意識の啓発に関する説明・案内板を設け展示等します。
   ✧ 地域に根ざした動植物を保護する場として利用します。
   ✧ 地域の生態系に配慮し、貴重な湿地の自然が残るよう整備します。
2. 子供も大人も動植物にふれあい、自然体験できる場として利用します。
   ✧ 調節池の中に、動植物とのふれあいを目的とした浅い池を設けています。
   ✧ 掘削しない場所に、人が憩える北部広場を設けています。
3. 子供達の環境学習の場として利用します。
   ✧ 小中学校の環境学習や総合学習の場として活用できるよう、自然を観察できる場などを設けています。
4. 外周道路は遊歩道として利用します。
   ✧ 自然環境や景観に配慮し、散歩道として親しまれる道路を設けています。
5. ビジターセンターは、多目的集会室やレクチヤールームとして利用します。

II. 引継ぎの徹底

かつての大柏川流域における自然空間の保全・復元するための管理業務は、協定書に記載されていますように、①ワークショップと、その後の検討会（北方遊水池の会）で検討された事項、②市川市自然環境保全・再生指針で指摘された事項と、③開園後に発生した諸問題解の分類に従って遂行することとなっております。

① では、項目Ⅰで言及しました「基本方針」の周知の徹底です。

② では、市は下記の課題とその対策を述べております。

- ✧ 「植生の遷移が速く、ヨシが優先する状態になりやすい」対策としての年間草刈り業務
- ✧ 「通常時の水源は雨水のみであり、天候により枯渇する恐れがある」対策として地下水を汲み上げるポンプ設置や下池の水を汲み上げる発電機の設置による棚池①へ供給
- ✧ 「大雨による大量の水や土砂の流入、湛水により、生態系が激変する恐れがある」、「土手や陸部では、外来植物が優先する群落になりやすい」対策としての外来種駆除

③ では、市は平成28年度にワークショップを立ち上げ、市民、有識者、市職員などから意見を聴取終え、まとめの段階となっております。

経緯

平成23年11月の市政戦略会議において、市は「自然環境の保全・復元が目的ということから、基本的には自然環境への理解・興味がある人を呼び込みたいと考えている。 その上で、一般の人が来ることで目的を理解してもらって利用者が増えることは歓迎するし、そのように仕向けていきたい。」と述べています。

この大柏川第一調節池緑地の認知度、魅力を高めるために、市民団体や地元、県、市で検討し、調節池内の自然環境創造型施設であると明記しています**「基本方針」**の PR・啓発をより一層促進することを要望します。

大柏川第一調節池緑地の維持管理業務は、平成27年度より水と緑の部から環境部へ移管されました。

「草刈り業務」

平成28年度に、各種図面、図面作成手法、スケジュール表を整理しまとめており、平成29年度には、それらのマニュアル化に着手し、「大柏川第1調節池緑地における草刈り図面について」、「大柏川第1調節池緑地における草刈りガイドライン」と「大柏川第1調節池緑地における樹木の剪定ガイドライン」の案を作成されました。ぼっけ生きもの倶楽部は、それらの各案に対して、修正、加筆し提出しましたが、その後の進展は無く未だ完成はしておりません。

「渇水対策」

渇水時のみ稼働する常設ポンプの設置や、下池の水を汲み上げ①棚池へ補給する方法は確立しておりません。

「外来種駆除」

ぼっけ生きもの倶楽部が特定外来生物や侵略的外来生物の除去作業を独自に行って来ております。しかし、市は駆除対象生物の指定、捕獲・除去した生物の駆除処理方法と、駆除作業の遂行者等については、殆ど対応できておりません。外来種駆除作業が円滑に実施できますように、関連マニュアルを作成され、それに準じての遂行するようお願いします。

「平成28年度にまとめられましたワークショップ」

市職員、VC 職員、市民、有識者等から諸問題の聞き取りを終え、市は、市ができる事、できない事、予算に関する事項等を整理されました。しかし、平成29年度以降、市は、ぼっけ生きもの倶楽部を含め、地域市民、市民環境団体、専門家、関係行政機関を交えた協議会形式で検討したいとし、これまで平成29、30年の2回意見交換会を実施されましたが、何一つ解決しておりません。その後、環境団体による協働事業提案制度の認可、私的な会合へ積極的な関与をされ問題解決をより複雑になってきております。まずは、基本に立ち返り「平成28年度にまとめられましたワークショップ」を基に、話し合いを進めることを要望します。

現状

上記のように、平成28年度に確立されました「草刈り業務」と開園後に発生した諸問題を系統的にまとめた「ワークショップ」については、平成29年度以降は、「基本方針」、「市川市自然環境保全・再生指針」への理解不足のめ、引継ぎ十分されていません。加えて、ぼっけ生きもの倶楽部との話合いの拒否などが重なり、維持管理業務に多大な時間を費やしているのが実情です。

市の人事異動は、1，2年で課長、主幹、担当者が異動されます。上記に記載しましたように引継ぎ事項がマニュアルとして書面化されていないため、異動の度の引継ぎが十分できない状態にあります。ここ3年間は、異動後新しく担当された主幹、担当者は、本件を平成2年度から担ってきた再任用者の意向に依存せざるを得ない状況にあるようです。その結果、ぼっけ生きもの倶楽部との話し合いもせず、理解もせずに排除し、誹謗中傷し、虚言を弄し、過去の不都合な真実の隠蔽や、ぼっけ生きもの倶楽部からの質問に窮すると、論点をすり替えた回答又は、回答を放棄した状態に陥っています。加えて、大柏川第一調節池緑地維持管理業務の委託業者数は、水と緑の部が所轄していた8年間では、数社ありましたが、環境部へ移管されてから今日までの7年間は、エイワ建商1社に固定してることに疑問を感じます。

提案

引継ぎを確実にするために、まずは市が平成 29 年度に着手されましたままの各種マニュアルを完成され、引き続き「平成28年度にまとめられましたワークショップ」で掲げています諸課題について協議を加速化され、必要と思われます事項を順次マニュアル化され協定書に追加することを提案します。

なお、本年9月の話合いの場において、市作成の各種マニュアルを完成する事を提案し了解を得ていますので作業を加速化されることを要望します。

参考

協定書（役割分担）第4条

（1）　甲の役割　オ　乙との協議した事項

（2）　乙の役割　カ　その他、甲との協議した事項

Ⅲ. 年間草刈り業務

平成28年度元自然環境課は、開園以来培われました草刈り管理業務を基に、図面の種類、図面作成手法及び、草刈り管理スケジュール表を整理されました。

①. 図面の種類

- 草刈りの基本データである緑地の呼び名を記した図面、草刈り実施担当者とその草刈り区分を定めた区分図
- 草刈り管理毎に必要な図面として、計画図、施工図、実施図

②. 図面作成手法として AutoCAD ソフトの適用

③. 年間草刈りスケジュール管理表

平成29年度は、市は「大柏川第1調節池緑地における草刈り図面について」、「大柏川第1調節池緑地における草刈りガイドライン(案)」と「大柏川第1調節池緑地における樹木の剪定ガイドライン」を作成されました。

それらの記載内容について、ぼっけ生きもの倶楽部に照査依頼がありましたので、修正、加筆などを提出しておりましたが、年度内にご回答がありませんでした。そこで平成30年度は、市はそれらの資料に従い1年間草刈り管理業務を実施しながら、記載内容の修正、加筆などをすることになっておりました。

令和4年度は、修正、加筆内容に加え、平成30年度から令和3年度まで実施されました年間草刈り業務内容を基に見直をされ、それらの各マニュアルに基づいて草刈り業務を遂行されることを提案します。

なお、年度初めには、草刈り手法について総括結果と、草刈り前の生物調査の協力依頼の有無をお願いします。

また、草刈りについては、専門員の調査結果を草刈り施工図に反映させることとなっておりますので、バッタ類、トンボ類の保全のためどのような環境を保全すべきかなどをまとめられました資料に基づき、年初に作成する「計画書」へ反映されますようお願いします。その後、草刈り前の生物調査結果に基づき、必要であれば施工図の修正を申請して下さい。年間の生物多様性プラン等の提出をお願いします。

Ⅳ. 渇水対策

この緑地の水は、主に雨水と周りからの絞り水から成り立っています。若干の湧水を誘導して補充していまが、湧水量は十分でないために、夏季は、棚池の水位は極端に低下し、2．3の棚池がひえ上がったことも過去にありました。

その結果、下記の問題が生じています。

① 希少植物の再生と保全への壁

入園者が希少植物タタラカンガレイを 1-①池と 2-②池で、アサザとガガブタを 2-①池で観察できるように、再生・保全の整備をしています。しかし、夏季には渇水状態となり、これらの希少植物の生育状態が悪化し、場合によっては枯れてしまいます。

一方、水位が下がった範囲は、ガマ、アシが優先し、希少植物の生育を阻害しています。

② 観察、水辺への親しみの喪失

夏季の来園者は、魚類・水生植物観察の楽しみを求めております。そのためには、水を供給する設備が必要です。

③ 「かいぼり」による外来種駆除対策の実施不可

外来種であるコイ、ライギョ等の大型の魚類の駆除の手法の一つとして「かいぼり」があります。棚池の水を抜き外来種を駆除した後に水の補給が必要ですが、現在、水を補給する設備がないため「かいぼり」はできません。

④ 池内草刈り費用削減

池の水を抜いた状態での池内の草刈り作業は、水を抜かないでの池内草刈りよりは、作業効率が改善されます。これは、池内の草刈り単価の改善につながるため、池内草刈り費用の削減に寄与します。

対策として、渇水時のみ稼働する常設ポンプの設置や、下池の水を汲み上げ①棚池へ補給することができた暁には、生物多様性の向上、来園者への親水面や、草刈り管理費用の削減などが期待できます。

平成29年度に、渇水時のみ稼働する常設ポンプの設置等の見積をされていましたが、設置には至りませんでした。下池の水を①棚池へ供給する案に対しては、令和2年度に、携帯用発電機で駆動したポンプで下池や、2－②棚池の水を汲み上げて、棚池2-①池へ補給していました。その発電機を下池近くに設置されたため、騒音に加え、毎日立入禁止区域での発電機起動などの問題を残しました。

V. 外来種駆除対策

2013年の台風26号では、越流提をこえ大柏川第一調節池がほぼ満水になりました。その結果、ミシシッピーアカミミガメ、ミシシッピーニオイガメ、ライギョ、コイ、アレチウリ、オオブタクサが確認されていした。

元自然環境課は、一般的な「外来生物対策」についての記載はされています。「外来生物駆除対策」については、一部検討されておりますので、引き続き下記のマニュアルの作成を要望します。

①. 特定外来生物駆除マニュアル

②. ミシシッピーアカミミガメの駆除及び、カダヤシ、アメリカザリガニの取り扱いについてのマニュアル（市民への啓発の実施も含む）

③. 侵略的外来生物の駆除マニュアル

それらの駆除マニュアルに従い駆除作業の実施を要望します。本年度は、少なくとも、植生撤去時に合わせてライギョ及び、コイの駆除の実施を提案します。

VI. 平成28年度に立ち上げられました「ワークショップ」の推進

平成28年度に「ワークショップ」を立ち上げて、聞き取りを終え、KJ法を用いて整理されております。

平成29年度に第１回、平成30年度に第2回意見交換会を開催されましたが、上記「ワークショップ」で掲げています諸課題の議論はされておりません。

一方、平成30年度に、事業名称は、「大柏川第一調節池緑地の保全と活用を

はかる講演会とワークショップ」の協働事業提案制度を受理されましたが、後者の「ワークショップ」は、時間切れのため実施されませんでした。

しかし、第2回意見交換会において、市は、「意見交換会と目的が同じなので、今後は意見交換会と云った形ではなくて、協働事業提案制度に移していきたいと考えている」としておりますので、結論は保留となっています。また、提案制度は終了しているため、移行することはできず中途半端で終わっております。

なお、意見交換会で議論されました「西門の開門」は、提案制度への移行せずに引き続き市が扱うことになっております。

平成28年度の「ワークショップ」でまとめられました「大柏川第一調節池緑地の維持管理に係る課題整理」を引き続き精査し、検討され、議論されマニュアル化されますことを要望します。なお、市は市がすべき事項、他の部署や、外部へ委託する事項を明確にされ、必要であれば予算措置も検討するとしております。

「課題」

例えば、下記のように整理されており、内容の精査の段階です。

① 放送内容の見直し、安全対策、監視業務
② 保守点検業務
③ ビジターセンターの機能と職員・シルバーの役割
　展示物の充実
　緑地の維持管理
　入園者への啓発
　建物の維持管理
④ 市民への啓発活動の実施
　自然観察会等の開催
⑤ 指定管理者制度の適用

上記諸課題について、

「進め方、展開・成果物についての市の方針」

市が既に述べています「進め方」、「展開・成果物」に沿って議論を進めますよう提案致します。

「進め方」については、平成 29 年度に草刈りマニュアル、管理マニュアル等を作成し、運用しているところです。マニュアルの運用後 1 年が経過することから、内容の見直しが必要であり、そのためには、利用者、市民団体等も参加するワークショップは有効であると考えています。

課題等が抽出され、整理されておりますが、こうした課題について、今後の対策等を検討するのであれば、利用する市民、また他の関係団体も入っていただき、意見を聞くことが重要であると思います。

「展開、成果物」については、

①. ワークショップのメンバーになっていただいた方には、最初に、大柏川第一調節地緑地の基本計画、運営に関する基本計画、管理方針等を説明し、同施設について理解いただいたうえで、現在の状況と既に抽出されている課題等について説明する。
②. 新たな課題等があれば追加する。
③. 抽出された課題については、上記の基本となる計画等のどの項目に該当するのかの共通認識を持ち、その対策について検討する。
④. 最終的には、課題に対する対策及びスケジュールを策定する。
⑤. その後は、進捗管理を行い、情報の共有化を図る。

「生物多様性いちかわ戦略への対処」

大柏川第一調節池緑地の維持管理作業は、市川市との協働のもとに行われておりますので、具体的な達成目標を設定することを提案致します。

幸いに、令和2年度に市川市では、「生物多様性いちかわ戦略」の見直しが行われました。各エリアに対しては、2050年の目標（将来の姿）のみが記載されています。新たな短期目標の設定が必要と考えます。

つきましては、「生物多様性いちかわ戦略」第4章の北東部エリアの考えを活かし、大柏川第一調節池緑地についての新たに具体的な短期目標を市が設定され、その目標に向かって市と共に大柏川第一調節池緑地の保全・再生を進めて行くことを要望致します。

Ⅶ. 情報の共有化

① 市・VC とぼっけ生きもの倶楽部

平成29年度から令和2年度まで、大柏川第一調節池緑地の維持管理等について拒み続けました市とぼっけ生きもの倶楽部との会議が、北市課長により4年振りに開催されました。メールだけのやり取りでは、効率が悪いため、電話や主幹、担当者との話合いも徐々にできるようになりました。

しかしながら、未だ山積しております課題解決のために、重要課題についての進捗会議の開催を提案致します。

また、VC の職員、専門員、関係者とぼっけ生きもの倶楽部間に活動内容に不要な誤解が生じませんように、各位の職務内容の開示と定期的な意見交換をする場の設置を提案致します。

② 渋谷専門員の調査結果の開示

専門員の活動報告として、鳥類、バッタ類・トンボ類などの調査結果を、市の啓発活動として、ビジターセンターや市の HP などへの公開をお願いします。

③ 緑地利用者・作業内容の開示と調整

この緑地がどのように利用されているかを開示することは、市民への啓発になると考えますので、利用申請書や、各調査結果をビジターセンターや、市の HP 等に掲示されますよう提案致します。

加えて、VC 職員を交えて、利用者の活動内容及び、調査区域、調査後の原状回復等を確認し合う定期的な場の設置を提案します。

Ⅷ.ビジターセンター展示について

ビジターセンターの役割には、一般市民へこの緑地の特徴や、年間を通して観察できる生物の紹介など、市民への啓発発信の場であります。

しかし、現在の展示されているものは、既展示品提出者との相談も無く、一方的に入れ替えており、残念ながら、主に利用者の趣味の展示場になっております。

今までの展示品には、北方遊水池の会から引き継いだ物、県の資産品（治水関係資料）、市役所資産品（岡崎著資料）、ぼっけ生きもの倶楽部資産物（写真パネル、標本等）、配架書類（報告書、写真集）、寄贈物（野鳥の巣等）などがあります。

もう一度基本に戻り、展示規準を作成され運用されることを要望します。

また、現在展示されている物、保管されている物、廃棄された物は、関係者の承諾を得るようにして下さい。かつ、それらが分かるリストを作成され、年度ごとに関係者に開示されますようお願いします。

XVI.予算に関する事項

下記に費用が発生する事項を掲げますので、事前に予算枠の確保をお願い致します。

① 大柏川第一調節池緑地の備品の更新

生活環境整備課は、大柏川第一調節池の棚池内にある池番号看板20か所、掲示用看板15か所の点検を平成31年に終えております。その結果、交換するもの、塗装を要するものに分類されておりますので、その結論に準しての更新をお願いします。なお、更新に当たっては、看板形状等について提案させて頂きます。

棚池外に設置されています看板も相当劣化しておりますので、点検され、その結果に準じての対応をお願いします。

② 水止め資材の確保

草刈り計画、水位計画を基に、水止め板、ゴム、エアコンパテ、塩ビパイプカバー、楔を、必要数の確保をお願い致します。

③ ぼっけ生きもの倶楽部事業報告書製本 4 部

ぼっけ生きもの倶楽部事業報告書の4部製本をお願いします。内訳は、ビジターセンターに配架、市川市中央図書館と千葉県中央図書館へ寄贈、そしてぼっけ生きもの倶楽部に各 1 部となっております。なお、寄贈は、ぼっけ生きもの倶楽部が手続きを行います。しますので、合計4部製本をお願い致します。

XVI.その他諸課題

① 西門の開門について

本件は、子どもの誘惑対策など既に指摘している課題への対策、今まで開門しなかった理由、データを基に環境影響評価方法を用いての生物環境結果等手順を踏んで皆さんへ説明する方向で進めることとなっています。

以上のように、既に決まっています手順、方向性で進めますよう提案します。

「経緯」

平成 31 年 1 月稲葉次長主催の会議で要望していますように、市は「環境影響評価方法を確立され、その後にその方法を適用した結果を基に結論を出すこと、開門後の課題の抽出と環境影響軽減策、問題の対応策などを検討することとなっております。

令和元年 9 月の第 2 回意見交換会では、市は「利用する人の利便性も生態系も守っていくといった方向が良いのではないかと感じている」と述べています。

令和2年2月市との話し合いにおいては、子どもの誘惑対策など既に指摘している課題への対策、今まで開門しなかった理由、データを基に環境影響評価方法を用いての生物環境結果等を皆さんへ説明し、今後手順を踏んで進めることとなり、持ち帰って考えるとされております。

なお、令和元年8月に送付して頂いております「アンケート調査結果」にも、同じような課題を挙げてあります。

② 意見交換会

令和元年9月29日に第2回意見交換会の議題は、「西門の開門」、「緑地内の立ち入り禁止区域について」と「その他」であました。「その他」で、緑のみずがき隊森角氏から、市川市協働事業提案制度の市に提出したとの報告がありました。

“市は、協働事業提案制度を内部で受けるかどうか調整している。その提案内容は、「この調節池をどのようにしていいものにしていくか」という内容で、市民の方が主体となって進めていくというものである。この意見交換会と目的が同じなので、今後は意見交換会といった形ではなくて、協働事業提案制度に移していきたいと考えている”と締めくくられて終わっています。

協働事業提案制度は、2019年度に申請され、その事業名は、「大柏川第一調節池緑地の保全と活用をはかる講演会とワークショップ」となっていました。「講演会」が2020年1月に開催されたことは、協働事業提案制度事業を市が認可したことになりますが 「ワークショップ」事業内容の詳細は開示されていませんので、「西門の開門」の記載があるかは不明でした。

「西門の開門」

その後、「西門の開門」については、協働事業提案制度へ移管しないとの連絡を受けておりますので、別途生活環境整備課主導で進めますよう要望します。

「立入り禁止」

“環境部に移管され、立入り禁止区域を決めた経緯を把握していなし、何の資料

も無い中でこれ以上話をしてもまとまらない。次回集まって頂くまでに、立入り禁止区域になった理由や経緯を調べて、分かれば説明したい”で終わっています。

2020年度以降協働事業提案制度の更新はされていませんので、協働事業提案制度の「ワークショップ」で話し合うことは無くなりました。第 3 回意見交換会を開催され議論を進めるよう提案したします。

「その他」

皆さんへの配布をお願いしました「ぼっけ生きもの倶楽部からも検討して欲しい事項」の検討依頼の検討も同じように中途半端な状態にあります。

なお、「ワークショップ」と呼んでいるものには、⑴平成28年度にまとめられた「ワークショップ」と、⑵協働事業提案制度に記載されています「ワークショップ」とがあります。

前者の内容は、資料としてまとめられておりますが、後者については、提案制度を認可されましたので、その内容開示を求めていましたが、未だに開示されていません。

重要な課題が山積しておりますので、第 3 回意見交換会を開催され議論を進めるよう提案したします。

③ 西広氏の集い

令和2年8月、生活環境整備課は国立環境研究所の西廣氏に資料「西PP鳥類調査結果」と担当者「個人の意見」を送付され、西門の開門についての意見を求めました。しかし、西廣氏からは、「短期間の生物調査の結果だけを見て開門の是非を議論するのは適切ではないこと、生物への影響と利用者の要求の両方を考慮し、また良好な環境を維持する活動を続けておられる方の支援のあり方も考える、「議論のあり方」こそ重要であると述べております。その結果、西広氏の要望で、市川市協働事業提案制度を申請された環境3団体、有識者、生活環境整備課職員、専門家、学芸員に加え、参加要請の依頼を受けましたぼっけ生きもの倶楽部もこの集まり参加し、西門の開門を含む大柏川第一調節池緑地管理ついての意見交換を行なわれました。

この西広氏の集いは、令和3年5月、6月、7月と11月の土曜日に、生活環境整備課職員3名も参加されました。11月20日の意見交換会では、まだ多くの課題についての議論がなされていないにも関わらす、次回1月には、準備会を発足し来年4月に向け、呼びかけ文や規約等の作成をする等が決まっていたことに驚きました。しかし、ぼっけ生きもの倶楽部は、各集りの場で意見は述べてきました結果、「基本方針」と市長回答で示されている「自然環境保全再生指針」を基に、これらの方針を実現するための議論をすることが確認できました。

準備会は、ウィークデイに開催されるとのことでしたので、会員には仕事を持っているため参加が難しいこと等から準備会への参加は見送ることとしました。

資料 V.1 進捗会議報告書（令和４年12月21日）

開催日：令和 4 年 12 月 21 日　14：00～15：30
出席者：北市課長、武田主幹、金森（生活環境整備課）
　　斎藤、高沢、酒井

今回の進捗会議を通して市の意向が下記のように感じられた
重要案件、草刈り状況などの話についての市の回答は、**今までと異なり、真摯な回答をする様子は全くなかった。市は、曖昧に腕押し状態を維持して、煩わしい我々からの積極的提言を受け流す体制を継続させて、我々の意欲の衰退するのを待っているとの印象を受けた。**
今まで回答してこなかったのは、当方からの質問内容がむずかしこと、課の仕事が忙しいからとの説明があった。
市は**報告書が大柏川第一調節池緑地の経緯が記載された資料の価値を認め、記載内容については、市がチェックし仕上げ、HPや配架をしてきた。**
しかし、過去の経緯を引き継いでいないためか、市は報告書内容には関与しないので、責任は持たない。市作成の施工図等の図面を掲載するに当たっては、市へ許可を得て掲載する等の指示を受けた。
配架については、配架しなくてはならないとは理解していないと言及された。

進捗状況の話合いの前に、「市より京葉ガス（j株）による大柏川管横断工事の計画について」の説明があった。
引き続き「重要事項」の進捗状況の話となった。
進捗会議であるので、回答期限の回答日の確認であったが、武田氏より個々の案件についての説明をするようであったが、全ての項目を話し合うには時間が足りないので先に進んだ。

ぼっけ生きもの倶楽部から、「2022年度の草刈り」を基に、草刈り後の状況を、「令和4年第 3 回目草刈り検証」を基に、実情を説明した。
引き続き、[12月12－14日施工後」についての状況を説明した。

市：他に忙しい業務があるので、時間がとれない。
カーボンニュートラル、カーボンオフセット等他 CO2 関連で忙しいので調節池は後回しである。
予算は年々減っていくので、近いうちに人が利用する範囲(立ち入り禁止区域外)の草刈りをするのみとなろう。
その点で、ボランティアの方々に協力してもらえるのは、ありがたい。
助成金については、わざわざ、国から助成金をもらえない。環境省から助成金をもらっている

自治体は存在するし、模範的な活動をしていることを説明した。

コメント：おそらく、市は助成金を得ようとする行為を行ったことがない。毛頭に無いので手段候補に上がらないのだと思われる。

市：倶楽部の質疑に応答していられない。

酒井のメールが難しいし、理解に苦しんでいる。

回答できない内容は回答しない。

重要案件の回答できるものだけ回答する。その内容は記載したもののみである。

話し合いが不足していることは承知しているが、その場を設けられない。引き続き話し合うつもりはない。

コメント：市は積極的な回答を控える。姿勢も消極的。

進捗状況欄では、「時期未定」「変更しない」「今後考える」「市側で判断する」「検討する。」「課の資料として取り扱う」「見直したい」等の羅列。

真摯に話し合う気は全くない回答であった。

令和 3 年度事業報告書をHPにアップし、今回配架するための冊子を提出した。

記載内容、個人情報、市の了解などの扱いに問題があるので、R2年度及び、R3年度の事業報告書の公開は一時的に停止したとの説明あり、冊子の受取りを拒否された。

市より報告書作成についてのコメントを書面で受理した。（添付資料）

市：報告書の精査は、担当者が休職しており、他の人をあてがえない状況である。報告書の精査は出来ないので、倶楽部で個人名などに配慮し作成するようにと。

今までは、市が内容をチェックした後にHPへアップ、印刷してきたことを説明。内容を修正した例や、黒塗りをして等を説明した。

コメント：**松村氏が黒塗りした報告書を知らない様子であった。**

市がやるべきことをしていない不作為の結果である。

市：R3 年度事業報告書について

キャビネット内の報告書画像を削除する。

各ページの名前、肩書きを削除する。

個人宛の文書、メール、会話記録を削除する。

職員の名前を削除する。

市作成の施工図等は掲載に当たって市の了解を得ていないので削除する。

市：課長より、報告書のVC内キャビネットに収納された画像について 2 度言及された。

市は、当時の流れを聞いてきた。酒井がVC内キャビネットに収納されている我々の報告書を強要して撮影させたという事で話をまとめようとしているように感じた。

経緯については、下記のように話した。
配架していないので保管場所を、VC展示責任者渋谷氏に確認した。（注：市には、VC展示責任者を問うていたが回答が無かった）
事務所に保管しているとの回答であった。事務所内は外部者の立入禁止であるとのことであるので、保管場所の確認をお願いした。そこにいた阿部さんの了解を取られ、渋谷氏が撮影された。
今回ぼっけ生きもの倶楽部へ伝えた事で課長は上層部に報告し何等かの対応を取る可能性を含めて口を閉ざした。

コメント：その後、生活環境整備課へ質問しているが回答無し。
事務所内のキャビネット内に収納理由。
その後4冊のみ配架。 残りの報告書：渋谷専門員は知らない。
・報告書全てを配架しなかった理由
・残りはどこに保管しているか
・貴課は VC の誰にどのような指示したか

配架について

市：R2年度報告書は、市民（山崎氏）からの苦情が具体的に出されているため配架しない。山崎氏からの申し立てに対処するように要求された。
コメント：報告書内容を市がチェックしたものを HP へアップ及び配架してきたので、本来は、こちらが対処することではない。

市：配架しなくてはならないと記載した書類はない。
コメント：今まで配架してきたことをどのよう考えているのであろうか。

斎藤さんと市とのやりとり

資料「2022年度草刈り」
第2回目
オオヨシキリ繁殖失敗
法尻南において升周り草刈りの中止を要望し施工図に反映して頂いたが、業者が修正版を用いずに施工した結果、育雛期に入ったばかりのオオヨシキリは放棄した。
松村課長時代に行われた刈り巾倍増施工により寄り付かなくなり、戻ってきた矢先の事である。
コメント：武田主幹は残念そうであったが、残念では済まされない。

1・2-②間通路の脇

市：刈ったにも関わらず、刈ったことにしない。

コメント：市の姿勢に対し理解に苦しむ

第3回目

2ー③陸域における重機使用

市からは、工期内5日足を運んだが、重機使用の痕跡が見られなかったという回答。

コメント

我々のコメントが嘘だと言うのか？

なぜ、すぐにVCに確認してもらわないのか？

重機が放置した画像及び轍が全面に残った画像を示すなど警察のような事を提示しなければならないのか？

市の姿勢に対し理解に苦しむ

第4回目

1・2ー②間通路の脇

市：刈ってないにも関わらず、刈った事にする。

コメント：市の姿勢に対し理解に苦しむ

第5回目

刈り忘れが続き、12月まで続いた。12月まで修正施工を行う体制があり得ない。

冬鳥がテリトリー形成で落ち着いてきたところで施工するなどあり得ない。

本来は4月頭に施工する内容であるし、冬季にクズ刈りなどを行っても既に栄養は地下茎に溜め込んでおり、意味がない。

コメント：市の姿勢に対し理解に苦しむ

まだ刈り忘れがある。

コメント：実施図に反映する事。をお願いした。

4ー① なぜ、イトモ類が再生したのか未検証で回答無し、しかも、レッドデータランク格下げに言及し、今回、昨年と同様に植物体を土壌に漉き込み耕起したとの事。

12ー14日で業者が施工した事を知らない様子で、これから行うと言及された。

コメント：イトモ類は泥の堆積量がネックではないかと推測しているが定かではない。

しかし、トラクターが泥にハマった事から泥上げ施工した結果、再生した経緯があると説明したところ、経緯を知らない様子であった。

その他

ライギョ・コイの駆除について

過去の経緯からして、水位が高い状態では難しい。どのようにするかを質問した。

市：胴長を履いてタモでつかまえる。

コメント：このような話をはぐらかすような回答。話が噛み合わない。

報告書及び、配架についての今後の対応

当面の対策として　修正見直しを目的とし

1. 報告書は全て回収し、再配架を要求しない。
2. 市川市が図書館へ寄贈した分も含め全てを回収する。
3. 市がアップした報告書全てを削除する。
4. 山崎氏への対応としては、処理結果を山崎氏と市へ報告して終える。

市配布資料

市：　京葉ガス株式会社による大柏川ガス管横断工事の計画について

重要案件　フォローシート

令和 2 年度及び、3 年度分、一時公開停止書面（タイトル無し）

ぼっけ生きもの倶楽部：

2022年度草刈り

令和 4 年第 3 回目草刈り検証

12月12－14日施工後検証

以上

資料 Ⅵ.1 県民の環境活動支援事業助成金実績報告書

第５号様式（第１８条）

県民の環境活動支援事業助成金実績報告書

令和５年４月１４日

一般財団法人千葉県環境財団理事長　様

（団体の所在地）市川市北方町 4－1996－1208
（団体名）　　ぼっけ生きもの倶楽部
（代表者氏名）　　斎藤　慶太　印

令和４年４月１日付け千環財第１号の３０で交付決定のあった令和４年度県民の環境活動支援事業助成金の助成事業を完了したので、県民の環境活動支援事業助成金交付要綱第１８条の規定により、下記のとおり報告します。

記

１　助成金交付決定額　　２１１，０００円

２　実績額　　２７９，７４１円

３　事業完了年月日　　令和５年３月３１日

４　添付書類
（１）助成事業成果報告書　　（別紙１）
（２）収支決算書　　（別紙２）
（３）助成事業自己評価書　　（別紙３）
（４）領収書の写し等支出を証明する書類（助成対象経費に係るもの）
（領収書の写し等は収支決算書の記載順にＡ４サイズの用紙に貼付してください。１枚の用紙に複数の領収書等を貼付しても構いませんが、それぞれの領収書の写し等が重ならないようにしてください。機材運搬用車両の燃料費は、領収書の欄外に走行距離、燃費（１リットルあたりのおよその走行距離）、燃料使用量（走行距離／燃費）、燃料費（燃料単価×燃料使用量）を記載してください。）
（５）その他助成事業に関する資料

資料 VI.2 希少種「ツツイトモ」の保全

文献によると「ツツイトモ」は。ザリガニの食害により消滅することが分かっているので、ザリガニ避けのネットで包んだ生け簀池（イトモ池）を設置した。その中にトロ箱に保全していた「ツツイトモ」の一部を移植し増殖を試行した。

移植後は、沈めたがトロ箱のツツイトモは、順調に生育していたようであった。しかし、7月24日には、ツツイトモが消滅していた。そこでモンドリを設置しが、ザリガニは入らなかったが、28日再度もんどりを設置した結果、ザリガニ大1匹捕獲できた。
その後、ツツイトモの生育は確認できなかった。
次年度、ザリガニ駆除等を図り、再度増殖の試行を継続する。

イトモ池の設置

5月15日




トロ箱に赤玉土を入れ、保全していた「ツツイトモ」を入れた。




ネットで覆われた網と塩ビパイプの浮き製作中



網の中に「ツツイトモ」が入ったトロ箱を沈め中



浮きを取付け

5月29日 浮きに水漏れが生じたので、塩ビパイプ内にペットボトルを挿入した。



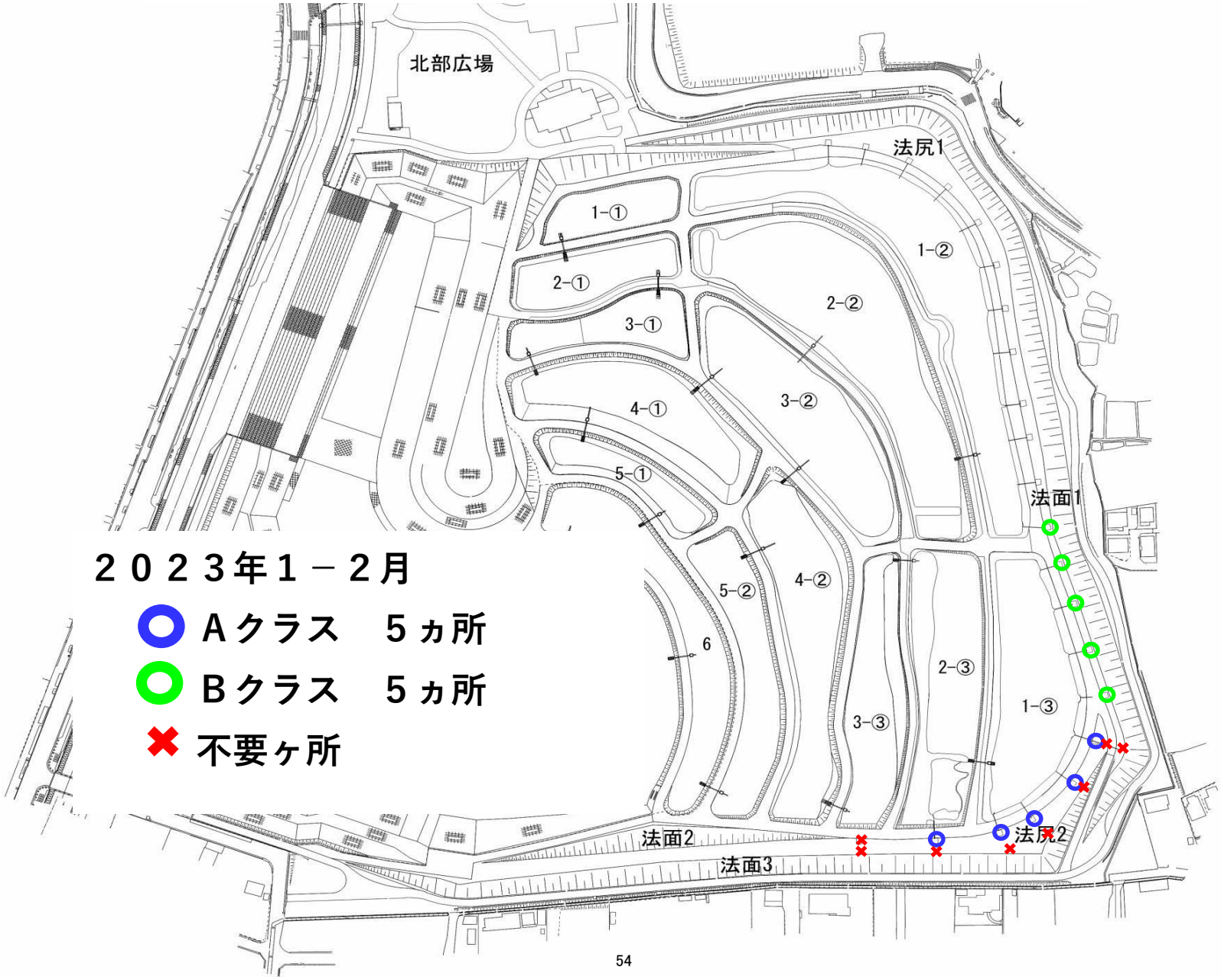


観察経緯

	トロ箱	イトモ池
6月5日	 順調に生育	 順調に生育
7月3日	 順調に生育	 生育状況目視できず
8月7日	 順調に生育	 以後　消滅

	トロ箱	イトモ池 消滅
10月2日		
12月4日		
2月5日		

資料 V.3 升へお助けアイテム設置場所図



資料保 VI.4 主な希少植物 育成経緯(2022/4～2023/3)

月日	名称	
	タタラカンガレイ	
	1-①池	2-②池
4月3日		
6月5日		
8月7日		
10月2日		
12月4日		

2月5日





ガガブタ　2-①池　パイプ池

4月3日



8月7日





10月2日





12月4日





2月5日





アサザ　6池

4月3日





8月7日





10月2日





12月11日





2月5日





下池

ジョウロウスゲ

サジオモダカ

4月3日





8月7日





10月2日





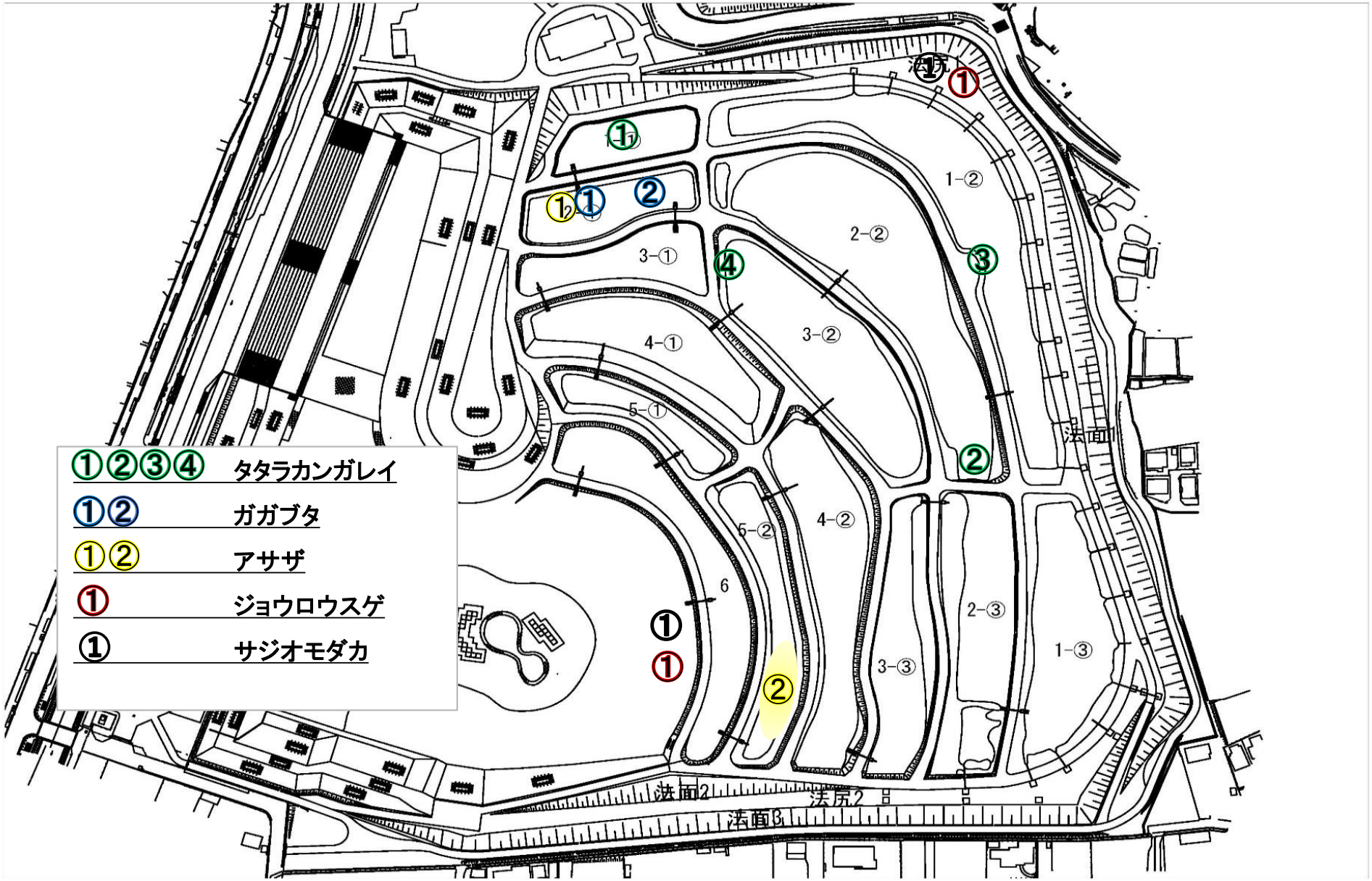
11月13日





12月5日
1月8日　　冠水
2月5日

資料 VI.5 希少植物分布図



資料 Ⅶ.1 ビジターセンターの事業報告書並びにパネル等の展示経緯

報告書について

市からぼっけ生きもの倶楽部の報告書を市の HP へ載せたいとの申し出あり了解した。その結果、協定書に記載されている市の役割の一つとなった。

そのため、我々が作成した報告書を市に提出し、市は報告書の記載内容を精査し、修正、削除などをされた後、市の資料として HP へアップ、配架してきた。記載内容についての精査は、課長ないしは主観が担当されていた。」

令和2年度報告書は、HP へアップしたとメールで回答があったので、市が上記手順を踏んでの結果、HP へのアップと配架をしたと理解していた。

平成3年度報告書は、令和5年9月20日デジタル版を市へ提出し HP へのアップを依頼した。

12月15日付けで HP へアップしたこと、報告書を配架する旨のメールを受理した。HP へのアップの確認をし、配架用報告書を準備した。

しかし、12月21日の会議において、「報告書の内容や個人情報の取り扱い等において、行政機関の Web サイトで広く公開・周知するにはそぐわないと思われる箇所が見受けられる」と書かれた書面が配布された。HP へアップしていた令和2年度及び令和3年度の報告書を削除したこと、配架するため持参した令和3年度報告書の受理は拒否された。急遽今までとは全く異なった対応になったのは何かがあったのであろう。

加えて、令和2年度の報告書について、市民山崎氏からのクレームについての事後処理結果を報告するよう要求された。

コメント

報告書について

1. 今回、上記のように、報告書の HP へのアップと配架は、市の責任において行われてきていました、そのような経緯を無視し、市は報告書内容には関与しないので、責任は持たないと述べた。市が責任を持たない報告書を、市の HP へアップできるのだろうか疑問である。
   この行為は、市の職務放棄に等しいことを公然と発言した。
   報告書にはこの緑地の自然環境保全経緯を記録として残すことが重要であろう。それにもかかわらず、市作成の施工図等の図面の掲載についても、市へ許可を得て掲載する等今までにないクレーが書面で出た。
2. 報告書の記載内容については、市の問題点は記録として残すと事前に知らせてきました。そのため、市が修正、削除などは容易なことと思われる。
3. 山崎氏のクレームについても、12月の会議で初めて言及された。
   市が記載内容を精査したものが配架されているので、市へクレームするようにと言った。なお、本件は、市がクレーム処理をすべきである。

耳が遠いので会話ができないため、クレーム内容等を確認するため自然誌会のメンバーの方の紹介を依頼していたが、回答がないままであると述べた。

2021/4/4

パネル類は、撤去済であった

事業報告書は、受付前の棚の床に配布していた。

2020 年度事業報告書から、報告書配架状況を記載した。

















況















報告書配架状況

ぼっけ生きもの倶楽部が展示したパネル、ガラス製展示棚内の資料、造成時に採取した貝殻類

などは、何の連絡も無く撤去されていた。

2021/6/20



ビジターセンター展示についての経緯

2022/5/8

報告書の保管場所確認できず。

職員阿部氏、シルバー職員は、誰もどこにあるか知らないとのことであった。

VC の展示については、渋谷氏が管理とのことであった。

5/9 市に、展示責任者をメールで聞いている。 回答無し。

2022/6/12

渋谷氏に報告書の保管場所を確認したいので聞いた。

事務所内のキャビネット内に保管しているが、事務所内は立入り禁止である言われた。

保管関していることをしていることを確認したいと申し出た。しかし、立ち入り禁止の一点張りであった。確認方法としての代案もなかった。





確認方法として、渋谷氏が保管状況を撮影した。撮影に当たっては、他の資料が写らないようキャビネット内を整理された。

その際、キャビネット内の撮影することが禁止されているとの説明は無かった。保管確認後、写真破棄や、写真の転用不可などの説明も無かった。

6/13 配架でなくキャビネット内収納理由は生活環境整備課に問い合わせるよう渋谷氏からの回答委があったので、メールで問い合わせている。 回答無し。

8/23 回答催促メール送付 回答無し。

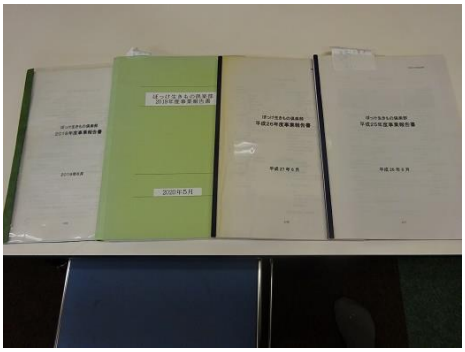
12/21 の会議で配布した資料の回答参照。

2022/9/1

配架確認

絵本コーナー　但し、4冊のみ。





9/12 絵本コーナーに 4 冊のみ配架。

渋谷氏は、残りの資料がどこに保管しているかは知らない、市に聞くようにとの回答であった。

市にはメールで、「市報告書全てを配架しなかった理由、残りは何処に保管しているか。渋谷氏へどのように指示されたか。」を問い合わせている。 回答無し。

12/21 の会議で配布した資料：質問に答えていない。

- VC への配架について；は市側で判断する。
- 令和2年度事業報告書については、他団体より内容への抗議がでていることを把握しており配架を見合わせている。

その後

12/22 VCに保管されている全ての報告書の回収を申し出。

12/23 市より、平成 27 年度、平成 28 年度、平成 29 年度の 3 冊欠落。課で改めて印刷・製本を行なうことも考えております。との回答があった。

12/26 渋谷専門員立ち合いの基、平成20年度から平成 26 年度と 2018 年度から 2020 年度の事業報告書を受け取りました。

平成 27 年度、平成 28 年度、平成 29 年度の事業報告書の 3 冊が欠落確認。

今後の報告書処理については下記のことを計画している。

・配架

VCからは全て回収済

市中央図書館から全て回収する。

県中央図書館は配架なし確認済(12/28)

・HP

VC及び市図書館から全てを回収後に、削除依頼する。

・市及び、山崎氏へ対応：処理完了通知を提出する。

資料 VII.2 令和２年度及び、３年度分の公開一時停止通達

令和 4 年 12 月 21 日

ぼっけ生きもの倶楽部 様

生活環境整備課

ぼっけ生きもの倶楽部様の事業報告書の市公式 Web サイトへの公開につきまして、その内容や個人情報の取り扱い等において、行政機関の Web サイトで広く公開・周知するにはそぐわないと思われる箇所が見受けられます。

そのため、申し訳ありませんが、令和 2 年度及び 3 年度分を、一時的に公開を停止させていただきました。

(1)一般人の氏名掲載について

上記 2 か年度の事業報告書において、複数の個人名(苗字のみも含む)や肩書が記載されていますが、市公式 Web サイトへの掲載を生活環境整備課に依頼する前に、各人に名前が載ることの了承を得ていますでしょうか。

(2)特定個人宛の文書、メール、会話記録について

これらは掲載にあたり、相手方に、公になることやその内容について、事前に了承を得ることが社会的な常識です。了承は得ていますでしょうか。

(3)大柏川第一調節池緑地自然誌研究会山崎氏からの要求書について

令和 4 年 2 月 20 日付けで、令和 2 年度事業報告書についての抗議・削除要求が文書で出されているかと思います。

本件について、生活環境整備課にはご相談をいただいておりませんが、進捗はいかがでしょうか。2020 年度事業報告書を VC に配架していないのは、市民(山崎氏)からの苦情が具体的に出されていることによるものです。

対応につきまして、山崎氏との話がまとまりましたらお知らせください。

9 (4)画像削除について

令和 3 年度事業報告書 28 ページに載せられている「報告書と保管されたキャビネット」の画像を削除してください。

0 (5)職員の氏名について

職員氏名の Web 上での公開は控えていただきたくお願いします。

(6)市作成の資料の掲載について

発行物に他者が作成した文章・図面を掲載する際は、その都度、作成元の承諾を得ることが社会的な常識です。

草刈り図面など課で作成した資料を、毎年度の事業報告書に載せていますが、少なくともここ 2 年は、掲載についてのご相談をいただいておりません。無断で市作成の図面等を掲載していると認識しています。次回以降は、毎年度、掲載の承諾依頼を生活環境整備課へお願いします。

なお、本市作成の草刈り図面等は、事業報告書に載ることを前提に作成しているものではありませんので、ご承知おきください。

以上

資料保 01.1 2023年度草刈り予算申請図

草刈りについてのまとめ

草刈り回数 期間	第1回目 04/01～04/10	第2回目 05/20～05/23	第3回目 06/20～6/30	第4回目 07/20～08/10	第5回目 09/01～09/5	第6回目 10/20～11/05

北部広場、堤体上部の草刈りは、一般的な公園緑地の管理に準じる。

4月1日～4月5日

- 鳥類の繁殖期前である4月10日までに完了すること。
- 冬季に越冬する動物のために刈り残した枯草の草刈り
- 草刈り手順は、外側から内側の順とする。
- 選択除草あり。 主に通路脇のヤブ化防止。

5月20日～5月23日

- 5月23日までに完了すること。 配慮事項　施工や刈り草処理は短時間で行う事
- 親水性と安全性確保のための草刈り。

6月20日～6月30日（梅雨入り後）

- 6月30日までに完了すること。 配慮事項　施工や刈り草処理は短時間で行う事
- 草刈り手順は、外側から内側の順とする。
- 鳥類の繁殖期であるので作業中に営巣を発見した際は、一旦作業を中断し
  他のエリアへ移り作業を行いその旨をビジターセンターへ連絡すること。
- 基本的にヨシ原などの高茎植物群落は手入れしない内容となる。

7月20日～7月31日（前半　整備エリア）、8月1日～8月10日（後半　開放エリア）

- 整備エリアは31日までに、開放エリアは、10日までに完了すること。
- シギ類、チドリ類の飛来期であるので、必ず整備エリアは7月31日までに完了すること。
- 草刈り手順は、内側から外側の順とすること。
- 選択除草あり。主に通路脇のヤブ化防止。 注視事項　特定外来植物除去

9月1日～9月5日

- 草刈り手順は、外側から内側の順とする。
  昨年度、有識者から提案されたクズのみを除草する手法は2022年度からコスト高等により施工困難となる
- 選択除草あり。 外周法面・法尻や通路脇のクズを主としたツル性植物やヤブ化した高茎植物群落刈り。

10月20日～11月5日

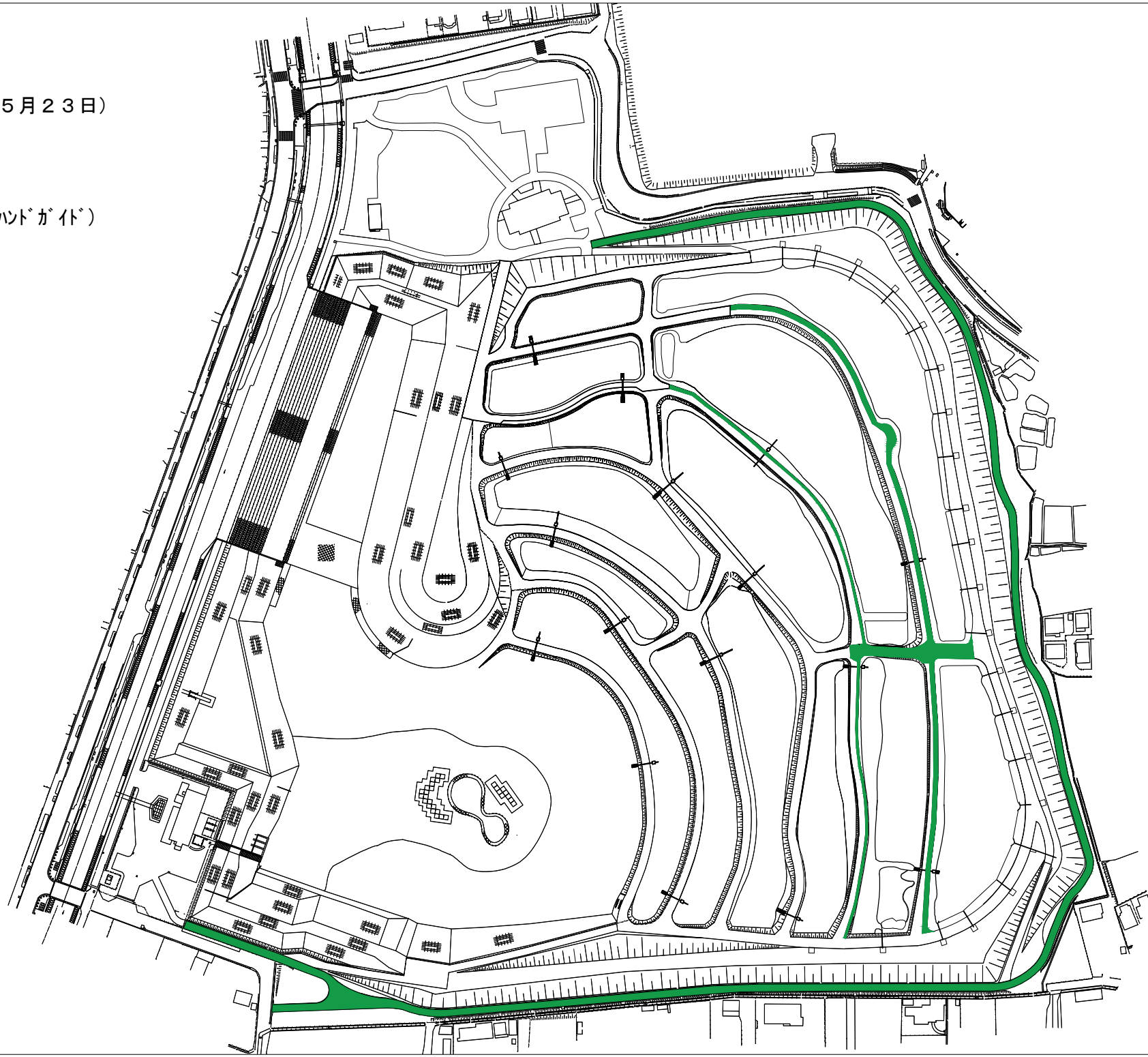
- 冬鳥の飛来が始まる11月5日までに完了すること。 全体的に刈り過ぎないように注意する事。
- 草刈り手順は、内側から外側の順とする。
- 親水池 1－②外側、1－③池の法面を入園者の安全確保のため、緩斜面への地ならしをすること。

注1. 工期について
　　遅延の可能性がある場合は、草刈り面積を削除して期間内に終わらせるよう調整すること。
　2. 施工前に、カイツブリの繁殖状況の調査を行い、営巣場所を確認した場合は、巣から半径10mから15m範囲を刈らないこと。

２０２３年度計画図面

第２回目（５月２０日～５月２３日）

草刈り（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）



２０２３年度計画図面

第３回目（６月２０日～６月３０日）

草刈り（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）

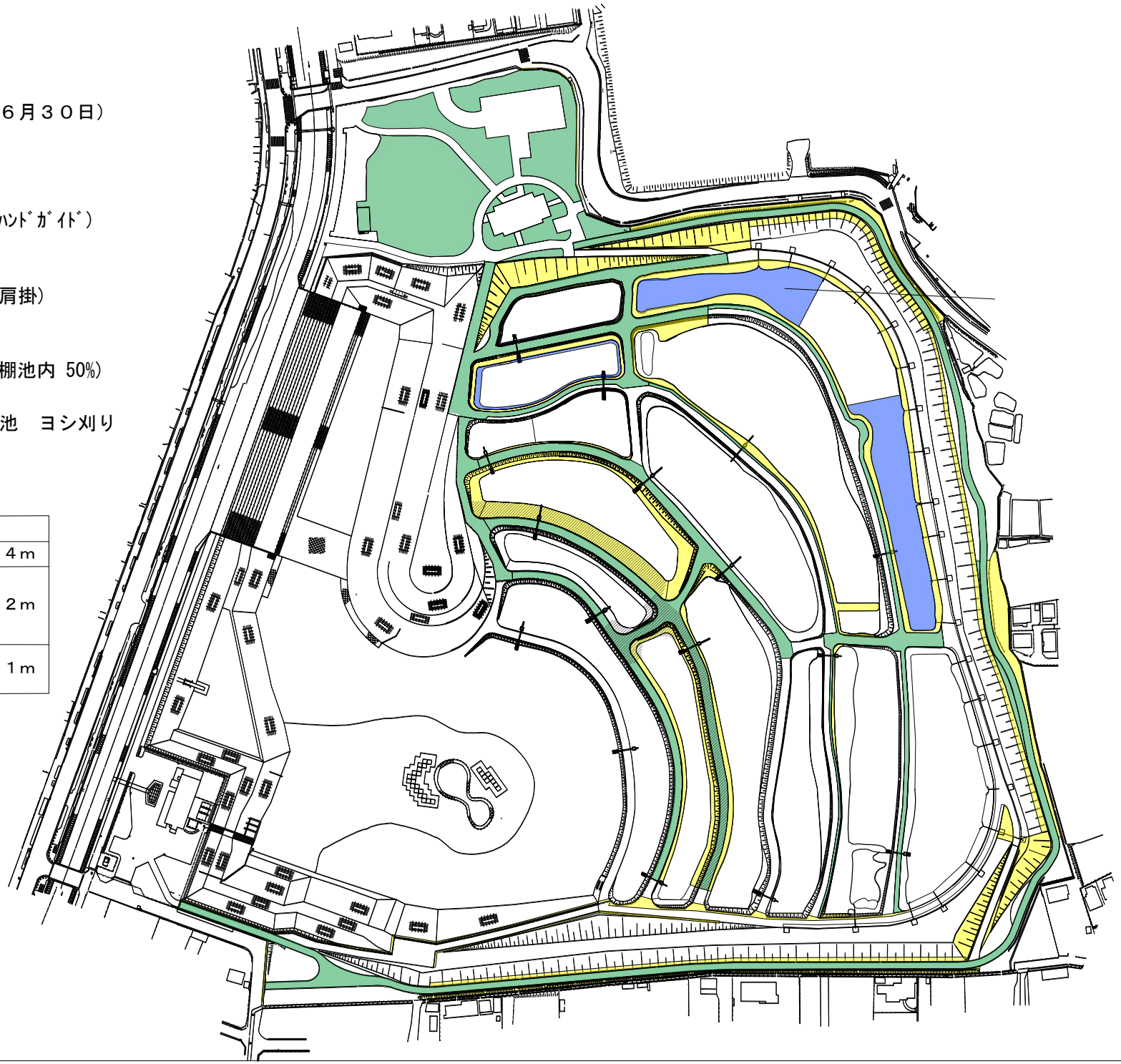
草刈り（肩掛）

草刈り（棚池内 50%）

1-①池、2-①池　ヨシ刈り

手順：外側から内側

通路幅	
1, 2-①池間通路	４ｍ
1, 2-②池間通路	２ｍ
1, 2-③池間通路	
2, 3-①池間通路	
2, 3-②池間通路	１ｍ
2, 3-③池間通路	



２０２３年度計画図面

第４回目（７月２０日～８月１０日）
注）整備エリア：７月３１日まで

草刈り（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ+肩掛）

草刈り（肩掛）

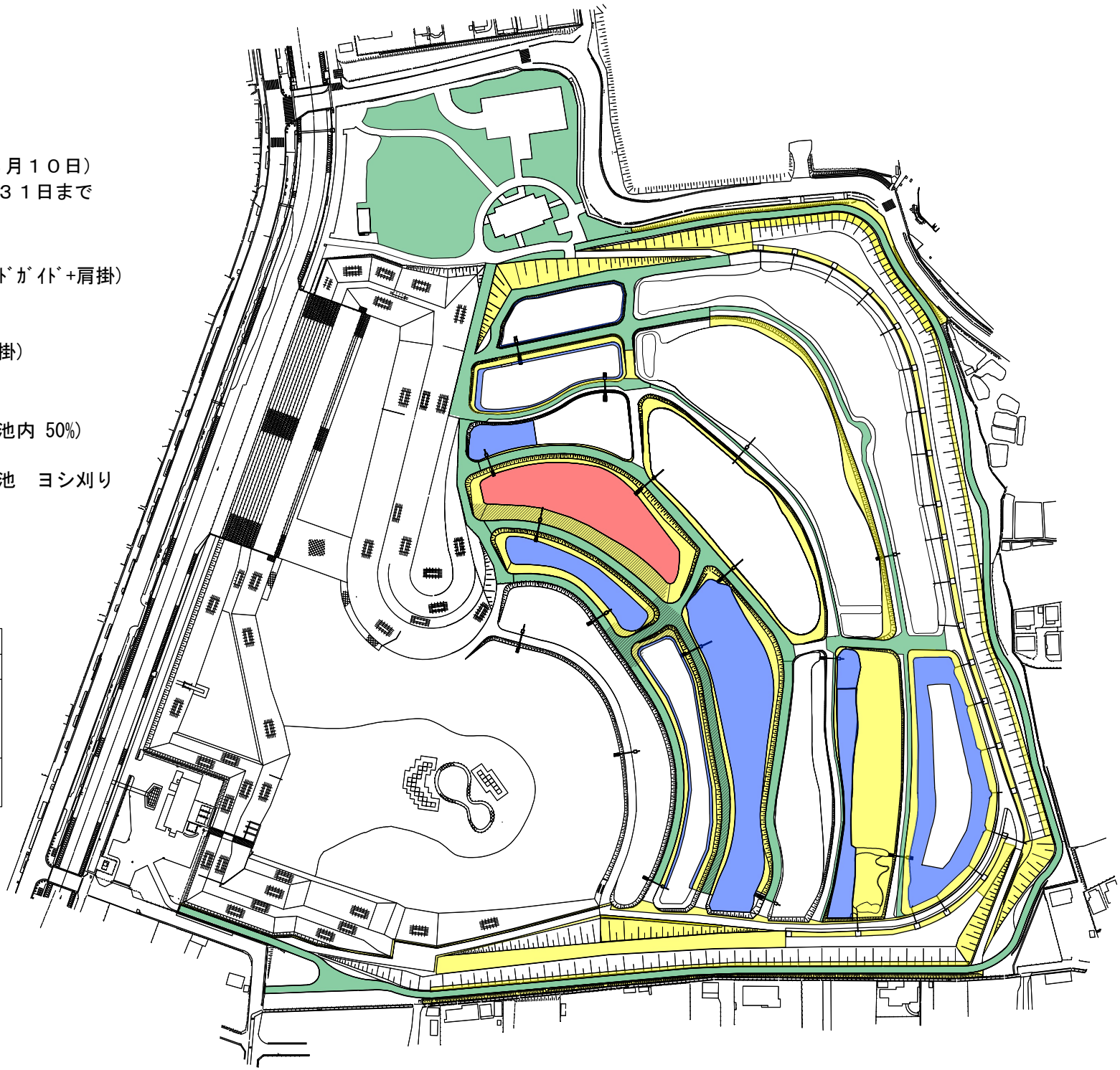
草刈り（棚池内 50%）

1-①池、2-①池　ヨシ刈り

耕起

手順：内側から外側

通路幅	
1, 2-①池間通路	４ｍ
1, 2-②池間通路	２ｍ
1, 2-③池間通路	
2, 3-①池間通路	
2, 3-②池間通路	１ｍ
2, 3-③池間通路	



２０２３年度計画図面

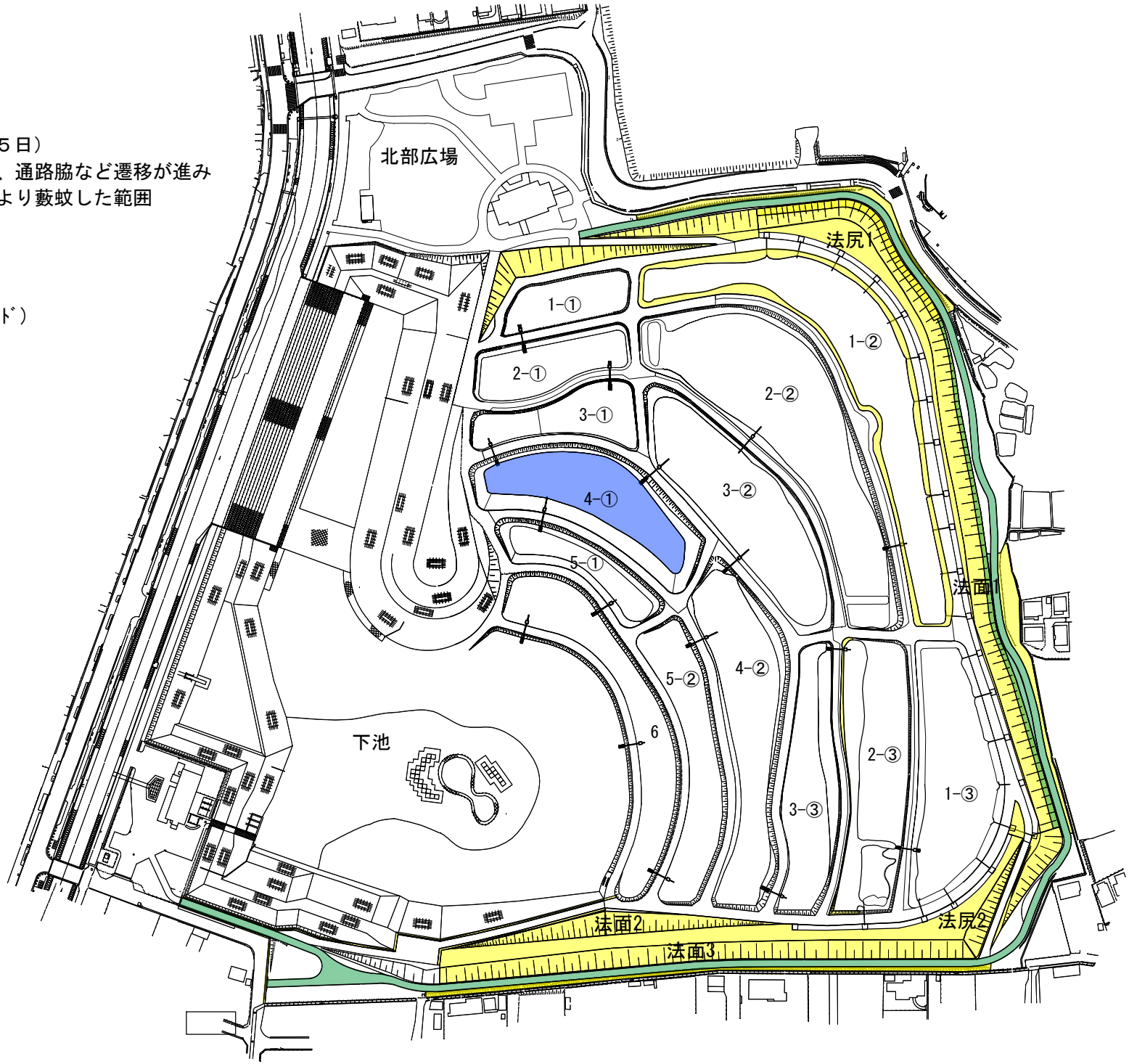
第５回目（９月１日～９月５日）
法面1,2,3、法尻1,2及び、通路脇など遷移が進み
高茎化及び、蔓性植物により藪蚊した範囲

手順：外側から内側

草刈り（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）

草刈り（肩掛）

草刈り（肩掛）



２０２３年度計画図面

第６回目（１０月２０日～１１月０５日）
整備エリア：１０月２５日まで

手順：内側から外側

草刈り（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）

草刈り（肩掛）

草刈り（棚池内 50%）

耕起

植生撤去

通路幅	
1, 2-①池間通路	４ｍ
1, 2-②池間通路	２ｍ
1, 2-③池間通路	
2, 3-①池間通路	
2, 3-②池間通路	１ｍ
2, 3-③池間通路	

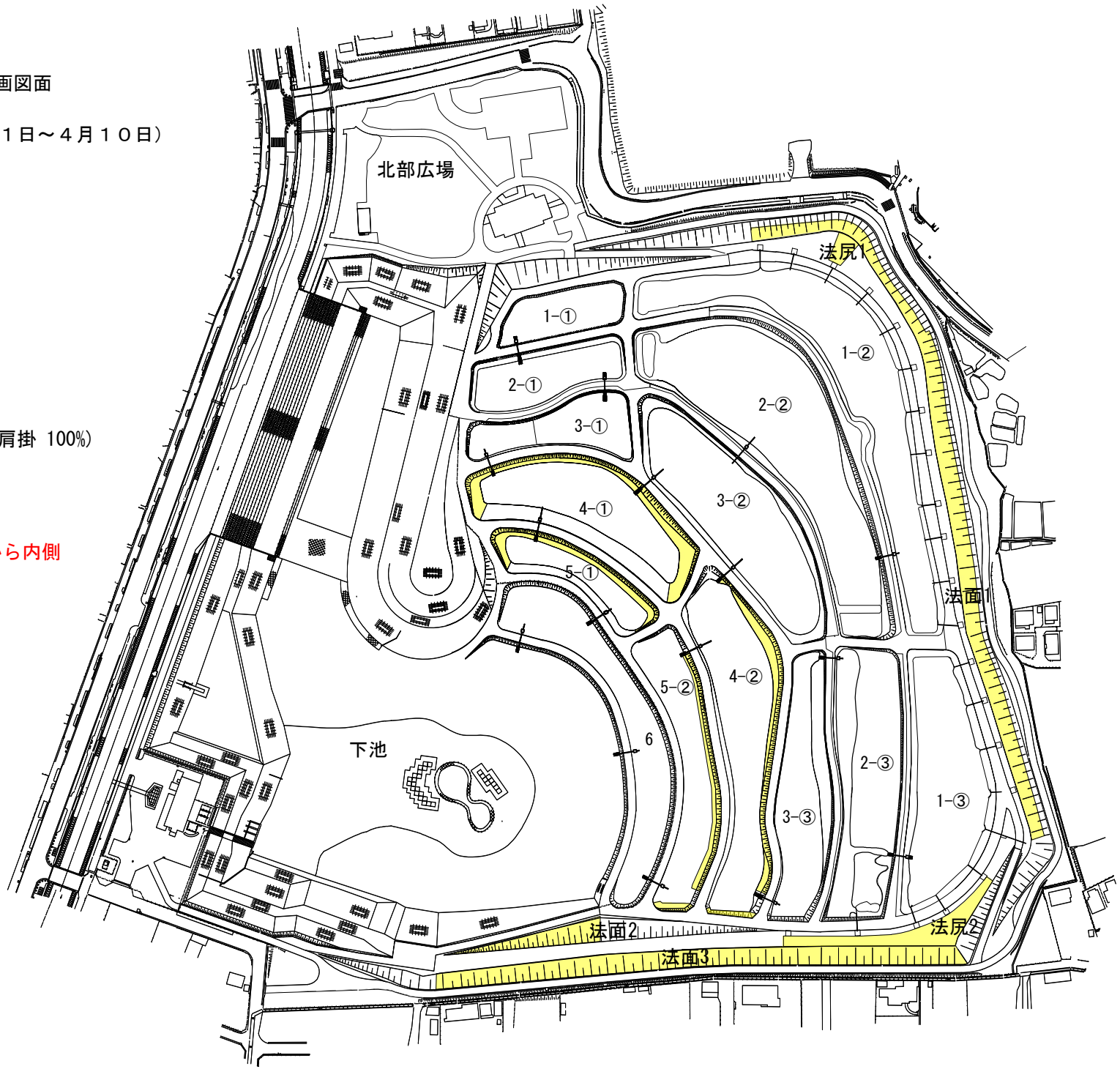


２０２４年度計画図面

第１回目（４月１日～４月１０日）

草刈り（肩掛 100%）

手順：外側から内側



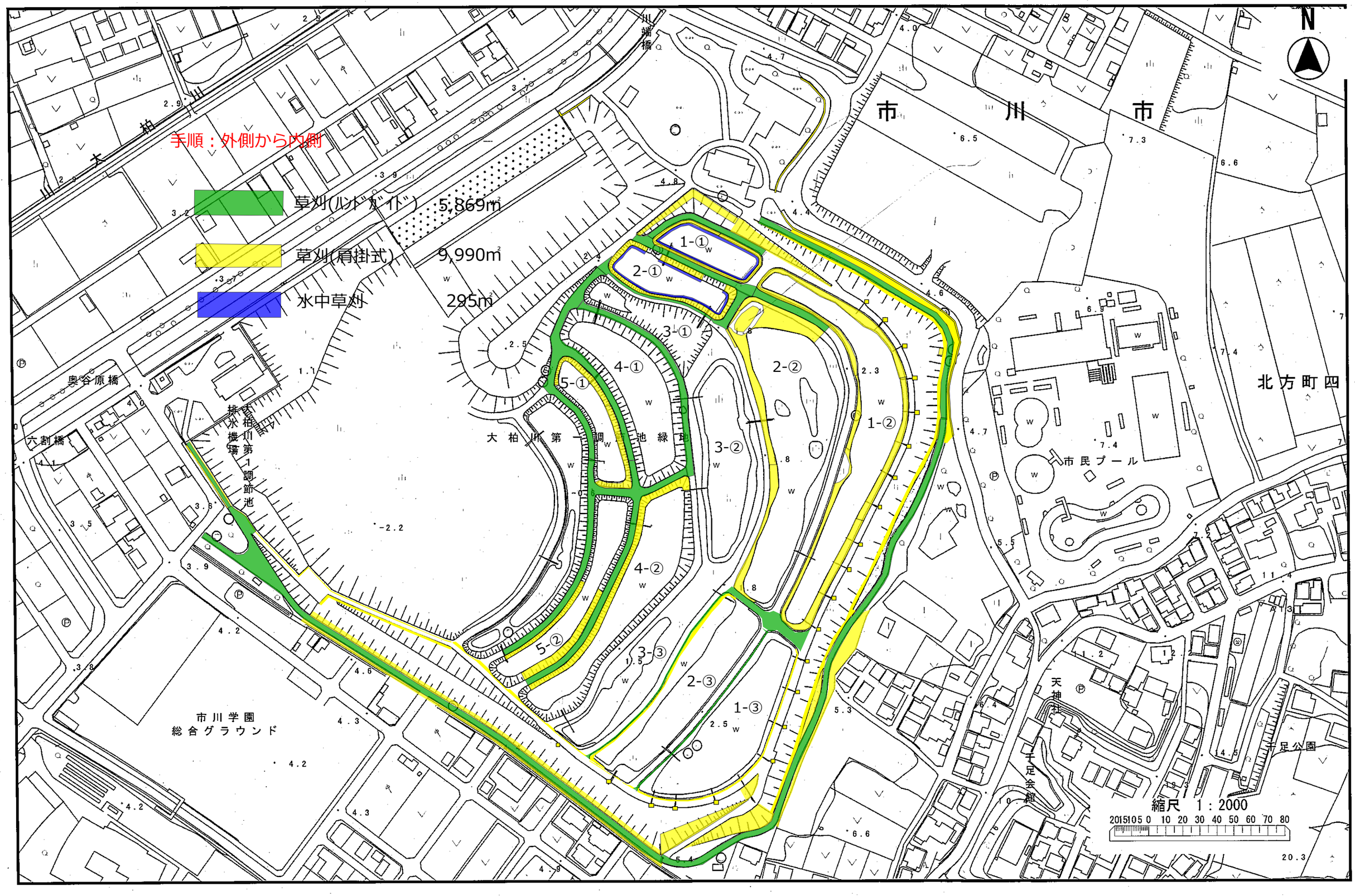
資料保 02.1 入札資料一式

令和４年度　大柏川第一調節池緑地維持管理業務委託

名称	規格	単位	６月入札分				合計
			1回目	2回目	3回目	4回目	
草刈（ハンドガイド）		㎡	5,869	2,439	2,137	6,067	16,512
草刈（肩掛式）		㎡	9,990	16,735	5,718	12,859	45,302
水中草刈	肩掛式	㎡	295	3,364		1,812	5,471
耕起	トラクター	㎡		2,080		2,080	4,160
溝堀り工		㎡		71		81	152
掘取り工		㎡				1,050	1,050
集草から処分作業	集草・運搬・処分	回	1	1	1	1	4

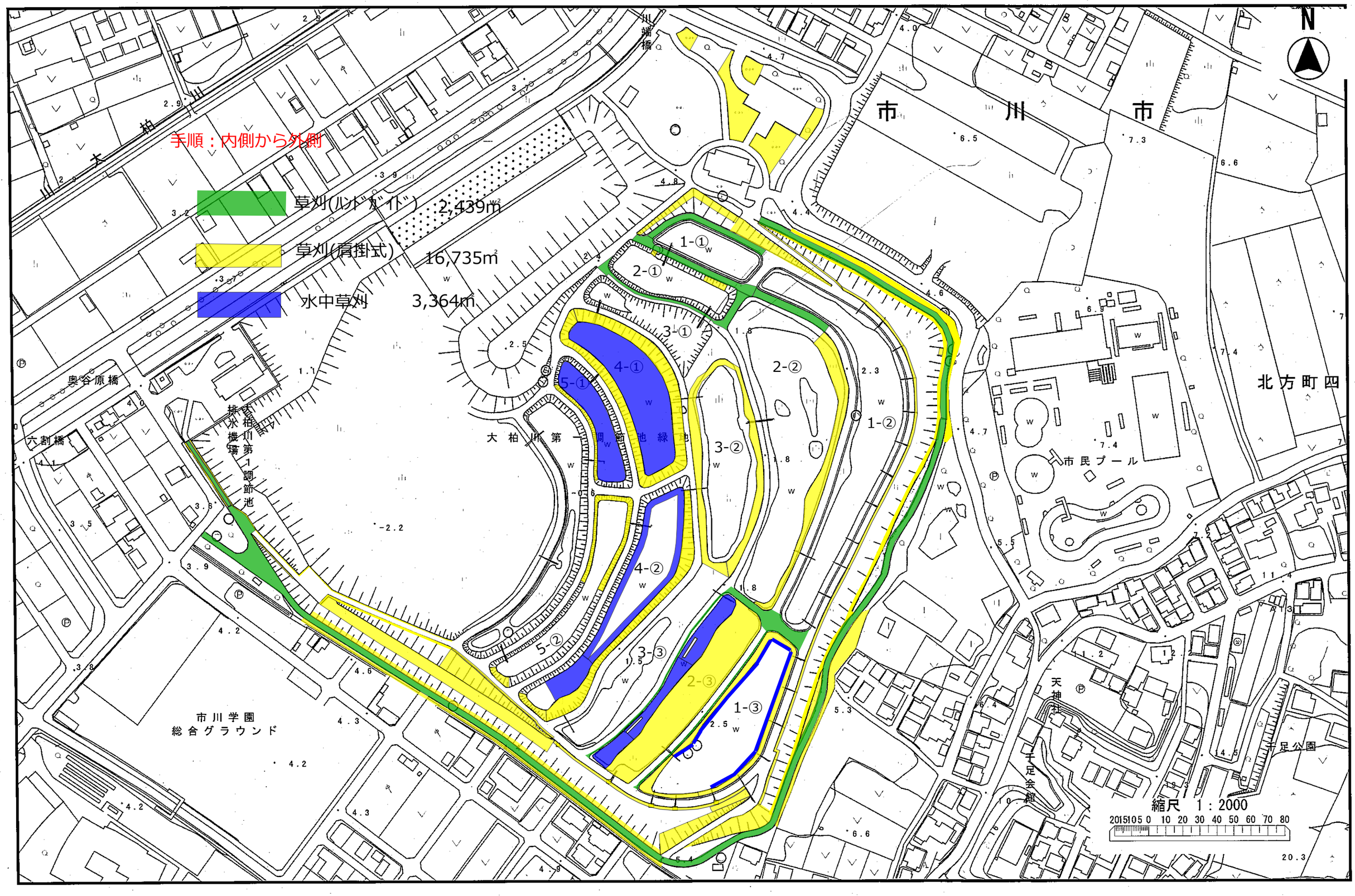
令和４年度　第１期(6月 20日～　6月30日)　計画図　草刈（ハンドガイド）・草刈（肩掛式）・　水中草刈

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



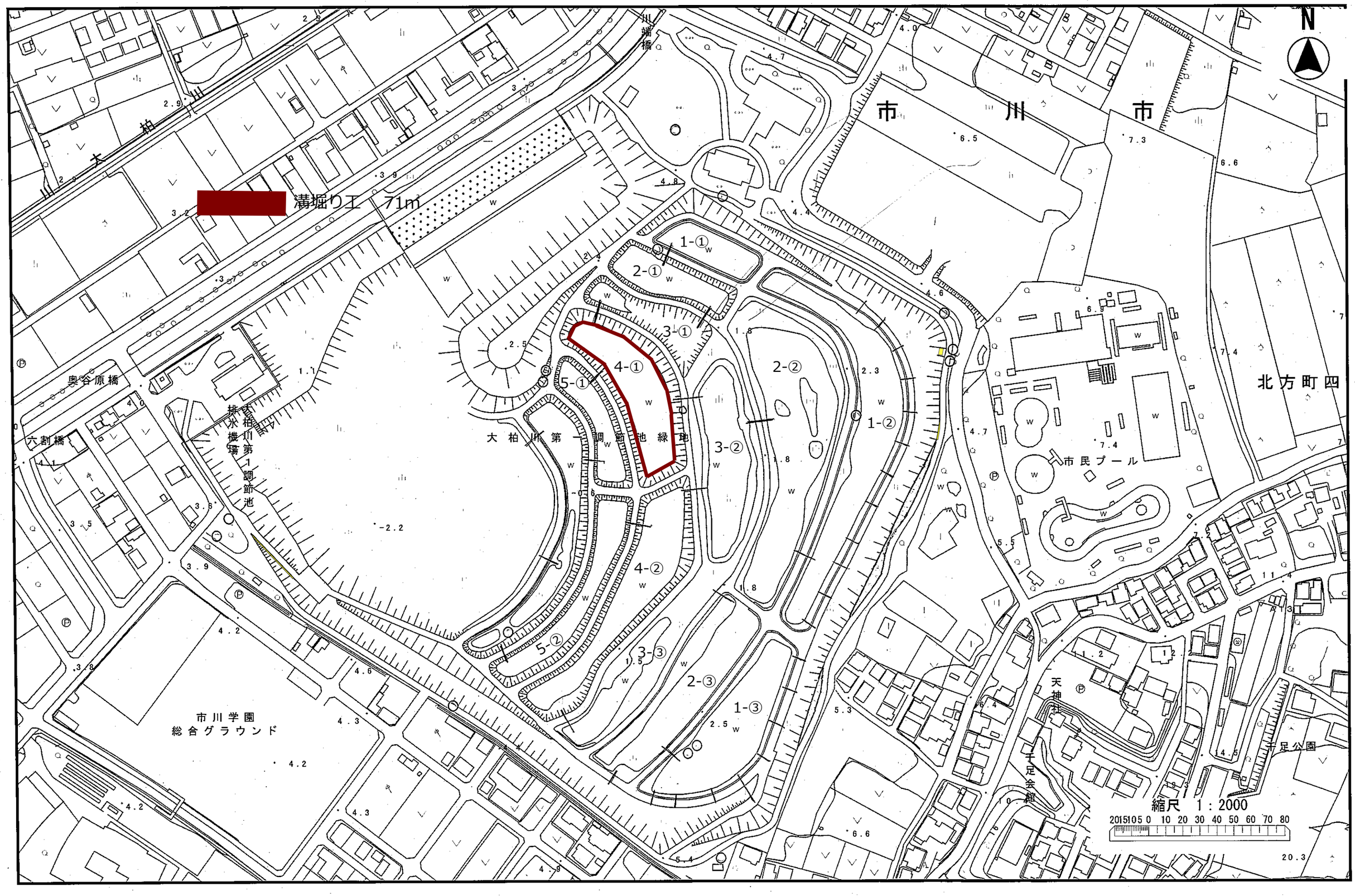
令和4年度　第2期(7月 20日～　8月10日)　計画図　草刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）・草刈（肩掛式）・水中草刈

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



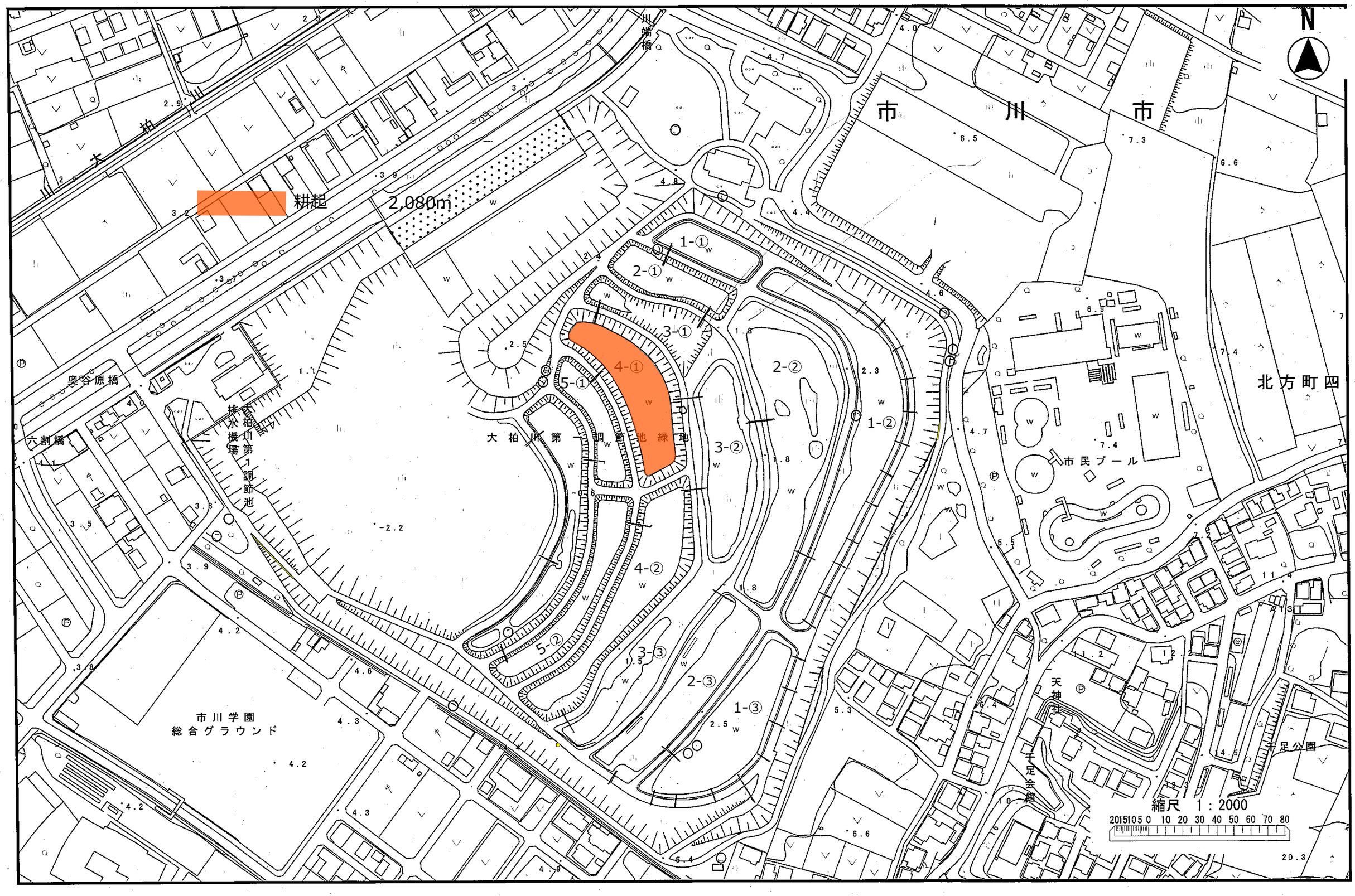
令和4年度　第2期(7月 20日～　8月10日)　計画図　溝堀り工

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



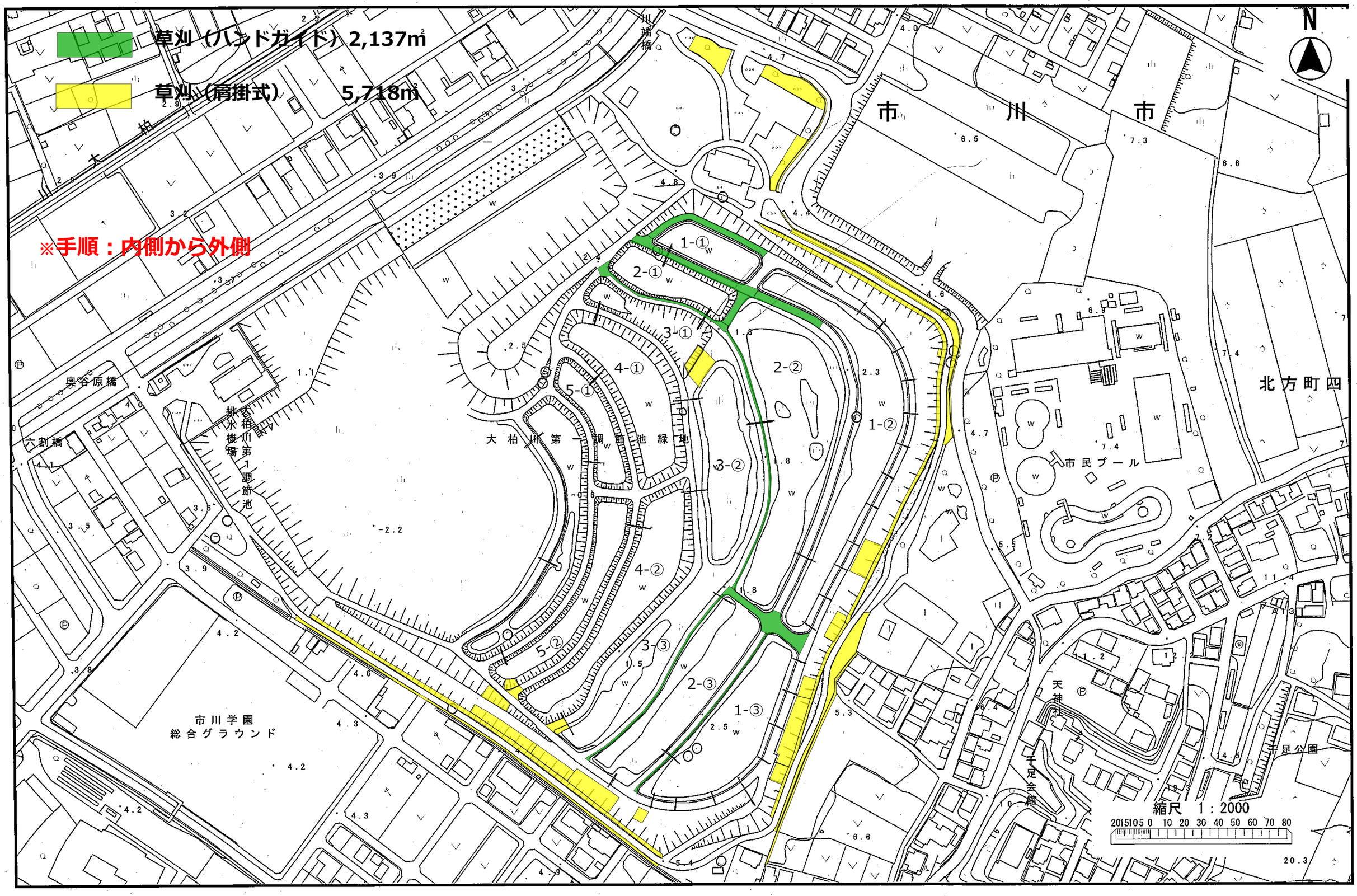
令和4年度　第2期(7月 20日～　8月10日)　計画図　耕起

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



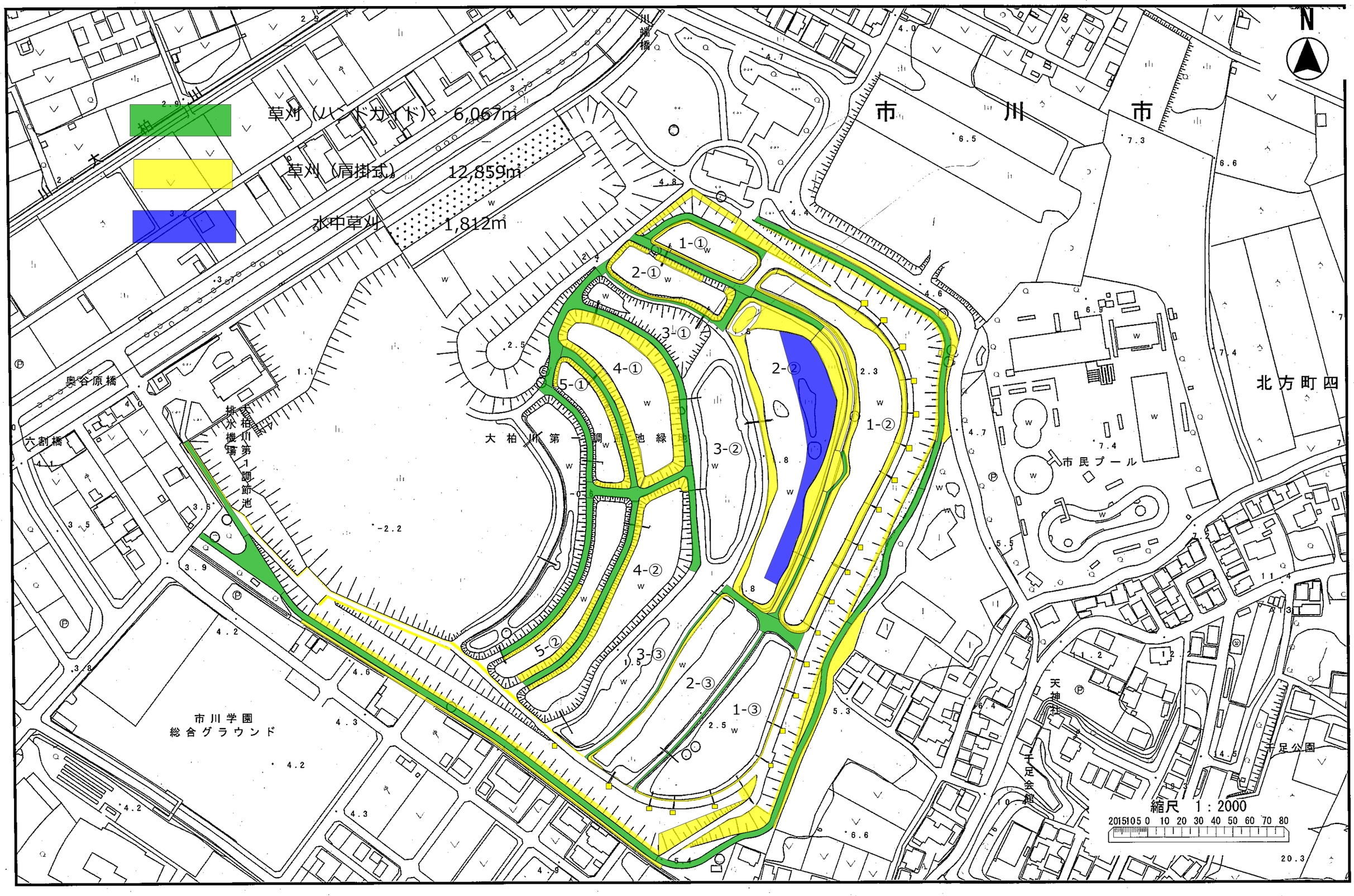
令和４年度　第３期(9月 1日～9月10日) 計画図　草刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）・草刈（肩掛式）

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



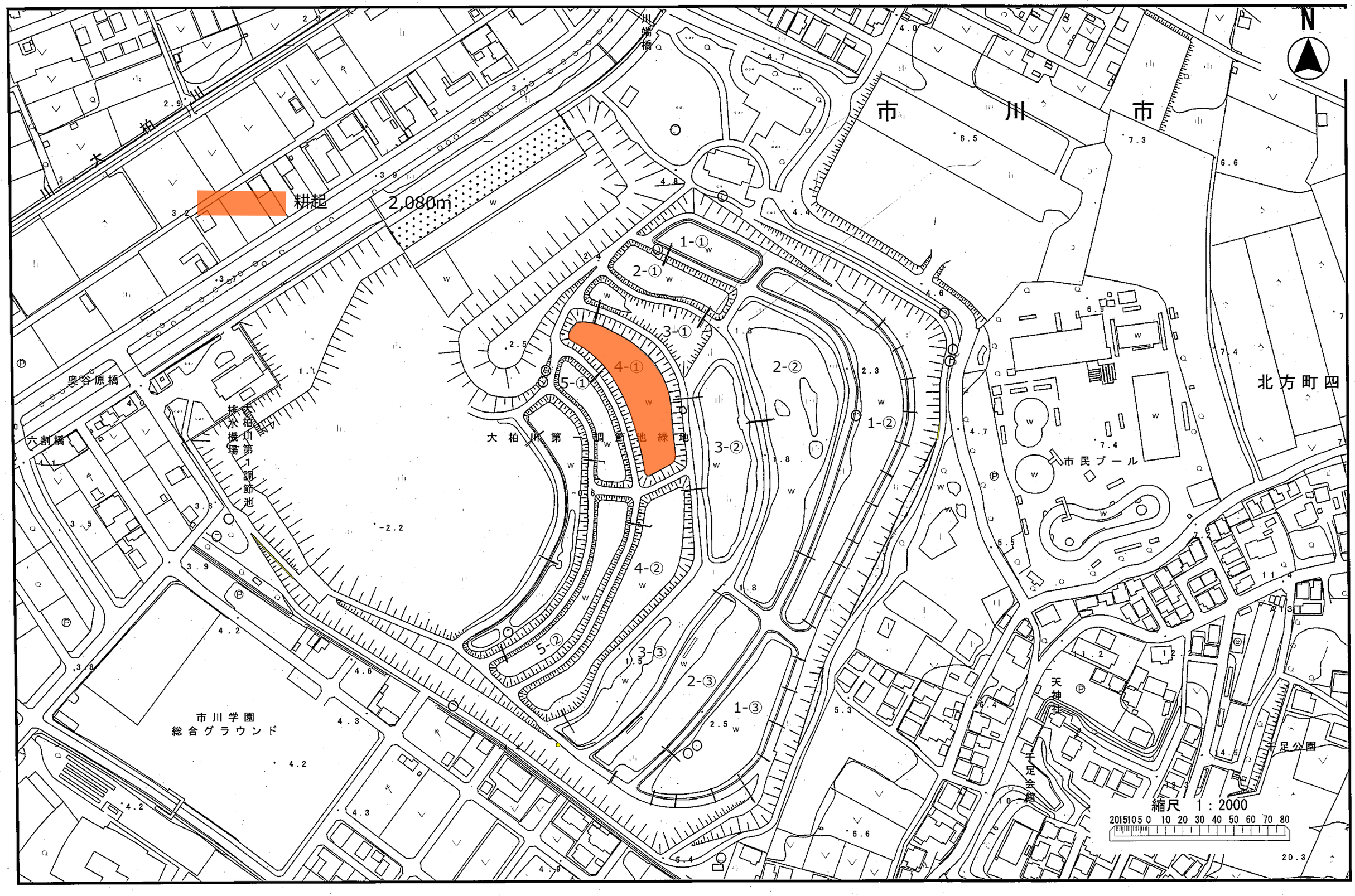
令和４年度　第４期(10月 20日～11月5日)　計画図　草刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）・草刈（肩掛式）・水中草刈

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



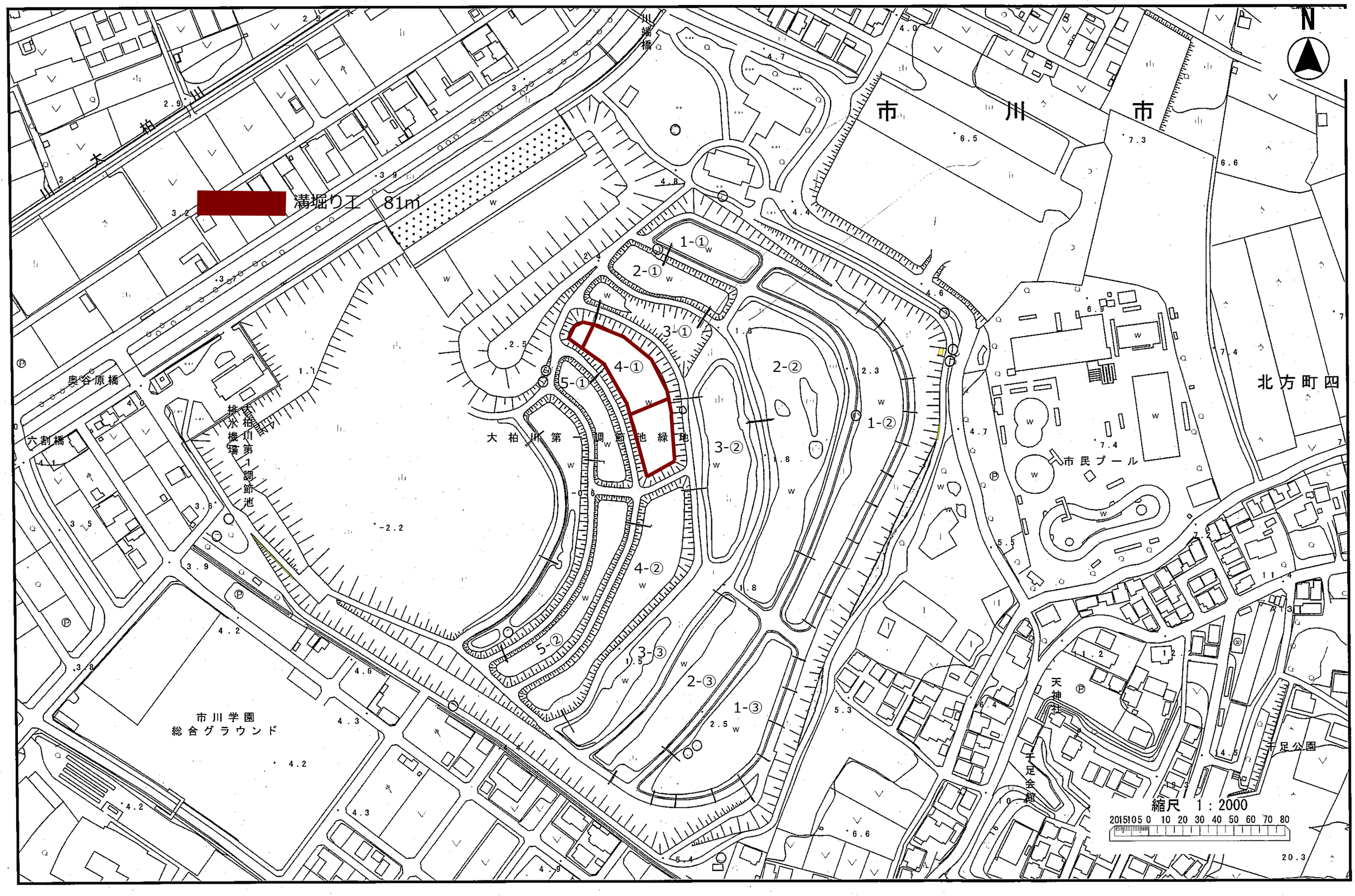
令和4年度　第4期(10月 20日～　11月5日)　計画図　耕起

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



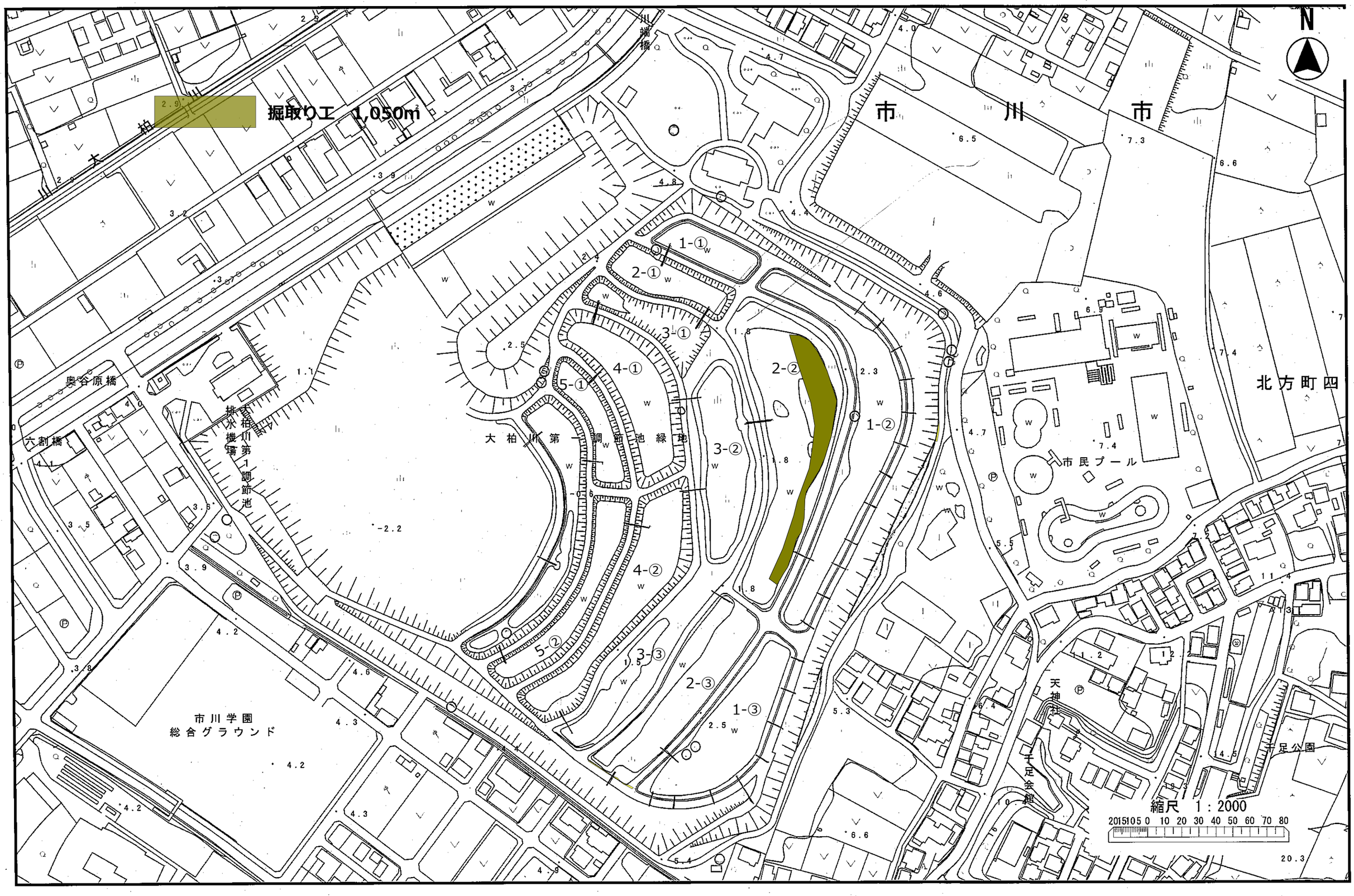
令和4年度　第4期(10月 20日～　11月5日)　計画図　溝堀り工

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



令和４年度　第４期(10月 20日～11月5日)　計画図　掘取り工

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



大柏川第一調節池緑地維持管理業務委託　特記仕様書

この仕様書は、委託者が発注する下記の業務に関して、受託者が当該業務を履行するために必要な事項を定めるものとする。

1　件　　名　大柏川第一調節池緑地維持管理業務委託

2　業務目的　本業務は、大柏川第一調節池緑地において草刈等の管理作業を行い、緑地内の環境を維持することを目的とする。

3　委託場所　市川市北方町４丁目１４４４番５９

4　委託期間　令和４年６月１日～令和５年３月１０日

5　業務内容

ア）業務内容・数量

名　　称	規　格	単位	予定数量	備考
草　刈				
草　刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）		㎡	16,512	各回の予定数量は、草刈面積内訳表に記載
草　刈（肩掛式）		㎡	45,302	各回の予定数量は、草刈面積内訳表に記載
水中草刈	肩掛式	㎡	5,471	各回の予定数量は、草刈面積内訳表に記載
耕　起	トラクター	㎡	4,160	各回の予定数量は、草刈面積内訳表に記載
溝掘り工		㎡	152	各回の予定数量は、草刈面積内訳表に記載
掘取り工		㎡	1,050	予定数量は、草刈面積内訳表に記載
集草～処分作業	集草・運搬・処分	回	4	緑地活動団体よる草刈及び剪定分

※ 本委託は単価契約のため上記数量については目安とし、監督職員との協議によって行った実績作業数量を清算数量とする。

※各工種において出来高総括表の合計値は、小数点以下を切り捨てた整数とすること。（各単価において請求段階で小数点を切捨てること）

イ）実施条件

○実施環境

・棚池　　調節池の掘り込み部分に、大小１５箇所の池を整備。

・外周路　　棚池区域を取り囲むようにある、調節池の堤防上の通路。

・北部広場　利用者の往来が最も多い、ビジターセンター周辺の広場。

○実施上の留意事項

・同緑地は、水辺の自然環境を活かした自然環境創造型施設であることから、

各回とも監督職員と十分協議した上で、動植物の生息環境を配慮すること。
・原則として委託者、受託者、緑地内活動団体の３者により作業時期、内容等の調整を事前に行うこと。
・原則的な実施日及び時間を記入すること。

6　業務担当に関する事項

ア）業務責任者の資格
・業務責任者は、「１級又は２級造園施工管理技士」とする。

7　実施方法

■　草刈・芝刈

＜共通事項＞

ア）目的と工法
・草刈及び芝刈は、公園緑地及び植栽空間の美観を維持、又は利用性の向上、防犯・防災、及び草地環境の維持保全の為に、環境に合わせた工法で行う。

イ）作業後について
・作業完了後 1 週間以内の確認時に、明らかな刈むら及び刈残しが見られた場合には、受託者の責任において再度行うこと。

ウ）廃棄物の処理について
・除草による発生材は原則として一般廃棄物とし適切に処分し、適切に処理した旨を示した伝票を提出しなければならない。
但し、処分費が含まれない委託（刈りっぱなし、集草まで、運搬まで）に関しては、監督職員の指示による。
・作業範囲内の廃棄物（塵芥）については入口付近又は収集しやすいところに集積し、監督職員に連絡すること。

(1)　草刈・芝刈

ア）適切な機械・手法の適用
・現場状況に応じ、適切な機械・手法（肩掛式、ハンドガイド式、人力など）を用い作業を行うこと。
・樹木周り、施設近辺においてはチップソー・ナイロンコードの使用は厳禁とし、必ず人力による作業を行って樹木及び施設等が損傷しないよう注意すること。
・1,000㎡/箇所を超える草刈は、原則として、ハンドガイド式草刈機（HG式）を適用するが、樹木・施設などの障害物などがある場合は、状況に応じた機械・手法を適用する。

イ）草刈・芝刈の仕様・注意点
・刈込高（通常1～3㎝以下）等は、監督職員と十分に協議し決定すること。
・機械を用い草刈・芝刈を行う場合は、作業時の飛石が第三者及び車両等に当たらないように、ネット等を用いて養生を行うこと。
・草刈･芝刈時に樹木の幹肌を損傷し樹木が枯損した場合や施設に損傷を与えた場合は、受託者の負担で同等品の補植・補修を行うこと。

・刈りむら及び刈り残しのないよう均一に刈込むこと。
・フェンスや樹木に絡まっているつる性植物も全て地際で刈り取ること。
・草刈・芝刈範囲内について、実生の木がある場合は地際で刈り取るとともに、高木の高さ2m以下の胴吹き・ヤゴについては除去し、伐採木より枝が伸びている場合も伐採面より除去を行うこと。
・刈りっぱなし箇所においても、出入口付近及び舗装通路部等においては刈草を取除くこと。
・芝生地については、ほふく茎が芝生地内外の施設に乗り上がらないよう、又、低木の根元に進入しないよう、芝生の縁切りを行うこと。
・草刈・芝刈時に合わせて枯葉及びゴミの清掃を行うこと。

ウ）実施回数、実施時期、実施範囲等

(1)実施回数……年/４回を想定している。

(2)実施時期……作業時期は原則として下表の通りとする。

第１期	第２期	第３期	第４期
6/20～6/30	7/20～8/10	9/1～9/10	10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前9時～午後5時）

(3)実施範囲……添付図に示す。

・「令和４年度　第１期(6月20日～6月30日）計画図」（草刈）
・「令和４年度　第２期(7月20日～8月10日）計画図」（草刈）
・「令和４年度　第３期(9月1日～9月10日）計画図」（草刈）
・「令和４年度　第４期(10月20日～11月5日）計画図」（草刈）

・具体的な実施に当たっては、実施時期、実施範囲等は監督職員と十分に協議し決定すること。

(2)　水中草刈

ア）水中草刈の仕様・注意点

・水中草刈は、水面より０～３ｃｍを残して刈り取り、方法は監督職員と協議のうえ決定すること。
・水中草刈は、水中草刈範囲（計画図）とする。

イ）廃棄物の処理について

・刈草は、十分に脱水・乾燥させたものを収集・処分すること。
・除根作業を行う場合は、泥土を十分に洗い落としてから収集・処分すること。

ウ）実施回数、実施時期、実施範囲等

(1)実施回数……年/３回を想定している。

(2)実施時期……作業時期は原則として下表の通りとする。

第１期	第２期	第４期
6/20～6/30	7/20～8/10	10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前9時～午後5時）

(3)実施範囲……添付図に示す。

・「令和４年度　第１期(6月20日～6月30日）計画図」（水中草刈）
・「令和４年度　第２期(7月20日～8月10日）計画図」（水中草刈）
・「令和４年度　第４期(10月20日～11月5日）計画図」（水中草刈）

(3) 耕起

ア）適切な機械・手法の適用

・棚池内の表土をトラクターで15cm～20cm程度攪拌し、可能な範囲での除根及び水面下での根の切断に努めること。

イ）耕起の仕様・注意点

・トラクターの搬入前に、原則、実施範囲の水中草刈を行うこと。実施方法は「(2)水中草刈」に準じる。

ウ）廃棄物の処理について

・刈り取った根については1箇所に集草し天日干しを行った後、処理すること。

・集草場所については監督職員と協議し決定すること。

エ）実施回数、実施時期、実施範囲等

(1)実施回数……年/２回を想定している。

(2)実施時期……実施時期は原則として下表の通りとする。

第２期	第４期
7/20～8/10	10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前９時～午後５時）

(3)実施範囲……添付図に示す。

・「令和４年度　第２期(7月20日～8月10日）計画図」（耕起）

・「令和４年度　第４期(10月20日～11月5日）計画図」（耕起）

(4) 溝掘り工

ア）適切な機械・手法の適用

・溝掘り工は、耕起等作業時に棚池の水を抜く必要がある際、自然動物への配慮として、一部水が残るスペースを確保することを目的としている。そのため、十分な深さとなるよう、小型バックホウ等を用いて、幅 40～50 cm程度、深さ40～50 cm程度の溝を設けること。

イ）溝掘り工の仕様・注意点

・溝掘り工において、指定の掘削幅から±５cmを許容誤差とする。

ウ）実施回数、実施時期、実施範囲等

(1)実施回数……年/２回を想定している。

(2)実施時期……実施時期は原則として下表の通りとする。

第２期	第４期
7/20～8/10	10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前９時～午後５時）

(3)実施範囲……添付図に示す。

・「令和４年度　第２期(7月20日～8月10日）計画図」（溝掘り工）

・「令和４年度　第４期(10月20日～11月5日）計画図」（溝掘り工）

(5) 掘取り工

ア)適切な機械・手法の適用

・掘取り工は、ヨシ・ガマ等の除根することを目的としている。そのため、小型バックホウ等を用いて、深さ 20cm 程度で土砂を掘り取ること。

イ）掘取り工の仕様・注意点

・掘取り工において、塩ビ管周辺については手掘りとし、管の底下が露出するまで土砂を取り除くこと。

・発生した土砂は場内にて敷き均しを行うこと。敷き均し箇所については監督職員と協議の上決定すること。

ウ）実施回数、実施時期、実施範囲等

(1)実施回数……年/１回を想定している。

(2)実施時期……実施時期は原則として下表の通りとする

第４期
10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前9時～午後5時）

(3)実施範囲……添付図に示す。

・「令和４年度　第４期(10月20日～11月5日）計画図」（掘取り工）

(6) 集草～処分作業

ア）集草処分作業の仕様・注意点

・緑地内の堤防上部の一部及び棚池通路内において、緑地活動団体が草刈及び剪定を行う。このため委託者、受託者、活動団体の３者より作業時期等の調整を事前に行い、活動により発生した草刈及び枝を(１)の草刈・芝刈りで発生したものを合わせて集草し、処分（クリーンセンター処分）すること。

・集積場所及び時期等については監督職員と十分に協議しながら決定すること。

・集草回数は運搬回数ではなく、緑地内の草刈及び枝をすべて搬出した段階で１回とする。（処分量は過去の実績値から約 2,500kg 程度を見込んでいる。）

イ）実施回数、実施時期等

(1)実施回数……年/４回を想定している。

(2)実施時期……作業時期は原則として下表の通りとする。

第１期	第２期	第３期	第４期
6/20～6/30	7/20～8/10	9/1～9/10	10/20～11/5

（※原則：業務曜日　月曜日～金曜日、業務時間　午前9時～午後5時）

(7) そのほかの留意点

ア）場内において、重機等を使用したことにより、轍（わだち）が生じた場合、その箇所について原状復旧に努めること。

イ）外からの種子移入防止（特定外来種や外来種など）の為、場内の作業に入る

前に、草刈機械等を洗浄するなど配慮を行うこと。

ウ）この仕様書に定めのない事項及び疑義の生じた事項については、委託者と受託者がその都度協議の上、決定するものとする。

8　添付資料

・実施箇所図

草刈

・「令和４年度 第１期(6 月 20 日～6 月 30 日）計画図」（草刈）
・「令和４年度 第２期(7 月 20 日～8 月 10 日）計画図」（草刈）
・「令和４年度 第３期(9 月 1 日～9 月 10 日）計画図」（草刈）
・「令和４年度 第４期(10 月 20 日～11 月 5 日）計画図」（草刈）

水中草刈

・「令和４年度 第１期(6 月 20 日～6 月 30 日）計画図」（水中草刈）
・「令和４年度 第２期(7 月 20 日～8 月 10 日）計画図」（水中草刈）
・「令和４年度 第４期(10 月 20 日～11 月 5 日）計画図」（水中草刈）

耕起

・「令和４年度 第２期(7 月 20 日～8 月 10 日）計画図」（耕起）
・「令和４年度 第４期(10 月 20 日～11 月 5 日）計画図」（耕起）

溝掘り工

・「令和４年度 第２期(7 月 20 日～8 月 10 日）計画図」（溝掘り工）
・「令和４年度 第４期(10 月 20 日～11 月 5 日）計画図」（溝掘り工）

掘取り工

・「令和４年度 第４期(10 月 20 日～11 月 5 日）計画図」（掘取り工）

・草刈面積内訳表（第１期～第４期）

9　成果品関係

ア）成果品(完成品)は、期ごとに提出すること。

１期（６月　１日　～　９月３０日まで）　　：１期終了後２０日以内
２期（１０月１日　～　委託期間満了日まで）　：委託期間満了日

イ）上記提出期限に関わらず出来高数量について監督職員から求めが有った時は、求めた日から７日以内に回答すること。

ウ）原則として委託者が受託者に対して公園の基本データを貸与した場合、出来形（求積図、平面図等）についてはデータの修正を行って、ＤＷＧまたはＤＸＦ

形式で作成し、データをＣＤ－Ｒ又はＤＶＤ－Ｒにて提出すること。

エ）各工種において出来高総括表の合計値は、小数点以下を切り捨てた整数とすること。
（各単価において請求段階で少数点を切捨てること）

１０　その他

ア）受託者は、剪定枝葉等の運搬に当たっては、過積載防止を厳守するとともに関係法令の定めに従うこと。

イ）委託期間中の不適切な管理（草刈時・灌水不足等）により樹木が枯損した場合は、受託者の負担で同等樹木の補植を行うこと。

ウ）作業に必要な誘導員及び、保安施設については事故の起きないよう適切に配置すること。

エ）各作業による発生材は速やかに片付を行うこと。

オ）期ごとの現地確認において、各種刈込みにおいて不備が認められた場合は、受託者の責任において不備を解消すること。

樹木等維持管理業務委託共通仕様書

1　植物管理の目的

(1)　植物管理の特質

植物管理は、剪定・病虫害防除・施肥・灌水等を通じ、植物の健全かつ均整のとれた生育を促し、植栽目標に近づける「育成管理」を基本とする。この点において、当初の機能・性能・価値を維持する「施設の維持管理」とは性格が異なることに留意すること。

(2)　植栽目標

植栽の目標形は樹種･植栽場所など条件により様々であり、目標形を監督職員と協議し、確認した上で適切な管理を行わなければならない。

2　適用範囲

(1)　樹木等維持管理業務委託共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は、市川市が発注する公園、緑地、施設および街路樹その他樹木等維持管理業務に係わる委託契約書（以下「契約書」という。）の内容について、必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。

(2)　契約図書は、相互に補完し合うものとし、契約書および設計図書のいずれかによって定められている事項は、契約の履行を拘束するものとする。

(3)　特記仕様書、数量表および共通仕様書の間に相違がある場合、受託者は、監督職員に確認して指示を受けなければならない。

(4)　受託者は、信義に従って誠実に業務を履行し、監督職員の指示がない限り業務を継続しなければならない。但し、契約書に定める作業の変更、中止を行う場合は、この限りではない。

3　用語の定義

共通仕様書に使用する用語の定義は、次の各項に定めるところによる。

(1)　「委託者」とは、市川市をいう。

(2)　「受託者」とは、業務の実施に関し、委託者と委託契約を締結した個人または会社その他の法人をいう。

(3)　「検査職員」とは、業務の完了の検査にあたって、委託者が検査を行う者として定めた者をいう。

(4)　「契約図書」とは、契約書および設計図書をいう。

(5)　「仕様書」とは、共通仕様書および特記仕様書（これらにおいて明記されている適用すべき諸基準を含む。）を総称していう。

(6)　「共通仕様書」とは、当該業務に共通する技術上の指示事項等を定める図書をいう。

(7)　「特記仕様書」とは、共通仕様書を補足し、当該業務の実施に関する明細または特別な事項を定める図書をいう。

(8)　「協力者」とは、受託者が業務の遂行にあたって、再委託する者をいう。

(9)　「監督職員」とは、契約の履行についての受託者に対する指示、承諾または協議を行

う権限を有する者をいう。

4　業務担当に関する事項

4-1 業務責任者の適正な配置

(1)　受託者は、その受託した業務の適正な作業を確保するため、当該作業現場に業務責任者を配置し、受託業務の管理および統括を行わなければならない。

(2)　業務責任者は、当該受託者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者で、常時継続的に当該作業現場においてその職務に従事するものとする。

(3)　業務責任者は、市民からの問い合わせや要望があった時は真摯に対応すること。また、受託業務外の内容についてはその内容を監督職員に連絡すること。

4-2　再委託

(1)　受託者は、その受託した業務を一括して他人に行わせてはならない。

(2)　受託者は、あらかじめ委託者の書面による承諾を得た場合に限り、当該業務の一部を再委託することができる。この場合において、受託者は、不必要な再委託を行ってはならない。

(3)　受託者は再委託に付する場合には、次の各号に掲げる要件をすべて満たされなければならない。

ア）　受託者が再委託業務について「業務計画の作成」、「工程管理」、「出来形・品質管理」、「完了検査」、「安全管理」、「協力者への指導監督」等について主体的な役割を現場で果たすこと。

イ）　協力者が市川市の入札参加業者適格者名簿に登録された者である場合には、指名停止期間中でないこと。

ウ）　協力者は、再委託する業務の履行能力を有すること。

5　提出書類及び納品図書など

5-1　業務計画書

(1)　受託者は、契約締結後１４日以内かつ、業務開始までに計画工程表、作業方法、安全管理その他次の各号に掲げる事項を盛り込んだ業務計画書を監督職員に提出し、監督職員の承諾を得ること。尚、監督職員に不備を指摘された場合はただちに修正を行い、監督職員の承諾を得てから、業務に取り掛かること。

ア）　業務概要

イ）　計画工程表

ウ）　現場組織表（業務責任者、作業員名簿、業務に必要な資格の控え、施工体制台帳等）

エ）　使用機材、車両(車検証の控え等)

オ）　主要材料（ＭＳＤＳ等）

カ）　作業方法

キ）　施工管理計画（出来形管理、品質管理、写真管理等）

ク）　安全管理（安全訓練等の実施）

ケ）　緊急時の連絡体制(休日の連絡先、救急病院への案内図等)

コ） 交通管理(作業帯図、交通規制帯図等)
サ） 環境対策
シ） 現場作業環境の整備
ス） その他当該業務に必要と認める事項

(2) 受託者は業務計画書を遵守し、受託業務にあたらなければならない。

5-2 作業写真

(1) 受託者は、千葉県写真管理基準に則って写真管理を行うこと。尚、夜間撮影においては高感度(ＩＳＯ４００以上)カメラにて撮影し、作業内容が分かるようにすること。

(2) 受託者は、前項の作業写真について日々整理を行い監督職員から請求があった場合に、ただちに提示しなければならない。

5-3 納品図書

(1) 受託者は、業務が完了したときは、納品図書として次に掲げる書類および完了届を委託期間満了日までに提出し、検査を受けなければならない。

ア） 出来高数量表（平面図、求積図等出来高の分かるものを添付すること）
イ） 実施工程表（計画工程表と比較できるもの）
ウ） 打ち合わせ記録簿（Ｅメール・口頭協議・指示も記録簿に残すこと）
エ） 作業報告書(作業内容、日時、天候、作業人数、使用機械、氏名等の分かるもの)
オ） 各種伝票の写し(主要材料、発生材等)および集計表
カ） 作業写真（作業前、作業後、作業中がはっきりとわかるもの。尚、写真に日付を写しこむこと）
キ） 安全教育等記録の写し
ク） その他当該業務に必要と認めた書類

6 業務上の注意事項

6-1 業務の協議・連絡

(1) 監督職員との協議・記録

ア）受託者は業務着手にあたり監督職員と良く話し合い、剪定の目的・目標・留意事項などを良く理解したうえで、作業計画を作成し、各々の作業を適切に行うこと。

イ）協議した内容は、必ず打合せ記録簿に残すこと。 特に、業務上の重要点や施行原則を変更する場合などは丁寧に記載すること。

(2) 受託者は作業実施にあたり、週間予定表および実施報告書を週初めまでに監督職員に提出すること。

(3) 受託者は週間予定表に則って作業を行い、予定の変更がある場合は事前に監督職員に連絡すること。

(4) 作業中、以下のような問題・異常を発見した場合には監督職員に報告し、対応策を協議すること。

・人、車等の通行箇所において、安全性に問題が生じる可能性がある場合（倒木、枝

折れ等）

・樹木、草本の異常（病虫害など）を発見した場合

・そのほか、樹木以外の異常（防犯・防災に関する異常など）を発見した場合。

6-2　土地への立入り

受託者は、当該業務を実施するため、国有地、公有地または私有地に立入る場合は、監督職員および関係者と十分な協議を行い、業務を円滑に履行するよう努めなければならない。尚、やむを得ない理由により現地への立入りが不可能となった場合には、ただちに監督職員へ報告し、指示を受けなければならない。

6-3　業務上の配慮事項

(1)　受託者は、業務従事者の服装や行動について、施行場所の利用者および近隣住民に不快感を与えないように配慮するとともに、業務の実施にあたり、事前に近隣住民や利用者等に案内等の周知を図るものとする。

(2)　受託者は、業務の実施に際しては、適切な環境対策を実施し、円滑な業務遂行に努めなければならない。

6-4　緊急時の連絡体制

受託者は、災害等が発生した場合および発生が予測される場合は、臨機の対応がとれるよう緊急時の連絡体制に基づいて、被害を最小限に食い止めるものとする。

6-5　廃棄物の処理

(1)　業務で生じるによる発生材(剪定・刈込の枝葉、刈り取った草など)については一般廃棄物とし、適切に処理した旨を示した伝票を提出しなければならない。

但し、特記事項のあるもの(草刈・芝刈における「刈りっぱなし、集草まで、運搬まで」など)はこの限りではない。

(2)　業務で生じる発生材以外の塵芥については 1 箇所に収集・分別し、その処理については監督職員と協議すること。

7　業務上の義務・責務

7-1　安全等の確保

(1)　受託者は業務の実施にあたり、作業着手前までに関連作業員を集めて適切な時間をかけて新規入場者教育および、当該業務に必要な安全衛生教育を行うこと。また、業務途中で新たに加わる作業員についても同様に新規入場者教育および安全衛生教育を行うこと。

(2)　受託者は作業開始前に作業員全員を集めて、当日の作業内容による安全教育（ＫＹＫ）等注意点を確認してから作業を行うこと。

(3)　受託者は、業務の実施に際して適切な作業帯・交通規制帯の設置および交通誘導員を配置し、作業員の安全確保と共に付近住民、通行人および通行車両等第三者の安全確保に努めること。

(4) 受託者は、業務の実施に際しては、労働安全衛生法その他関係法令に基づく措置を講じておくこと。
(5) 受託者は、業務実施中の安全管理について、適時巡視を行って指導および監督に努めること。
(6) 上記の安全教育等に関してはすべて記録に残し（日時、内容、参加者、状況写真等）、写しを納品図書と合わせて提出すること。

7-2 守秘義務

受託者は、業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならず、かつ、他の目的に使用してはならない。契約終了後も同様とする。

7-3 法令順守等

(1) 本仕様書に定めのない業務上必要な軽易な事項については、関係法令等を遵守し、受託者の責任において処理するものとする。
(2) 受託者は、その使用人とは適正な雇用契約を結び、労働関係法令を遵守しなければならない。
(3) 業務の履行に当たっては、労働基準法その他関係法令を遵守しなければならない。
(4) 道路上の作業になる場合は、作業に先立ち「道路使用許可証」を取得し許可条件を遵守すること。

8 損害賠償等

(1) 受託者は、当該業務の実施に伴って受託者の責に帰すべき理由により第三者に損害を及ぼしたときは損害を賠償しなければならない。
(2) 業務実施中に事故が起こったときは、ただちに関係機関に通報するとともに、受託者は自らの責任において処理するものとする。
(3) 前項の場合において、受託者は、事故の経緯について、事故発生後ただちに監督職員に口頭連絡し、その後速やかに書面をもって経過報告すること。

9 その他

(1) 委託者は受託者の業務履行状況を不適当と認めた場合は、その理由を明示し業務の改善を受託者に求めることができる。
(2) 受託者は委託者より改善を求められた場合は原因追求を行って業務の改善を図り、原因・改善方法について委託者に改善報告書を提出し、承諾を得てから業務の再開をしなければならない。
(3) 受託者は、委託者からの指示に対しては、迅速な処理を行うとともに、早急に結果を報告するものとする。
(4) その他、本仕様書に定めのない事項については、千葉県土木工事共通仕様書「植栽・緑地管理編」を参考に監督職員と協議し、決定するものとする。

市川第 20220411-0261 号
令 和 ４ 年 ４ 月 １ ９ 日

一般競争入札の実施について

市川市長　　村越　祐民

下記のとおり入札を実施しますので公告します。参加を希望する場合には、「市川市一般競争入札参加申請書」に関係書類を添付のうえ提出してください。

記

１．件名　　大柏川第一調節池緑地維持管理業務委託
２．施行場所　　市川市北方町４丁目１４４４番５９
３．施行期間　　令和４年６月１日から令和５年３月１０日まで
４．概要　　本業務は、大柏川第一調節池緑地の適正な維持管理を図ることを目的とする。

・草刈　　一式
・耕起　　一式
・溝掘り工　　一式
・掘取り工　　一式
・集草作業　　一式

５．入札に参加する者に必要な資格に関する事項

入札参加申請日（以下「申請日」という。）現在において、 以下の要件を満たすものとする。

(1) 市川市入札参加業者適格者名簿（委託）の大分類「緑地管理・道路清掃」のうち、中分類「除草・緑地管理」もしくは「樹木管理」で登録している者、又は（建設工事）の申請工種を「造園工事」で登録している者
(2) 市川市内に本店を有する者
(3) 申請者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある「１級又は２級造園施工管理技士」の資格を有する者を業務責任者として本業務に配置できる者
(4)「1 級又は 2 級造園技能士・街路樹剪定士」のうちいずれかの資格を有する者を本業務に配置できる者
(5) 地方自治法施行令第１６７条の４の規定に該当する者のほか、次の各号のいずれかに該当する者は、入札に参加できないものとする

ア　手形交換所による取引停止処分を受けてから２年間を経過しない者又は本件の入札執行日前６か月以内に手形、小切手を不渡りした者
イ　会社更生法の適用を申請した者で、同法に基づく裁判所からの更生手続き開始決定がなされていない者
ウ　民事再生法の適用を申請した者で、同法に基づく裁判所からの再生手続き開始決定がなされていない者
エ　この公告日から入札執行日までの間において、市川市から競争参加資格停止又は競争参加資格除外の措置を受けている者
オ　警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する者又はこれに準ずる者として、国の調達事案に関し排除要請があり、当該状態が継続している者
カ　中小企業等協同組合法（昭和 24 年法律第 181 号）第３条各号に規定する中小企業等協同組合にあたる者（以下「組合」という。）が入札参加申請をした場合における当該組合の理事が所属する他の法人若しくは個人

キ　入札に参加しようとする者との間に「特定関係にある会社同士の入札参加制限基準」に規定する資本関係又は人的関係がある者

ク　市川市建設工事等請負業者等競争参加資格停止基準（昭和５０年１２月１３日施行）別表第１及び別表第２に掲げる措置要件のいずれかに該当する事実の発生が判明し、当該事実により適正な契約履行の確保が困難となるおそれがあると認められる者

６．入札参加申請及び資格の確認

入札に参加を希望する者は、次のとおり申請をし、入札参加資格の確認を受けなければならない。

(1)申請期間　　令和４年４月１９日（火）から令和４年４月２６日（火）まで
（土曜日、日曜日を除く。）

(2)申請時間　　午前9時から午後5時まで（ただし、４月２６日のみ午後3時まで）

(3)提出先　　市川市南八幡2丁目20番2号
市川市環境部生活環境整備課
電話０４７－７１２－６３０７

(4)提出方法　　持参による提出のみとする。

(5)提出書類

ア　「市川市一般競争入札参加申請書」（指定用紙。以下「申請書」という。）

イ　誓約書（指定用紙）

ウ　①「1級又は2級造園施工管理技士合格証明書」の写し
②「1級又は2級造園技能士合格証明書、街路樹剪定士合格証明書」のいずれかの写し
③1級又は2級造園施工管理技士の資格を有する者が、申請者と直接的かつ恒常的な雇用関係にあることを証する書類の写し。（健康保険被保険者証）

エ　協同組合が申請するときは、当該協同組合の定款（写し）及び組合員・組合役員が記載された「事業協同組合・役員・組合員名簿」（指定用紙）を提出すること（中小企業等協同組合法に定める協同組合でない法人は、提出不要。）。また、協同組合が申請した場合において、申請日から入札の執行の日までの間に、新たに当該協同組合の理事会の構成員となった者がいる場合は、当該協同組合の理事会の構成員の入札参加資格は無効となるので、申請日以降に定款又は「事業協同組合・役員・組合員名簿」に変更がある場合は、直ちに市川市環境部生活環境整備課に申し出をし、指示された書類を提出すること。

オ　有限責任事業組合（ＬＬＰ）が申請するときは、当該有限責任事業組合契約の契約書（写し）を提出すること。また、有限責任事業組合（ＬＬＰ）が申請した場合において、申請日から入札の執行の日までの間に、当該有限責任事業組合の契約に変更がある場合は、直ちに市川市環境部生活環境整備課に申し出をし、指示された書類を提出すること。

カ　市川市入札参加業者適格者名簿（委託）又は（建設工事）において、「特定関係にある会社同士の入札参加制限基準」に規定する資本関係又は人的関係がある者に該当する他の名簿登載者がいる場合は、特定関係調書（指定用紙）

※　申請書等には申請日現在における申請者の現況（住所・商号又は名称・代表者等）を記載すること。

※　申請書等の記載事項（現況）が市川市入札参加業者適格者名簿と異なる場合、又は申請日から入札日までの間に住所・商号又は名称・代表者等が変更した場合は、その旨を直ちに市川市環境部生活環境整備課に連絡した上で、ちば電子調達システムで作成した入札参加資格審査申請書記載事項変更届の写し及び使用印鑑届兼委任状の写しを入札開始時刻までに提出すること。

※　指定用紙は市川市ホームページからダウンロードすること。

(6)入札参加資格の有無

ア　入札参加資格が「無し」と確認された者には、令和４年５月９日（月）午後5時までに電話連絡し、後日その理由書を送付する。

イ　入札参加資格が「有り」と確認された者には、令和４年５月９日（月）午後５時までに「一般競争入札参加資格者証」（以下、「参加資格者証」という。）を電子メールで送信する。なお電子メール受信後は、受信確認メールを送信元へ返信すること。

ウ　協同組合が申請する場合において、当該協同組合の理事会の構成員である者が交付を受けた上記イの参加資格者証は無効となり、資格は無かったものとする。

７．質疑について

(1)入札に関して質疑がある場合は、市指定の質疑書に質疑内容を記入のうえ、市川市環境部生活環境整備課へ電子メールにて提出すること。提出が確認された場合は提出に対しての受領メールを送信する。受領メールがない場合は、質疑が提出されていないものとして取り扱うものとする。なお、質疑がない場合は提出しないものとする。

（質疑書は市川市ホームページからダウンロードすること。）

ア　質疑提出期間　令和４年４月１９日（火）から令和４年４月２６日（火）午後３時まで

イ　質疑提出電子メールアドレス　　kankyoseibi@city.ichikawa.lg.jp

ウ　質疑回答日　　令和４年５月９日（月）までに回答する。

(2)質疑に対する回答は電子メールで行う。なお、質疑及び回答の全部を、参加資格者証の交付を受けた者全員に対し電子メールで行う。

８．入札日時及び場所

(1)日時　　令和４年５月１２日（木）午前１０時から

(2)場所　　市川市南八幡２丁目20番２号　市川市役所第２庁舎３階第２会議室

※駐車台数に限りがありますので、なるべく徒歩、自転車、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

９．入札保証金　　免除

10．支払条件

(1)前金払　　無

(2)部分払　　無

(3)概算払　　無

(4)その他　　本件は単価契約とする。支払時期については、１期（６月１日～９月３０日）、２期（１０月１日～３月１０日）の業務が完了し、各期の検査合格後、受託者から適切な支払請求を受けた日から起算して三十日以内に、検査により確定した各実績数量に各契約金額を乗じた金額（当該合計金額に１円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てた額）とする。

11．地方自治法施行令第１６７条の１０第２項の規定を適用する最低制限価格の設定

（なお最低制限価格は「市川市最低制限価格制度に関する要綱」第３条第２項によるものとする。）

（有）・　無

12．内訳書の提出　　無

13．入札金額の記載方法

(1)入札書の金額については、各単価及び入札書に記載された各予定数量に各単価を乗じた金額とその総額（入札金額）を記載すること。なお、各単価については１円未満の金額の　　記載は不可とする。

(2)契約金額については、入札書に記載された各単価に当該金額の１００分の１０に相当する

額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てしない金額）とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額（単価）の１１０分の１００に相当する金額を入札書に記載すること。

(3)落札決定に当たっては、入札書に記載された総額に当該金額の１００分の１０に相当する額を加算した金額（当該金額に１円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額）を落札価格とするので、入札者は、消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった金額の総額の１１０分の１００に相当する金額を入札書に記載すること。

14．その他の入札必要事項

(1)入札前に必ず所定の参加資格者証を提示すること。

(2)代理人又は復代理人により入札する場合は、入札前に委任状（本人の記名、押印とともに代理人又は復代理人が記名、押印したもの）を提出し、入札書へ本人の記名とともに代理人又は復代理人が記名、押印すること。

(3)一旦提出した入札書の書換え、引換え又は撤回をすることはできない。

(4)本件入札の予定価格は、入札金額について設定するものとする。

(5)予定価格以内の入札をした者（最低制限価格が設定されているときは、予定価格の制限の範囲内で最低制限価格以上の入札をした者）がないときは、直ちに、再度の入札を１回だけ行う。参加資格者証の交付を受けた者が１人である場合又は再度の入札者が１人となった場合においても同様とする。

(6)予定価格以内の最低価格の入札をした者を落札者とする。ただし、最低制限価格が設定されているときは、予定価格の制限の範囲内で最低制限価格以上の価格をもって申込みをした者のうち、最低の価格をもって申込みをした者を落札者とする。また、最低制限価格を下回った申込みをした者は落札者とせず失格とし、前号に定める再度の入札に参加できない。

(7)落札者となるべき同価の入札をした者が２人以上あるときは、直ちに、くじにより落札者を決定する。

15．入札の取りやめ等

入札参加者が連合し又は不穏の行動をなす等の場合において入札を公正に執行することができないと認められるとき又は本市の都合により、入札を延期し若しくは取りやめる場合がある。この場合において、入札参加者は異議を申し立てることができない。

16．入札の無効

次の各号のいずれかに該当する入札は無効とする。また、無効の入札をした者は、入札後直ちに行う再度の入札には参加できない。

ア　虚偽又は現況と異なる記載による入札参加申請を行い、入札参加資格を得た者による入札

イ　入札に参加する資格を有しない者のした入札

ウ　委任状を持参しない代理人のした入札

エ　明らかに連合によると認められる入札

オ　同一事項の入札について他人の代理人を兼ね、又は２人以上の代理をした者の入札

カ　郵便、信書便、電報、電話、電子メール又はファックスその他の電気通信（電気通信事業法第２条第１号に規定する電気通信をいう。）による入札

キ　内訳書の提出を条件とされている入札において内訳書の提出がない者のした入札

ク　以下のいずれかに該当する入札書による入札

・記名押印のない入札書

・入札金額を訂正した入札書
・入札金額が０円、マイナスの金額又は一定の金額をもって価格を表示しない入札書
・要領を知得することができない入札書
・鉛筆や消せるボールペン等の訂正可能な筆記具で記載された入札書
・代表者印又は代理人印がスタンプ式の印鑑による押印である入札書

ケ　その他入札に関する条件に違反した入札

17. 契約保証金

契約金額にそれぞれの予定数量を乗じた額の総額の１００分の１０以上の額（現金又は市が定めた有価証券とする。）を納付する。ただし、市川市財務規則第１１７条第３項各号のいずれかに該当するときは、これを免除する。

18. 業務の履行について

業務の履行にあたっては、別紙「業務委託契約の適正な履行について」を遵守しなければならない。

19. 契約条件等

(1)落札者は落札決定後、速やかに契約締結すること。
(2)落札者は、落札によって得た権利義務を、第三者に譲渡してはならない。
(3)契約金額は、入札書に記載された各単価（税抜）に消費税及び地方消費税相当額を加えた額（1 円未満は切り捨てしない）とする。
(4)落札決定後契約締結までの間に、落札者が５．に規定する競争入札参加資格を満たさなくなった場合又は落札者の入札が１６.に規定する入札の無効に該当することが判明した場合は、契約を締結しないことができるものとする。
(5)協同組合及び当該協同組合の理事会の構成員が入札で競合し、当該入札の結果、協同組合又は当該協同組合の理事会の構成員が契約を締結したときは、当該契約は解除となり、損害賠償等の対象となる。

20. その他

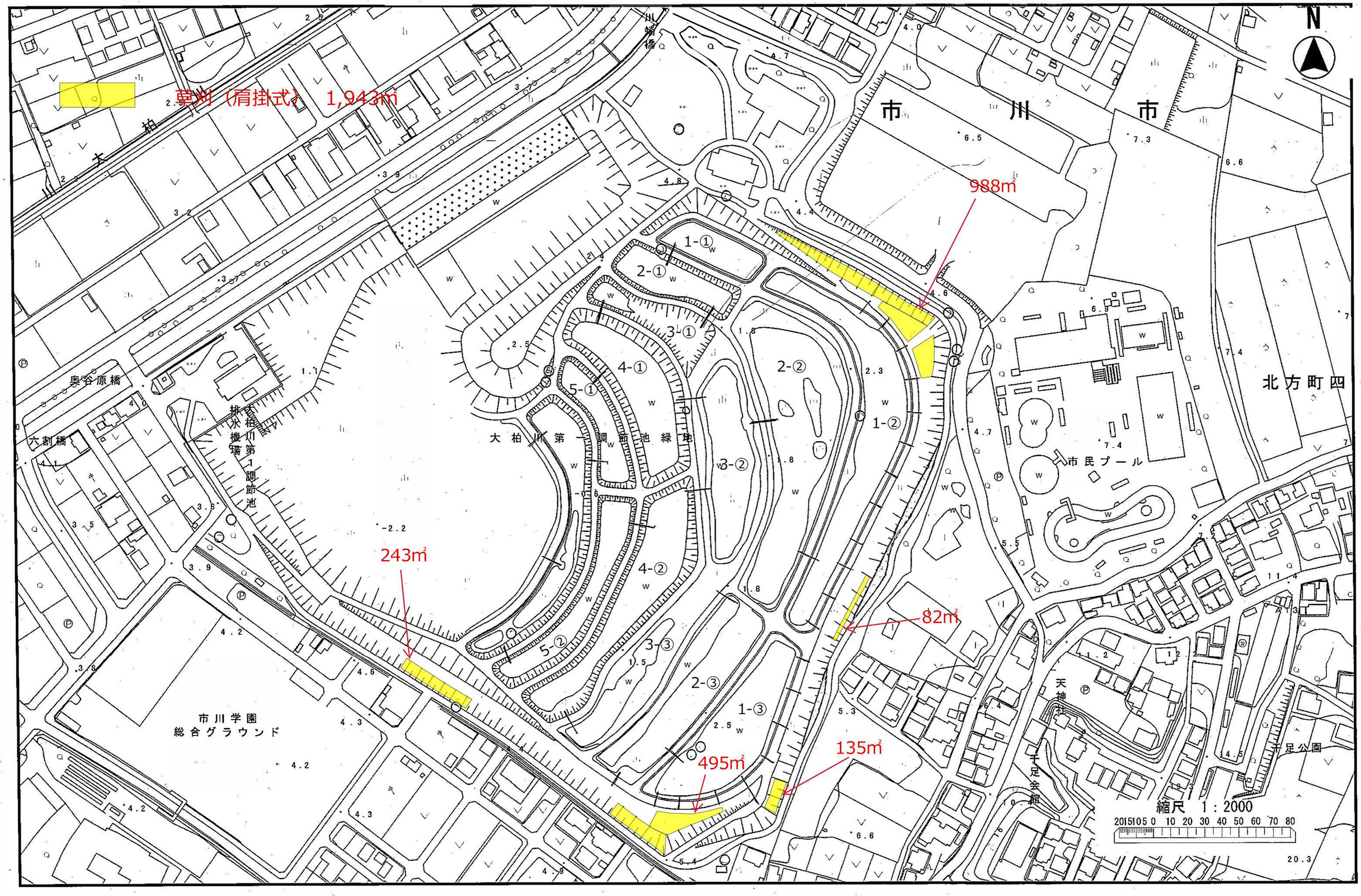
提出された入札参加資格確認資料は返却しない。

21. 問い合わせ先

市川市環境部生活環境整備課　電話０４７－７１２－６３０７

令和４年度　第１回　４・５月分　実施図(４月１２日～４月１４日)　　資料保 02.4 令和４年度実施図

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



令和４年度　第１期(6月 20日～　6月30日)　全体実施図

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：2m

草刈(ﾙﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ)　5,826m

草刈(肩掛式)　7,288m

水中草刈　257m



ヤブカンゾウ、ノカンゾウ残す



サクラ残す



ヤナギ、オオアカバナ残す



カラムシ残す



タコを残す



イタドリ残す



ヨモギ残す

令和４年度　第２期(7月 20日～　8月15日)　全体実施図（1/2）

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m

草刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）　2,434㎡

草刈（肩掛式）　15,967㎡

草刈（水中）　3,370㎡

耕起　2,080㎡

溝掘り工　71㎡



ヤブカンゾウ、ノカンゾウ残す



サクラ残す



ヤナギ、オオアカバナ残す



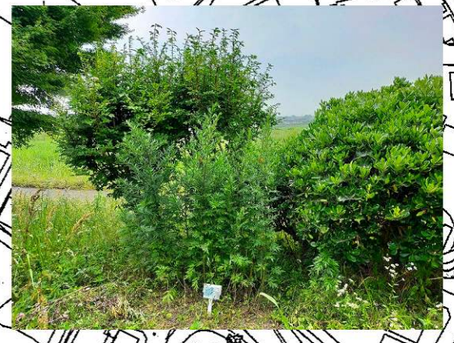
カラムシ残す



タコを残す



イタドリ残す



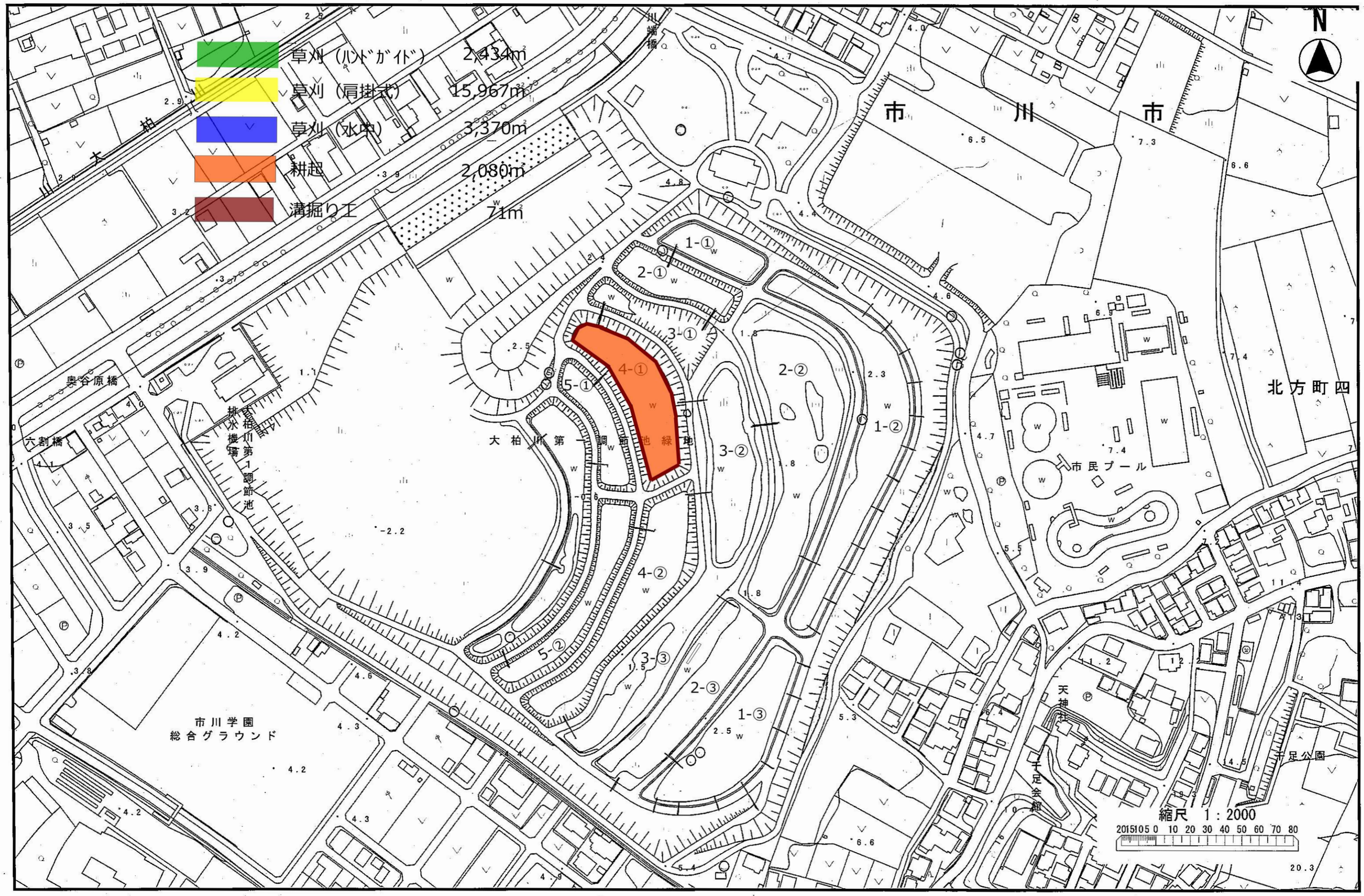
ヨモギ残す

縮尺　1：2000

2015105 0　10　20　30　40　50　60　70　80

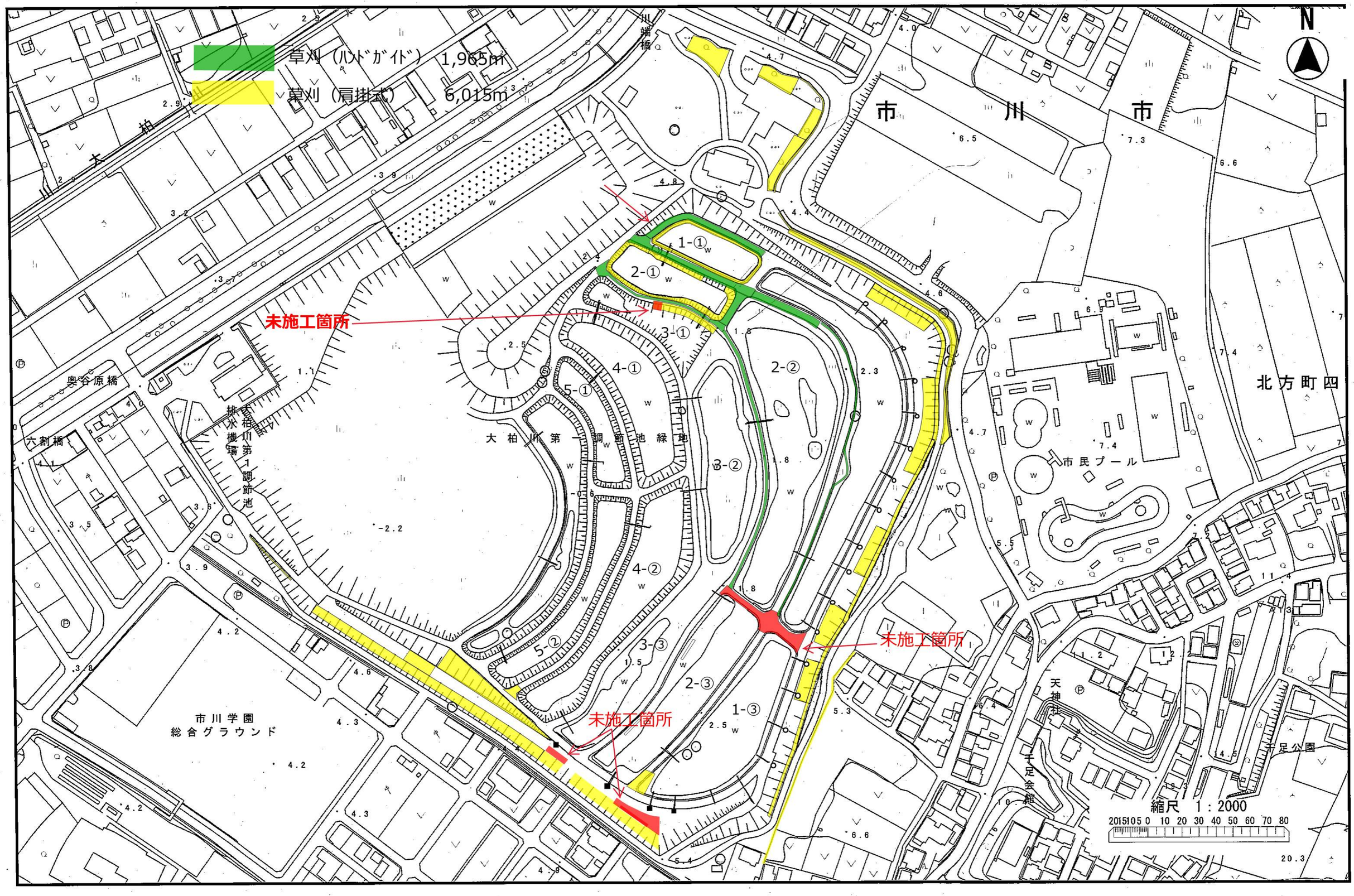
令和４年度　第２期(7月 20日～　8月15日)　全体実施図（2/2）

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



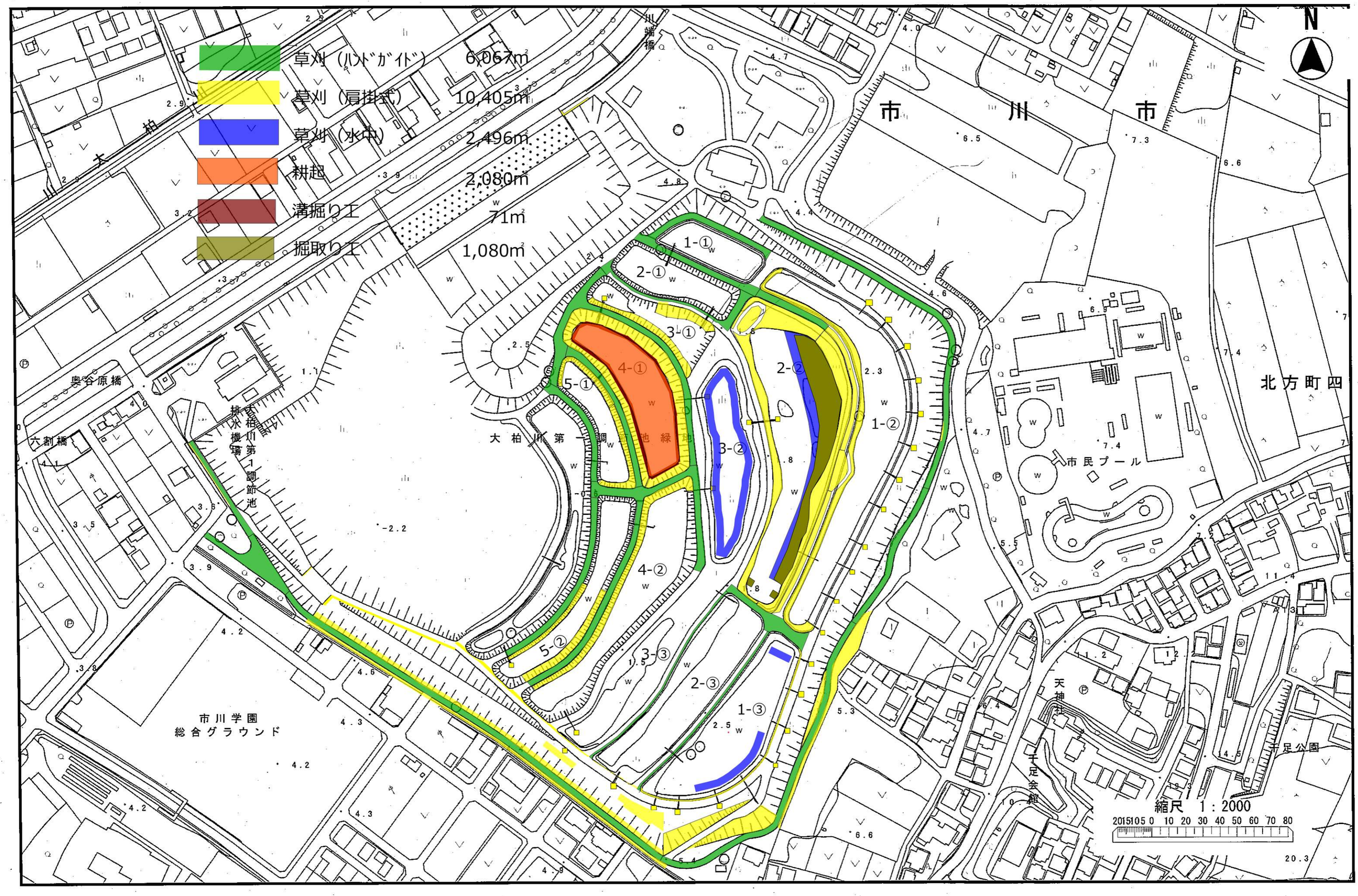
令和４年度　第３期(9月 1日～10月6日)　全体実施図

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



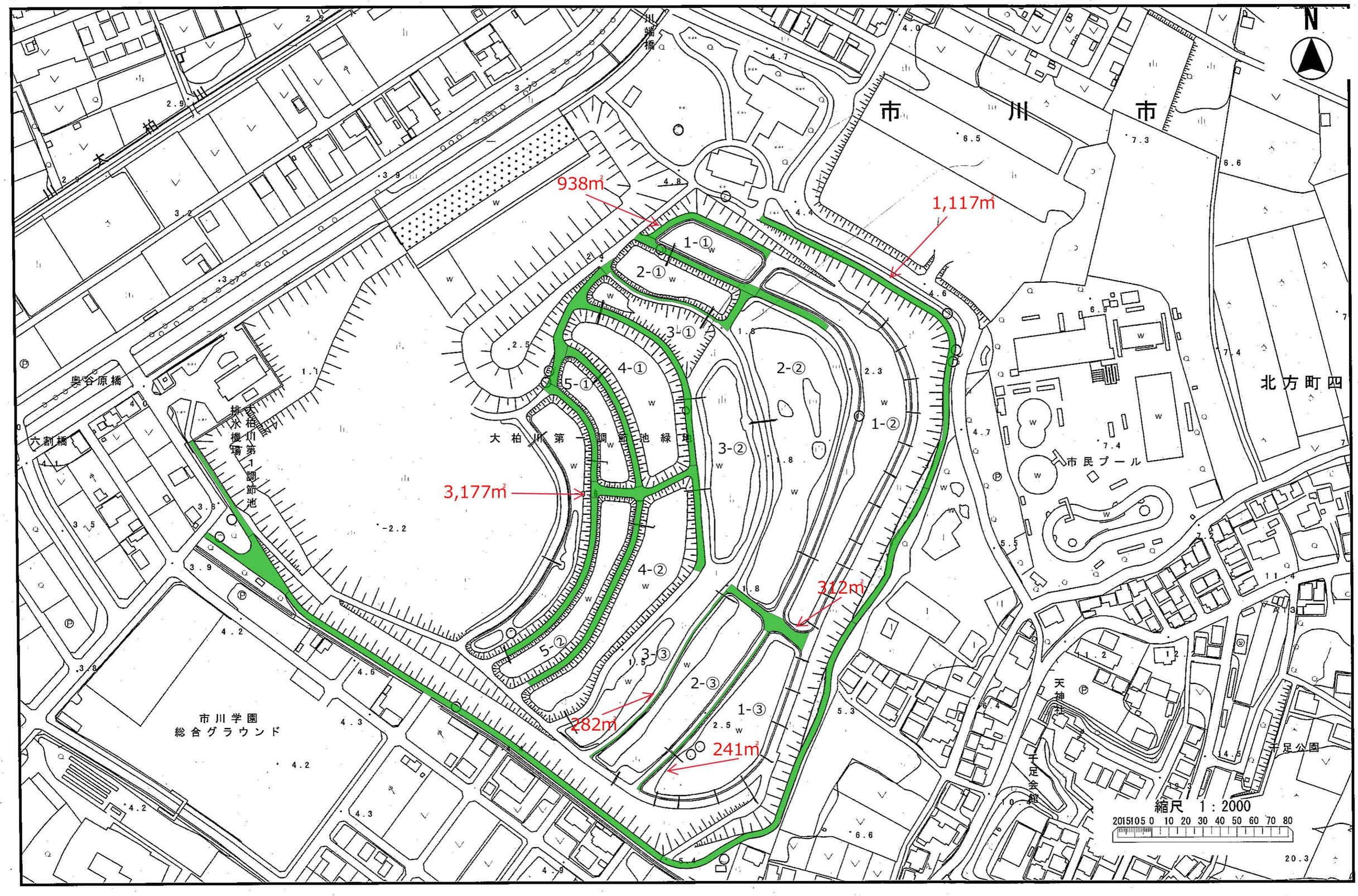
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　全体実施図

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



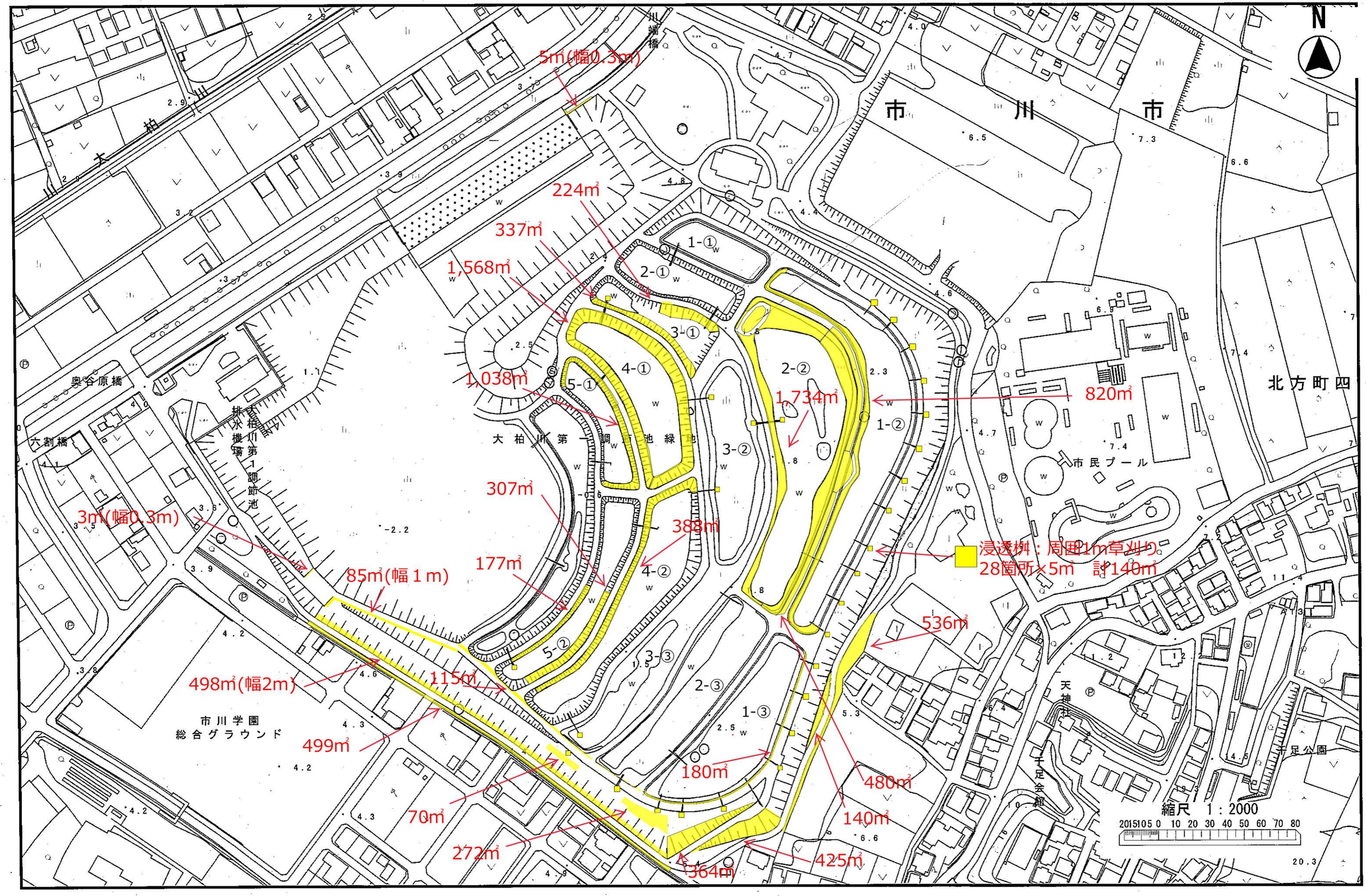
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図　草刈（ﾊﾝﾄﾞｶﾞｲﾄﾞ）（草刈面積：6,067㎡）

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



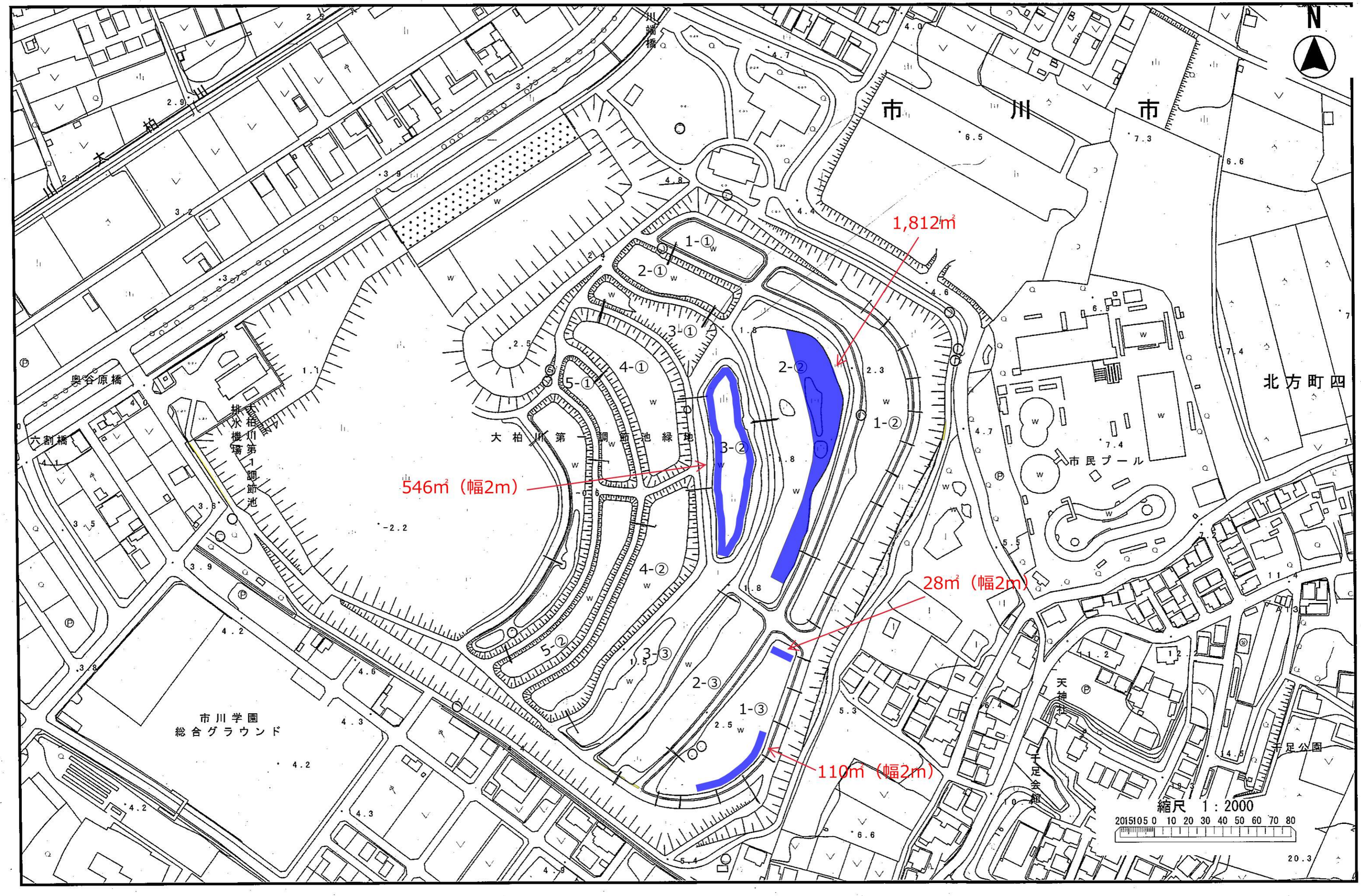
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図草刈（肩掛式）（草刈面積：10,405㎡）

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



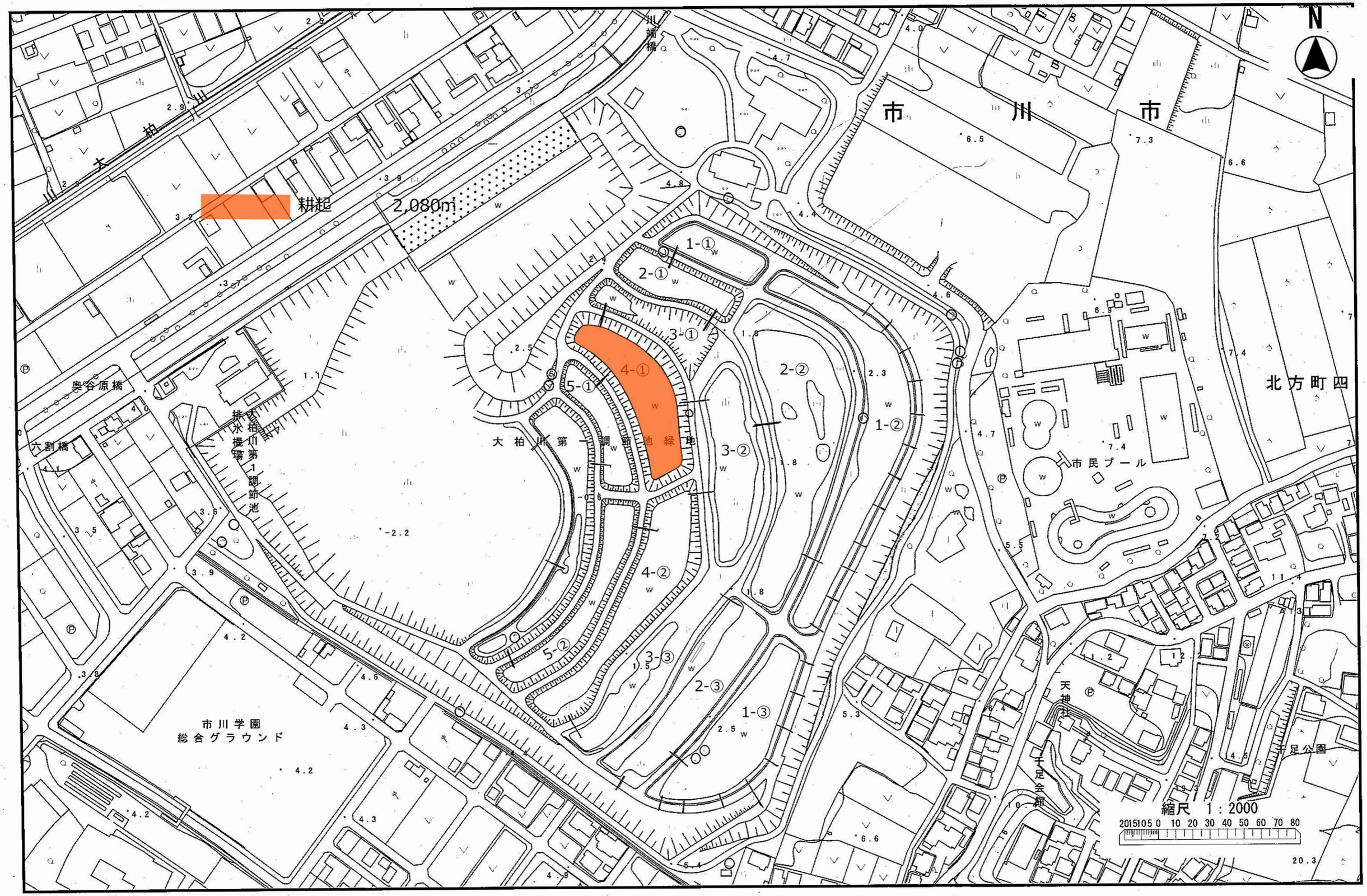
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図　水中草刈　（草刈面積：2,496㎡）

(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



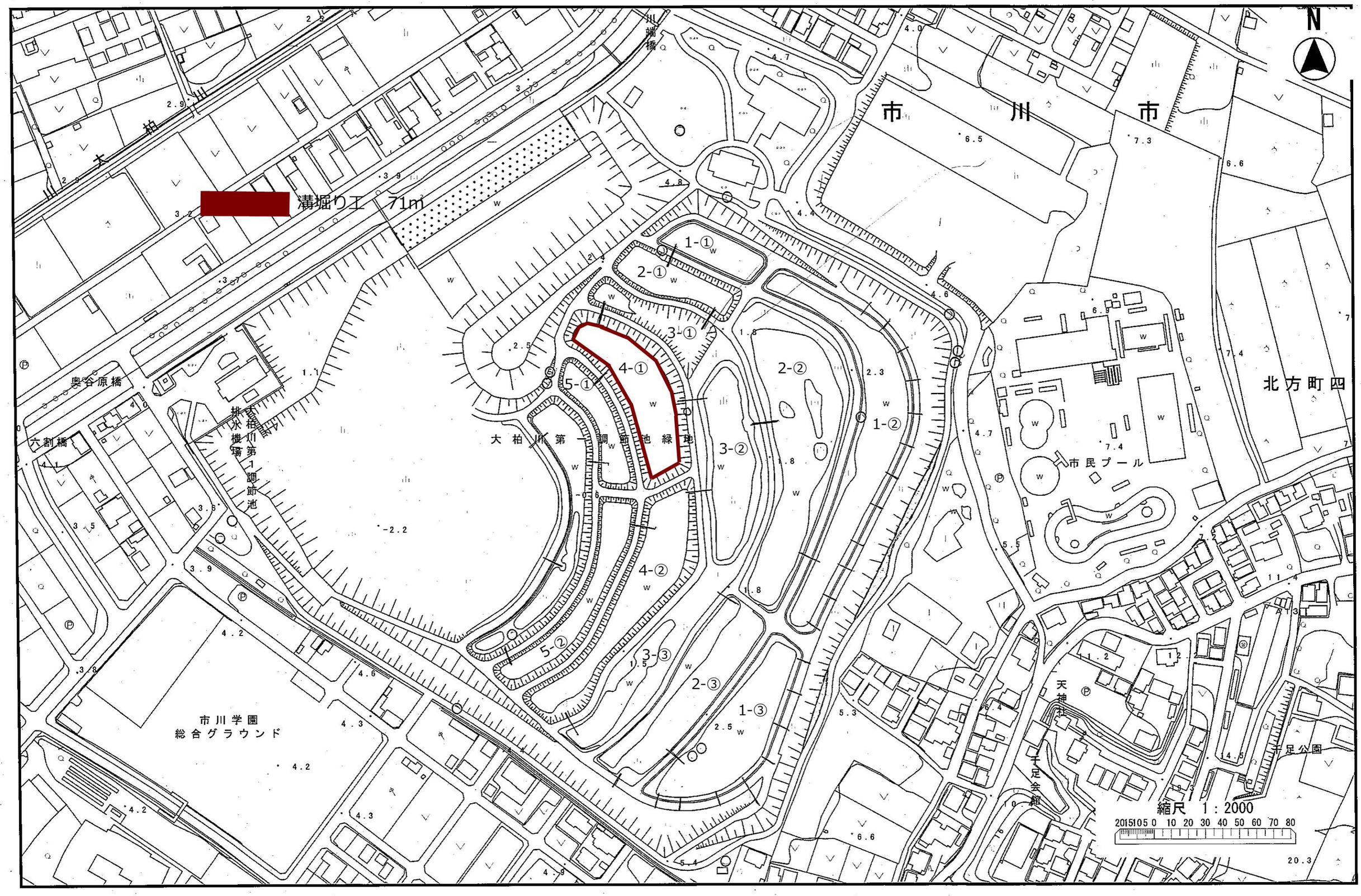
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図　耕起

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



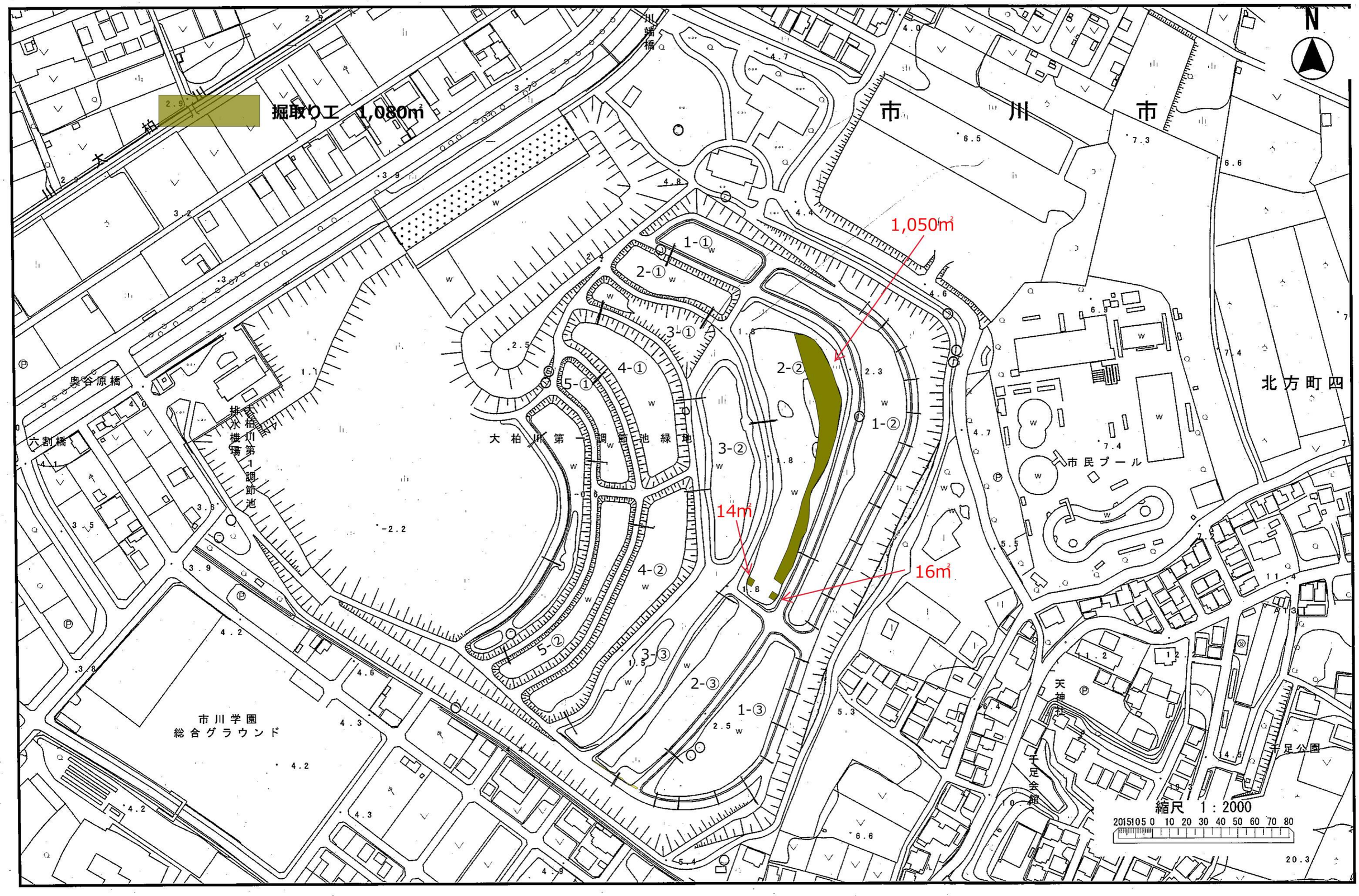
令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図　溝堀り工

※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



令和４年度　第４期(10月 20日～3月27日)　実施図　掘取り工

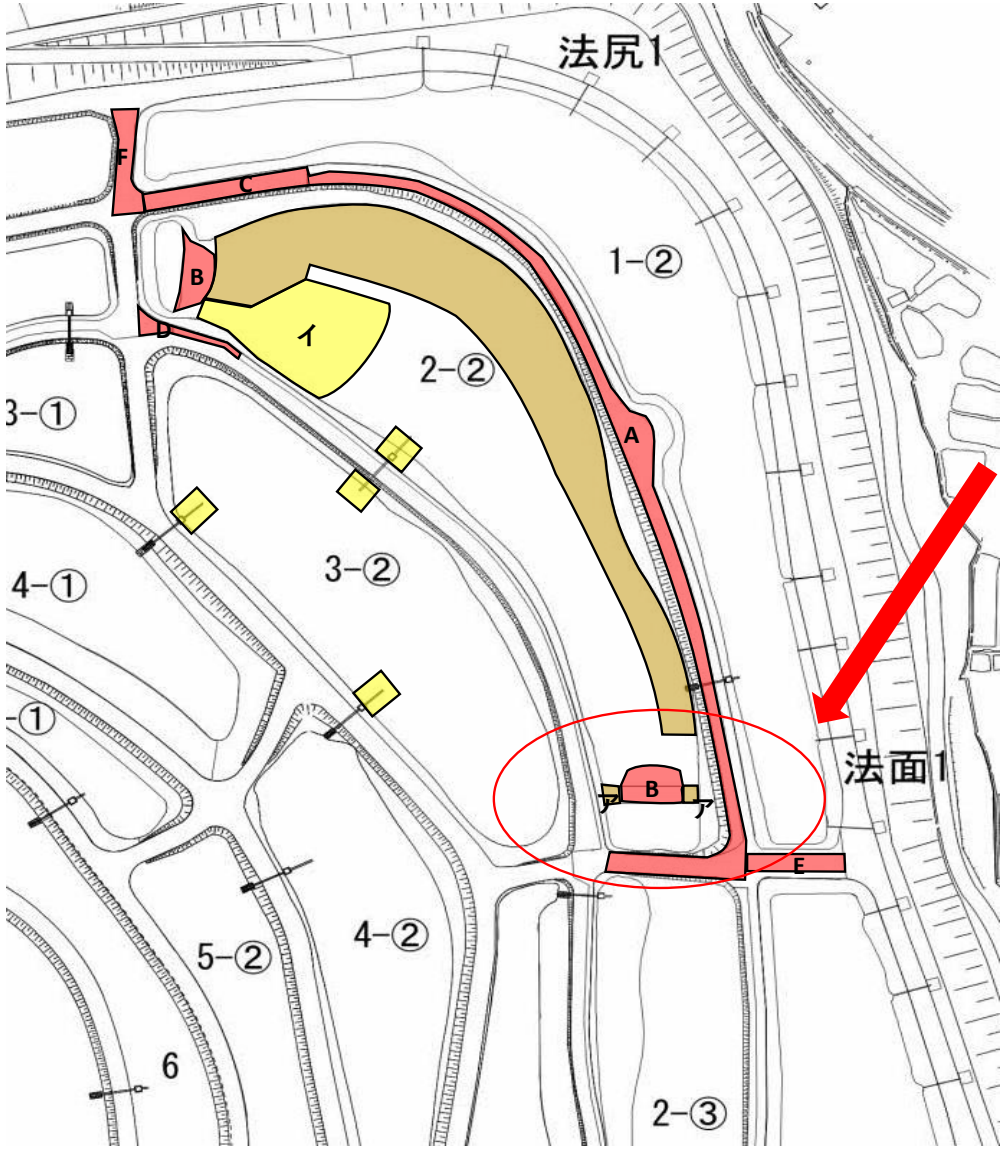
(※通路幅：1・2-①池通路間:4m、1・2-②、1・2-③、2・3-①池通路間：2m、2・3-②、2・3-③池通路間：1m



資料保 02.5　令和4年度出来高数量表　実施図と施工図の比

名称	規格	単位	1回目		2回目			3回目			4回目			5回目		
			施工図	実施図	施工図	実施図	差異	施工図	実施図	差異	施工図	実施図	差異	施工図	実施図	差異
		工程表	4/1-4/15	4/11,4/14	6/20-6/30	6/20-6/30		7/20-8/15	7/20-8/15		9/1-9/15	9/1-10/5		10/20-11/5	10/20-11/20	
		図面	4/1-4/15	4/12-4/14	6/20-6/30	6/20-6/30		7/20-8/10	7/20-8/10		9/1-9/10	9/1-10/6		10/20-11/5	10/20-03/27	
草刈（バンドガイド）		m^2			5,826	5,826	0	2,434	2,434	0	2,277	1,965	312	6,067	6,067	0
草刈（肩掛式）		m^2			7,259	7,199	60	15,967	15,967	0	6,329	6,015	314	10,433	10,405	28
水中草刈	肩掛式	m^2			125	125	0	3,359	3,370	-11				2,444	2,496	-52
耕起	トラクター	m^2						2,080	2,080	0				2,080	2,080	0
堀取り工		m^2												1,050	1,080	-30
溝掘り工		m^2						71	71	0				71	71	0
集草～処分作業	集草・運搬・処分	回		4月18日		7月10日			8月15日			10月10日			12月15日	

資料保 02.6 通路島間水路拡大依頼図面



赤色部　土砂置場
優先順位；A⇒B⇒C⇒D⇒E⇒F

黄色部　草刈り追加箇所イ
高径植物ヨシ繁茂部・ガマ草刈り箇所追加

黄色部　桝周りの草刈り箇所
参考として記載　仕様は周路1ｍ幅（桝仕様と同様）

茶色部　堀取り工追加部
ア追加理由
- 2−②池南の土盛りした箇所に子供が出入りし危険である。
- 入園者がこの範囲に入れないよう堀取り工して隔離する。
- 島の南北で池の水が共有できるため。